

水・人・歴史がおりなす

かしざま
神 崎

神崎市歴史文化遺産を活かした
まちづくり基本計画

平成22年2月

佐賀県神崎市

計画策定にあたって

神埼は、肥前風土記に荒ぶる神との和解により平和となり、のち「神埼郡」といわれるようになったと記述され、市内全域にわが国の歴史上非常に重要な歴史遺産が数多く残されている歴史豊かなところではあります。

国特別史跡吉野ヶ里遺跡、国名勝九年庵、国史跡姉川城跡などの指定文化財をはじめ、弥生時代のクニを形成する遺跡群、神埼の地名が生まれた古代「神埼郡」の役所跡などの遺跡群があります。さらに、現在の神埼の基盤となった中世には、皇室領荘園「神埼荘」・脊振山岳信仰遺跡群、佐賀平野独特の農村景観である環濠集落群と中世の勢福寺城跡を中心とした城館群も残されています。近世には、長崎街道が整備され神埼宿・境原宿が形成されています。また、地域に所在する神社仏閣や石仏などの石造物、名木・古木や昔話・伝説など、人々の生活の中で生まれ育ち、長い年月の中で受継がれてきた地域固有の歴史も、神埼の貴重な歴史遺産・文化遺産として存在しています。

これらの歴史遺産は、神埼の誇りと魅力であり、市民がその価値を共有化し、活かしながら、未来へ引き継ぐことが重要です。

神埼市では、この歴史遺産をまちづくりの重要な資源とし、その価値を市民が再認識することで、郷土に対する誇りと愛着を持つ人づくりと、歴史遺産と一体となった豊かな環境と景観を守り育て、地域づくりを行い、人が行き交う活力ある神埼を目指します。

平成22年2月28日

神埼市長 松本茂幸

目次

1部 まちづくりの将来像

I 歴史文化遺産を活かしたまちづくりの目指すもの	2
1 まちづくりの基本理念	2
2 まちづくりの基本方針	3
3 計画の位置づけ	4
II 歴史文化遺産を活かしたまちづくりの背景	5
1 地理的環境	5
2 現状と課題	6
3 まちづくりの素材	7
(1)歴史文化遺産の考え方	7
(2)神埼の歴史変遷と概要	8
(3)まちづくりの資源	12
4 まちづくりの基盤となる歴史文化遺産群エリア設定	22

2部 まちづくりの計画

III 歴史文化遺産を活かしたまちづくりの計画	28
1 計画の考え方	28
2 まちづくり基本計画の全体構成	28
3 施策計画	29
IV まちづくりの展開	39
1 展開の方向	39
2 まちづくりの推進体制	39
V まちづくりの施策展開	40
1 まちづくり活動のストーリーと施策展開	40
ストーリー 1 「邪馬台国を彷彿とさせる弥生の遺跡群」	41
ストーリー 2 「肥前風土記に見る神幸の地と皇室領荘園「神埼荘」	45
ストーリー 3 「脊振山の山岳信仰」	53
ストーリー 4 「神埼の城館跡」	56
ストーリー 5 「堀に刻まれた中世神埼の風景」	61
ストーリー 6 「長崎街道神埼宿と境原宿」	64
ストーリー 7 「佐賀の近代化を物語る遺産」	68
ストーリー 8 「神埼の歴史地名」	73
ストーリー 9 「神埼の民俗」	75
ストーリー10 「神埼の歴史の道」	77
ストーリー11 「神埼の源 城原川と水利」	79
ストーリー12 「神埼の偉人たち」	82
ストーリー13 「神埼の自然と生き物たち」	85
ストーリー14 「神埼を体感する眺望」	87

参考資料

1 部

まちづくりの将来像

I 歴史文化遺産を活かしたまちづくりの目指すもの

1 まちづくりの基本理念

水・人・歴史がおりなす 神埼

神埼を流れる水は、先人たちの自然と共存した活きた生活の歴史であり、現在も活着ている人々の営みと一体となった大切な資源です。

このような水と人のかかわりの歴史は、これからの神埼のまちづくりを定める上で重要な要素であり、市民がその価値を識り・共有し、神埼の誇と魅力を培い、未来へ伝えていくことが重要です。

そして、人づくりと、豊かな環境と景観を守り育て市民が愛着を持ち続けることのできるまちを目指します。

2 まちづくりの基本方針

基本理念を達成するため、3つの基本方針を定めます。

基 本 方 針

基本方針 1 郷土に誇りと愛着を持つ人を育てる

- ・ まちづくりは人づくりです。
- ・ 歴史の「輪」づくりを通じて、市民一人ひとりが語り伝えることができるようにします。
- ・ まちづくりを牽引するリーダーを育てていきます。
- ・ 神埼の歴史遺産の情報をまとめ、市民に分かりやすく提供していきます。

基本方針 2 水と歴史がおりなす、豊かな環境と景観を守り育てる

- ・ 歴史遺産と水環境を大切にします。
- ・ 神埼の水と人と歴史がおりなす遺産を活かし、歴史景観づくりを進めます。
- ・ このことにより、神埼の誇りと魅力を未来へ繋ぎます。

基本方針 3 人が行き交い、活力ある地域を育てる

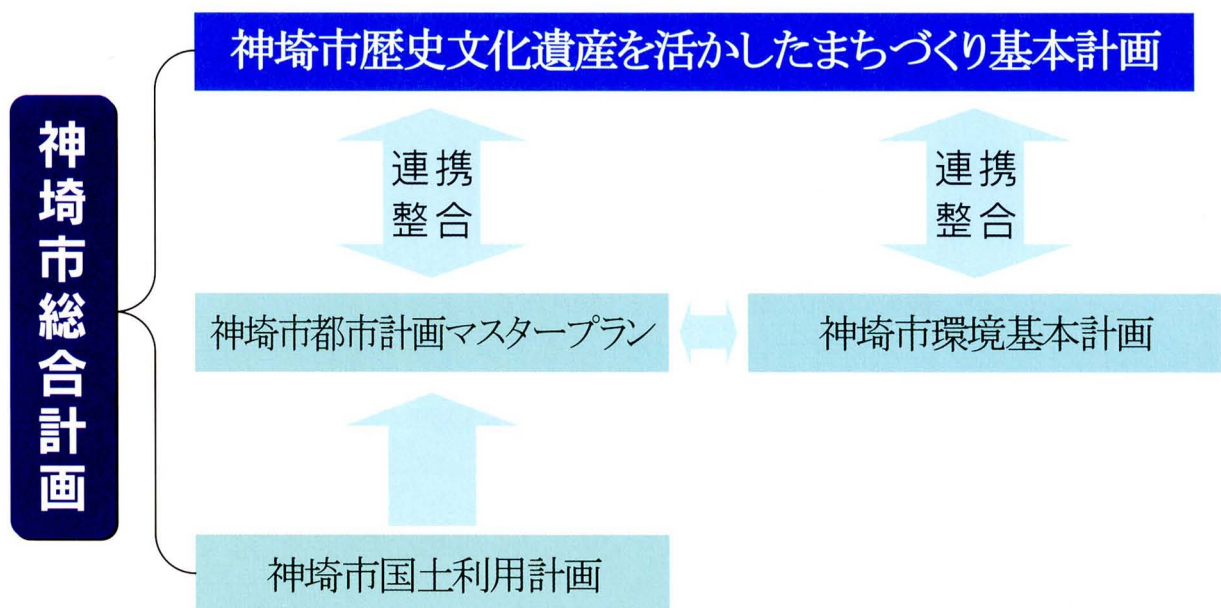
- ・ 水と歴史を活かし、地域おこしを活発にします。
- ・ 多くの人が集い、交流する活力ある地域づくりを目指します。
- ・ 市民協働のまちづくりを目指します。

3 計画の位置づけ

神崎市総合計画では、基本理念のひとつとして「次世代を担う人材を育て、市民がまちづくりの主役となる」を掲げ、その実現のための基本方針として「創造性豊かで輝く人の育つまちづくり」「みんなで協働して進めるまちづくり」を推進することとしています。

この歴史文化遺産を活かしたまちづくり基本計画は、この基本方針に沿って、歴史遺産をまちづくりの重要な資源とし、その価値を市民が再認識することで、郷土に対する誇りと愛着を持つ人づくりと、歴史遺産と一体となった豊かな環境と景観を守り育て地域づくりを行い、人が行き交う活力ある神崎を目指すものです。

神崎市では、神崎市都市計画マスタープランや環境基本計画の策定をすすめています。本計画と連携・整合を図りまちづくりを進めます。



Ⅲ 歴史文化遺産を活かしたまちづくりの背景

1 地理的環境

神崎市は、佐賀平野東部地区に位置し、平成18年3月20日に旧脊振村・旧神埼町・旧千代田町が合併し誕生しました。北は福岡市と、西は佐賀市、東は吉野ヶ里町・みやき町、さらに筑後川を境として福岡県久留米市・大川市に隣接する、面積125.01Km²・人口約33,000人の市です。

市北部には、標高1,055mの脊振山を盟主とする脊振山系が位置し、杉・シイ・ブナなどの自然林と植林による広大な山林地帯を形成しています。市南半部一帯は、低平で広大な佐賀平野が形成され、有明海と雲仙岳をも遠望される山から平野さらには海と雄大な空間を有しています。

脊振山に源を發する城原川は、市の中央部を流れ、山間部では段丘地形や溪谷を形成し、平野部では肥沃な水田地帯を潤しています。また、脊振山系から流れる田手川が南流し、城原川と共に筑後川に繋がっています。さらに、城原川中・下流域から分岐する馬場川・中池江川及び三本松川が流れ、南部地区一帯には堀(クリーク)が發達し、特徴的な農村景観である環濠集落が形成されています。また、各集落内にも大小の水路が作られ、ゆったりとした水の流れの佇まいを持っています。

交通基盤としては、佐賀平野を東西に横断する国道34号線とJR長崎本線が市のほぼ中央部を走り、山麓部に長崎自動車道が並走し東西の大動脈となっています。市の北に隣接する福岡市とは県道21号線や国道385号線で繋がり、佐賀市と久留米市を結ぶ国道264号線が市南部を走っています。また、佐賀空港まで20Km圏内で、福岡空港・福岡都市圏へも1時間以内でアクセスすることができます。



2 現状と課題

三町村合併により誕生した神崎市は、古くは旧石器時代から近世に至る数多くの歴史遺産が残されています。我が国最大規模の環壕集落跡である吉野ヶ里遺跡は、『魏志倭人伝』の記述と一致することから邪馬台国ではないかと全国民の関心が高まりました。現在、国特別史跡指定を受け国営吉野ヶ里歴史公園として整備が進められ、年間を通じて多くの見学者が訪れています。この吉野ヶ里遺跡の発見と保存・整備は、遺跡などの歴史遺産の保存整備の新しい方向性を示すとともに、国民の多くが歴史に関心を持ち、まちづくりの資源としての活用へ大きく転換していききました。

このような流れの中、旧三町村の住民意識も遺跡や歴史遺産に対する関心と、神崎の誇りとしての意識の高まりを見せましたが、神崎に残されている身近な歴史資源として十分に活かしきれていないのが現状といえます。

その原因としては、市民が神崎の歴史を知ることのできる情報と機会が少なく、歴史遺産の価値について充分認識されず現在に至っていること、そして、歴史遺産が保護されまちづくりの資源となりえても、十分に活用が図られてこなかったからといえます。

歴史遺産は後世に守り伝えるべき貴重な財産であり、その保護することは非常に重要です。しかし、単に保護するだけでは、活きた神崎の誇り・魅力となりません。

このためには、市民が神崎の歴史を知り、その価値を多くの方が共有し、これからも生活の中で活かし続けて後世に繋いでいくことが重要です。

この価値の共有は、人から人へと繋げていくものであり、その人をひとりでも多く育てることが、まちづくりにとって最も重要な取り組みと考えます。

郷土に誇りと愛着を持つ人が育つことが、歴史遺産をまちづくりの遺産であり資源として、市民が主体的に守り・活かす地域活動が始まり、歴史遺産と様々な資源を活かした新たな文化や産業が生まれ、そこに多くの人が行き交うまちづくりが達成できるものと考えます。

3 まちづくりの素材

(1) 歴史文化遺産の考え方

神崎市には、多様な風土の中で形成された旧石器時代より近代まで連綿と続く多くの遺産が残されています。この遺産は、地域の個性を現わす歴史的・文化的・自然的遺産であり、先人により育まれ現代まで受け継がれてきた、生活の知恵・経験・活動の成果であり、遺産が存在する環境を含め産業や食文化など様々な資源で構成される地域文化の基盤をなすものです。

神崎は、脊振山から流れる川と平野の堀の水と人の生活の歴史を特性としており、「水と人と歴史がおりなす」水と共生した歴史のまちを目指しています。

本計画では、市民が神崎の誇りと魅力と感じている歴史と水を「歴史文化遺産」として一体的に捉え、周辺に存在する様々な資源と結びつけてまちづくりの素材として活かしていきます。

まちづくりの素材

- 歴史遺産（遺跡・神社・寺・石造物・古文書・仏像など）
- 民俗遺産（生活様式・昔話・地名・芸能・年中行事・方言など）
- 自然遺産（水・地形・地質・動植物など）
- 景 観（農村・山村・里山・宿場・自然景観など）
- 産 業（農林水産業・商工業など）
- 食 文 化（特産物・伝統食文化・産物など）
- 人 物（偉人・現在の匠・活動団体・人など）
- 施 設（公園・公民館・社会教育施設など）

(2) 神埼の歴史変遷と概要

神埼市は、大陸との玄関口である北部九州に位置し、有明海に面する広大な佐賀平野と玄界灘に面する脊振山系の山間部を要しています。古くから玄界灘・有明海を介した大陸との交流関係が見られ、歴史上大変重要な地域と位置づけられます。

このような地理的位置付の中で神埼の歴史は以下のような変遷を持っています。

❖ 旧石器時代(人の生活の歴史が始まる時代)

旧石器時代は、約13,000年前以前の石器を用いた狩猟採集生活の時代です。

神埼の地に人々の生活が始まる時代で、これまでの調査で約25,000年前頃まで遡ることが確認されています。

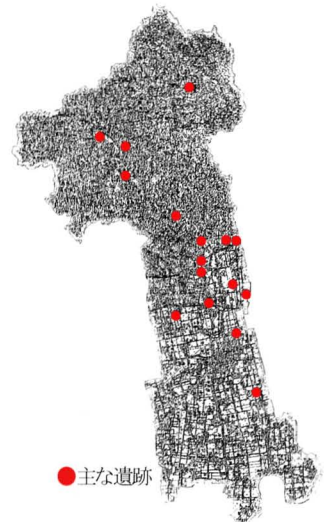
この時代の遺跡は、神埼町志波屋～尾崎地区の脊振山麓部に、現在までに11箇所の遺跡が確認されています。神埼の旧石器時代の遺跡は、九州と瀬戸内・近畿地方との関係を伺うことのできる重要な遺跡が多く存在しています。



❖ 縄文時代(定住生活が始まり、里山が形成される時代)

縄文時代は、約13,000年前から約2,600年前頃までの期間で、集落を作り定住生活が始まり、周辺の自然を管理しながら里山を形成する時代です。

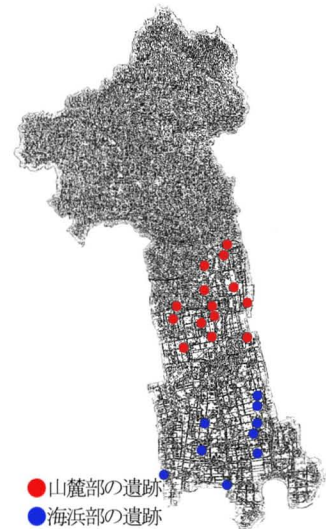
神埼には、山麓部から脊振町の城原川流域にこの時代の遺跡が確認されています。縄文時代草創期から後期頃の遺跡は、脊振地区の城原川流域と神埼町の北部山麓地帯に分布し、縄文時代晩期頃には、南部地区へ生活圏が広がっています。このことは、佐賀平野の形成・拡大の歴史と符合しています。



❖ 弥生時代(水稻農耕が始まり、クニが生まれる時代)

弥生時代は、紀元前4世紀(約2,600年前頃)から紀元3世紀の時期で、大陸から水稻農耕が伝わり農耕社会が発展し、邪馬台国のようなクニが形成される時代です。

神埼では、山麓部から平野部にかけて、吉野ヶ里遺跡を中心に山麓部の集落群と海浜部の集落群で構成した『魏志倭人伝』に見るクニを形成する多くの集落跡が確認されています。また、稲作と共に青銅器などの先進文化がいち早く伝わった地であり、弥生人の起源をも知ることのできる貴重な遺跡が存在しています。邪馬台国ではないかとも考えられている吉野ヶ里遺跡と周辺の遺跡群は、日本文化の原点である弥生時代社会を知ることのできる、わが国の歴史の中で重要な位置づけを持つ時代です。



❖ 古墳時代(巨大古墳の築造と、統一国家へ向かう時代)

古墳時代は、3世紀後半頃から7世紀末頃の期間で、地方の豪族が巨大な古墳を造り、国家的な統一への動きへと向かう時代です。

神埼では、神埼町北部一帯から千代田町にかけて多くの古墳や集落跡が確認されています。神埼町志波屋から岩田の山麓部には、約1,000基にも及ぶ大小の古墳が形成されています。神埼町志波屋に所在する伊勢塚は、6世紀代の豪族首長の墳墓であり、神埼を代表する前方後円墳です。また、吉野ヶ里町及び上峰町の目達原地区を本拠とした7世紀代の豪族である「筑紫の米多^{め たのくにのみやつこ}国造^{いくわ}」や「的」「曾根」など、的部・曾我氏との関係を伺うことのできる地名も認められ、当時の神埼と中央政権との関係を物語る重要性な遺産が残されています。



❖ 古代(統一国家が誕生し、地域行政としての神埼郡が成立する時代)

古代は、6世紀から11世紀中頃の期間で、律令制による統一国家が誕生し、全国を治める地方行政の仕組みが始まる時代です。

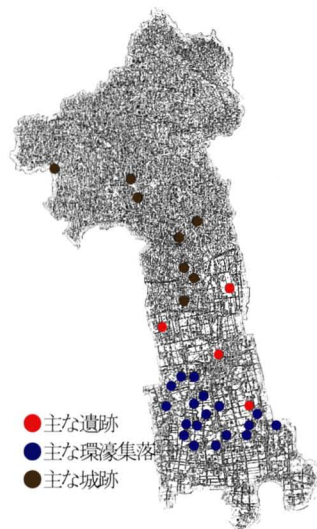
『肥前風土記』には、神埼郡に郷9所・駅家1所・烽火^{とぶひ}1所・寺1所が置かれたことが記述されています。郡役所と駅家跡は、神埼町馬郡・竹原地区で、烽火は日の隈山に、寺は吉野ヶ里町辛上に、さらに、南部の蔵戸・荒堅目には当時の港である「津」施設が設けられていたことが分かっています。836年には、勅使田^{ちよくしでん}として神埼郡の空閑地690町の開発が行われ、条里地名である「里」が付く地名がいまも息づいています。



❖ 中世(武家社会による支配と荘園経営の時代)

中世は、11世紀から17世紀初頭頃までの期間で、武士が発生し武家社会による政治が始まり、経済基盤となる荘園の経営が行われる時代です。

神埼では、勅使田^{ちよくしでん}を基盤とする旧神埼郡の三千町にも及ぶ大荘園である「神埼荘」などの経営が行われます。「神埼荘」は、代々皇室領として伝領され、平氏など時の権力者の経済基盤となり重要な荘園でした。14世紀頃に始まる環濠集落群の形成は、中世「神埼」の土地開発史と集落の形成を物語、九州を代表する脊振山岳信仰遺跡が脊振山に形成されています。



戦国期には、江上氏^{しょうにし}・少弐氏^{せうふくじじょうあと}などの居城である勢福寺城跡や松崎・横大路・荒谷城跡の山城跡が多く築かれています。

この中世の時代は、最も神埼の歴史特性を現す遺産・景観を形成しています。

なお、中世では、「神埼」とされた文献が多く、本計画でも中世については、「神埼」としています。

❖ 近世(江戸幕府の成立と街道・宿場が置かれた時代)

江戸時代は、17世紀初頭から19世紀後半の時期で、江戸幕府が成立し全国が統治され、東海道や長崎街道などの道路網と宿場の整備と、長崎出島による対外交流の時代です。

神崎には、市の中央部を東西に長崎街道が通り、神崎宿・新宿・境原宿が整備され、多くの人が行き交い交通・経済・文化の拠点として栄えます。神崎宿には、本陣・脇本陣が置かれ、多くの寺社仏閣・商家・住家で形成された千戸に及ぶ町並みを形成していました。また、筑前に至る脊振往還や小城に至る小城街道などの脇街道も設けられています。シーボルトや伊能忠敬なども長崎街道を通り、当時の神崎の様子を記録しています。

の中で重要な位置づけを持つ時代です。

❖ 幕末から近代(日本の近代化の時代)

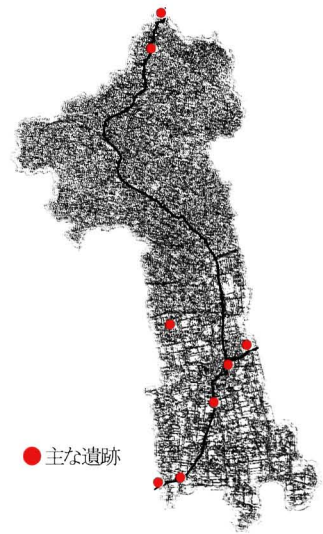
19世紀中頃の幕末から明治は、肥前佐賀が日本の近代化をリードし、日本の近代化が始まる時代です

幕末の神崎は、医者・蘭学者でわが国の西洋医学の導入と定着や佐賀藩の近代化に活躍した伊東玄朴や佐賀藩の砲術訓練場である岩田台場が設けられていました。

明治41年には、広滝発電所が建設され電力供給がはじまり、現在も九州最古の水力発電所として稼働しています。また、長崎本線・国道34号線の大動脈の開通により大きく近代化の流れが進みます。

大正時代には、神崎中心街に古賀銀行・大石銀行が開業しています。

れ、当時の神崎と中央政権との関係を物語る重要性な遺産が残されています。



(3)まちづくりの資源

❖ 指定文化財

国特別史跡1件・国指定5件・国登録文化財1件・県指定23件・市指定23件が指定され、神埼市の代表的な歴史文化遺産として、保存・活用を図っています。

国指定

(各指定文化財一覧には、神埼市に關係する指定文化財も含めています。)

	名 称	種 別	所 在 地(保管地)	指定年月日
1	吉野ヶ里遺跡	特別史跡	神埼市神埼町鶴・志波屋	平成3年5月28日
2	佐賀県吉野ヶ里遺跡墳丘墓出土品	重要文化財(考古)	佐賀県立博物館	平成3年6月21日
3	帯隈山神籠石	史跡	神埼市神埼町尾崎	昭和26年6月9日
4	姉川城跡	史跡	神埼市神埼町姉川	平成21年11月20日答申
5	九年庵	名勝	神埼市神埼町の	平成7年2月21日
6	カササギ生息地	天然記念物	神埼市	大正12年3月7日

国登録文化財

	名 称	種 別	所 在 地	指定年月日
1	福成歯科医院(旧古賀銀行神埼支店)	建造物	神埼市神埼町神埼	平成13年10月29日

県指定

	名 称	種 別	所 在 地(保管地)	指定年月日
1	伊勢塚	史跡	神埼市神埼町志波屋	昭和28年11月3日
2	伊東玄朴旧宅	史跡	神埼市神埼町の	昭和48年4月23日
3	吉野ヶ里遺跡	史跡	神埼市神埼町志波屋	平成8年11月15日
4	高志神社遺跡	史跡	神埼市千代田町下板	平成12年4月28日
5	白角折神社の楠	天然記念物(植物)	神埼市神埼町城原	昭和40年7月23日
6	木造薬師如来坐像及脇侍菩薩立像	重要文化財(彫刻)	神埼市神埼町神埼	昭和28年11月3日
7	石造肥前鳥居(櫛田宮)	重要文化財(建造物)	神埼市神埼町神埼	昭和39年5月23日
8	神埼町宝剣社の銅剣	重要文化財(考古)	神埼市神埼町神埼	昭和55年3月19日
9	朝日古墳出土遺物	重要文化財(考古)	佐賀県立博物館	昭和56年3月16日
10	吉野ヶ里出土銅剣	重要文化財(考古)	佐賀県立博物館	昭和57年3月19日
11	川寄吉原遺跡出土鐔形土製品	重要文化財(考古)	佐賀県立博物館	昭和59年3月21日
12	川寄若宮遺跡出土鐔形土製品	重要文化財(考古)	佐賀県立博物館	昭和59年3月21日
13	利田柳遺跡出土鐔形土製品	重要文化財(考古)	神埼市教育委員会	昭和59年3月21日
14	詫田西分遺跡出土鐔形土製品	重要文化財(考古)	神埼市教育委員会	昭和59年3月21日
15	姉遺跡出土銅矛鏃型・銅劍鏃型	重要文化財(考古)	神埼市教育委員会	昭和60年3月20日
16	脊振山経塚群1号経塚出土銅製経筒、紙本経	重要文化財(考古)	佐賀県立博物館	昭和61年11月5日
17	黒井遺跡出土梯子	重要文化財(考古)	神埼市教育委員会	平成6年3月31日
18	詫田西分遺跡出土木製品	重要文化財(考古)	佐賀県立博物館	平成6年3月31日
19	高志神社遺跡甕棺墓出土遺物一括	重要文化財(考古)	神埼市教育委員会	平成12年4月28日
20	櫛田宮神幸祭絵馬	重要有形民俗文化財	神埼市神埼町神埼	昭和54年3月31日
21	仁比山神社の御田舞	重要無形民俗文化財	神埼市神埼町の	昭和34年3月20日
22	太神楽	重要無形民俗文化財	神埼市神埼町尾崎	昭和41年4月23日
23	高志狂言	重要無形民俗文化財	神埼市千代田町下板	昭和46年3月28日

市指定

	名 称	種 別	所 在 地(保管地)	指定年月日
1	二子遺跡	史跡	神崎市神崎町城原	昭和45年2月17日
2	ひのはしら一里塚	史跡	神崎市神崎町田道ヶ里	平成19年3月31日
3	金剛力士像	重要文化財(彫刻)	神崎市神崎町の	昭和45年2月17日
4	櫛田宮文書	重要文化財(古文書)	神崎市神崎町神崎	昭和48年2月1日
5	仁比山神社文書	重要文化財(古文書)	神崎市神崎町の	昭和48年2月1日
6	黒井遺跡出土弥生土器	重要文化財(考古)	神崎市千代田町直鳥	昭和61年9月1日
7	上黒井遺跡出土朝鮮系無文土器	重要文化財(考古)	神崎市教育委員会	平成4年10月1日
8	志波屋一の坪遺跡出土神崎厨へら書土器	重要文化財(考古)	神崎市教育委員会	平成20年3月31日
9	志波屋六本松古墳群出土銅鏡2面	重要文化財(考古)	神崎市教育委員会	平成20年3月31日
10	若宮神社肥前鳥居	重要文化財(建造物)	神崎市千代田町詫田	平成2年3月31日
11	下村湖人生家	重要文化財(建造物)	神崎市千代田町崎村	平成3年3月30日
12	正一位若宮神社肥前鳥居	重要文化財(建造物)	神崎市千代田町境原	平成4年3月31日
13	六地藏観音像	重要文化財(建造物)	神崎市千代田町境原	平成11年3月31日
14	眼鏡橋	重要文化財(建造物)	神崎市脊振町広滝	平成21年9月1日
15	縮元行列	重要無形民俗文化財	神崎市神崎町神崎	昭和45年2月17日
16	横武の百手祭	重要無形民俗文化財	神崎市神崎町横武	昭和48年2月17日
17	真龍寺のキンモクセイ	天然記念物	神崎市神崎町志波屋	昭和48年2月1日
18	唐香原のコウヤマキ	天然記念物	神崎市神崎町尾崎	昭和50年3月30日
19	仁比山神社のクスノキ	天然記念物	神崎市神崎町の	昭和56年7月18日
20	花浦のヤマザクラ	天然記念物	神崎市神崎町の	昭和56年7月18日
21	小淵のヤマモモ	天然記念物	神崎市神崎町の	昭和56年7月18日
22	貴別当神社のアベマキ	天然記念物	神崎市千代田町下西	平成6年3月31日
23	貴別当神社のイチイガン	天然記念物	神崎市千代田町下西	平成6年3月31日

22世紀に残す佐賀県遺産

	名 称	種 別	所 在 地	認定年度
1	ひのはしら一里塚	建造物	神崎市神崎町田道ヶ里	平成17年度認定
2	仁比山神社の仁王門	建造物	神崎市神崎町の	平成17年度認定
3	福成歯科医院(旧古賀銀行神崎支店)	建造物	神崎市神崎町神崎	平成21年度認定
4	下村湖人生家	建造物	神崎市千代田町崎村	平成21年度認定

❖ 歴史遺産

遺跡

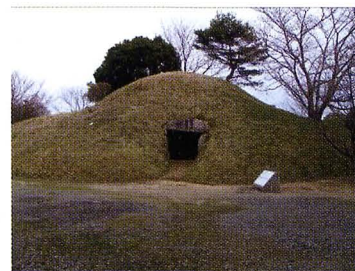
集落跡・貝塚・墳墓・城跡など過去の人間の営みが残る遺跡は、旧石器時代 11遺跡・縄文時代52遺跡・弥生時代99遺跡・古墳時代68遺跡・古代43遺跡・中世83遺跡・近代5遺跡の361箇所が、現在までに確認されています。



国特別史跡 吉野ヶ里遺跡



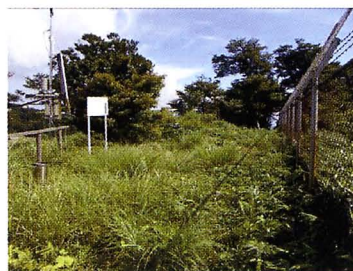
国史跡 姉川城跡



県史跡 伊勢塚



市史跡 ひのはしら一里塚



春振山岳信仰 春振経塚遺跡



弥生海浜拠点集落詫田西分遺跡

神社

市内には、歴史上重要な神社・仏閣が多く存在します。神埼荘に関する櫛田宮・高志神社・白角折神社をはじめ、仁比山神社・背振神社・後鳥羽神社・天満宮など現在206箇所が存在します。



背振神社



仁比山神社



白角折神社



櫛田宮



高志神社



若宮神社

仏 閣

寺としては、脊振山岳信仰関係の寺として、脊振山頂部に建立されていた上宮東門寺跡、足利尊氏により全国に建立された、肥前国の安国寺が神埼町朝日地区にあります。また、江上家種の菩提寺である種福寺や少弐冬尚を祀る真正寺、江戸時代の神埼宿脇本陣となった真光寺・浄光寺などがあります。



肥前国安国寺



種福寺



浄光寺

建造物

歴史的建造物は、幕末の蘭学者の伊東玄朴旧宅、九州最古の現役煉瓦造水力発電所広滝第1発電所、大正時代の銀行建築で国登録文化財である福成歯科医院(旧古賀銀行神埼支店)、大正期から昭和の文学者・教育者である下村湖人生家などがあります。このほか、長崎街道神埼宿に大正期から昭和初期にかけての商家・住家建築が見られ、当時の面影を残しています。しかし、佐賀平野の農家建築であるグド造りの建物は、ほとんど残されていません。



県史跡 伊東玄朴旧宅



市重要文化財 下村湖人生家



国登録文化財 福成歯科医院



広滝発電第1発電所



明治期の商家建築



商家建築

石造物

市内には、神社・仏閣に鳥居・灯籠・狛犬などや、集落内の路脇などに祀られる地蔵・えびす像・九郎神などの民間信仰の対象として建立された石造物が多数残されています。

櫛田宮石造肥前鳥居は県重要文化財に指定され、県内最古級の肥前鳥居です。また、独特の形態を持つ肥前狛犬も市内各所に見られます。脊振町の城原川に架かる眼鏡橋は、市内唯一の石造眼鏡橋として市重要文化財に指定を受けています。



県重要文化財 石造肥前鳥居



冠者神社 肥前狛犬



市重要文化財 眼鏡橋

仏像・古文書

仏像としては、県重要文化財指定の木造薬師如来坐像および脇侍菩薩立像、仁比山神社参道に位置する仁王像は、県内最古の仁王像として市重要文化財に指定されています。このほか、市内各地の寺社や祠に近世頃の多くの仏像が信仰の対象として現在も守りつがれています。古文書・典籍類は、櫛田宮文書・仁比山神社文書・高志神社文書をはじめ中世から近世期の古文書類が現在までに415点ほどが確認されています。



市重要文化財仁比山神社の仁王像



県重要文化財木造薬師如来坐像

名勝

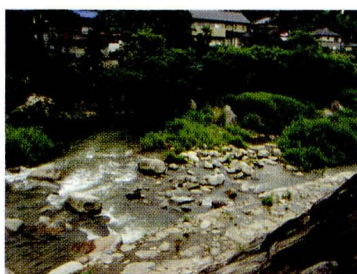
名勝としては、明治期の実業家伊丹氏の別邸である九年庵が国指定名勝に指定され、神埼の代表的な観光地として、紅葉の時期には多くの方が訪れています。



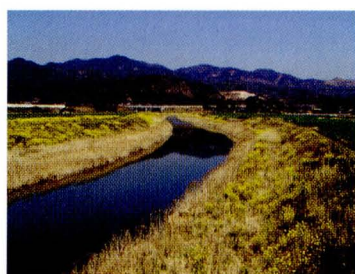
国名勝 九年庵

水利遺産

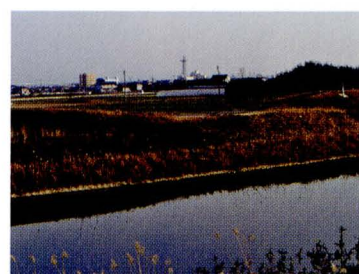
市内には、5本の河川が流れています。脊振山に源を発する城原川は、神埼の悠久の歴史を育んだ神埼にとって重要な河川です。神埼荘の置かれた中世の時代には、朝日地区の城原川沿いに白角折神社、神埼中心街に櫛田宮、馬場川・田手川沿いに高志神社が設けられました。江戸時代には、成富兵庫茂安により神埼の水利施設が整備され、大井手堰・殿の井手・三千石井堰や百間土井などの堰や堤防、また洪水の際の水を調整する野越が築かれています。下流域では、農地への用水のための草堰などの堰・樋管が設けられています。これらの施設は、現在も管理・利用されており、神埼の水利遺産として重要な遺産となるものです。また、城原川から新たに導かれた馬場川や中池江川も、神埼の土地利用と水利の歴史を現在に伝えています。



馬場川の基点 大井手堰



百間土居



野越

❖ 民俗文化財

民俗文化財としては、民俗芸能・年中行事・地域の祭・しきたり・昔話・伝説・地名など、神埼の山間地から平野さらには川・海へと連続する地勢と人々の生活の中で生まれ受け継がれた文化であり歴史です。

民俗芸能

市内には、県重要無形民俗文化財^{たいかくら}太神楽・仁比山神社の御田舞^{おんだまい}・高志狂言^{たかし}、市重要無形民俗文化財^{しゅもと}締元行列など5件が伝承されています。



県重要文化財 仁比山神社の御田舞



県重要文化財 太神楽



県重要文化財 高志狂言

年中行事

年中行事も市内各地で毎年地元住民により継承されています。代表的な行事としては、脊振町鹿路神社の粥占い・百手、横武の百手祭、神埼から千代田地区の水利に関わる鼻天狗祭・大島の水かけ祭り・姉の七福神などが伝承されています。また、各地域に千灯籠をはじめ農業や信仰に関わる祭・行事が現在も行われています。



市重要文化財 横武の百手祭



嘉納地区 鼻天狗まつり



大島のみずかけ祭

昔話・伝説・方言

昔話や地名の成立ちなどの伝説などは、市内で300話以上が確認されています。また、土地や景観さらには神社・石仏などの由来や方言も口承で伝えられており重要な民俗文化財です。しかし、現在では昔話などを話すことも・聞くこともなくなり、記憶の中から失われていっているのが現状です。

地名

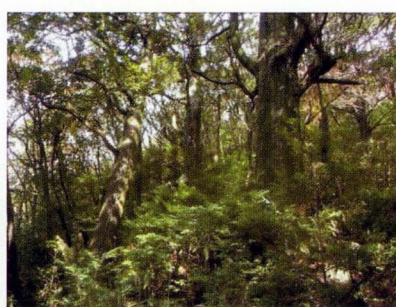
神崎市には、歴史的な位置付けや背景を伝える多くの貴重な地名が残され、現在も行政地名として息づいています。古墳時代にまで遡ると考えられる「的」「曾根」や、古代から中世の条里制に伴って付けられた地名である「石井ヶ里」「駅ヶ里」「田道ヶ里」などの「里が付く地名」、また、脊振や尾崎などの山や集落名の起こりの伝説も伝えられており、神埼の歴史文化遺産として重要な遺産となります。

❖ 自然

脊振山のブナ・カシ類、八天山のシイ・カシ類などの自然林や脊振山に源を発する城原川源流と上流域の溪谷・滝・段丘、朝日地区の段丘地形などがあります。南部の堀や河川には、佐賀県希少植物であるオグラコウホネやタヌキモ・アサザなどの水草が生息しています。このほか、動物や魚類についても、希少種が多く確認されています。しかし、その環境は年々変化しており、人の手より作られ管理されてきた神埼の自然の保護には、歴史的に行われてきた里山の管理や堀の管理などを継続的に行うことにより、神埼の自然を維持していく必要があります。



脊振・北山自然公園



脊振山 杉天然林



金立自然公園 日の隈山

❖ 景観

神埼は、脊振山から佐賀平野また有明海を望む雄大な景観を持っています。脊振山頂の雄大な眺望と森の景観や南部地区に形成されている中世に起源を持つ農村景観である「環濠集落」群など特徴的な景観が見られます。また、三谷地区や倉谷地区の棚田や脊振地区の山間集落景観も重要な神埼の景観です。さらに、市の中央部を南流する城原川流域の堤防と周辺の田園景観が一体となった景観も魅力的な存在です。



南部地区の環濠集落景観



城原川中流域の堤防景観



三谷地区 棚田景観

❖ 産 業

神埼は、農業を基幹産業とし、脊振地区の林業、千代田地区の海苔生産が現在行われています。特に、もち米は全国有数の生産地です。また、イチゴやアスパラガスなどの生産地として知られています。

伝統的産業としては、江戸時代から続く製麺産業があり、神埼そうめんの生産が行われています。また、現在生産活動は行われていませんが、江戸時代から昭和初期まで三谷や倉谷地区で和紙生産が行われ、藩紙や傘紙・薬紙などに用いられていました。平野部では明治・大正期に製蠶業せいろうが起こっています。千代田南部地区では、瓦製造・藺草いぐさ生産も行われていました。また、仁比山地区には、50基以上にも及ぶ水車を使った製粉・精米・製材業が行われていました。



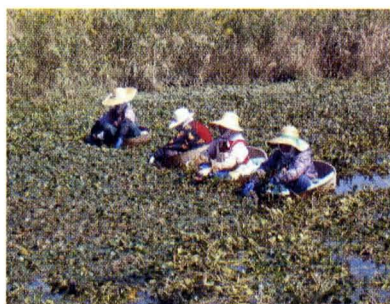
神埼製麺業



三谷和紙

❖ 食

神埼そうめんは、神埼を代表する特産物です。現在、様々な工夫を凝らしたそうめんを使用した食が創出され、より魅力ある神埼そうめんへと展開されています。このほか、脊振地区の、倉谷柿・椎茸、千代田地区の菱・海苔や、市内各地域には地域独自の食文化も見られます。



千代田直島地区 菱の実



神埼そうめん

❖ 人物

神埼には、歴史上重要な業績を上げた人物が輩出されています。幕末の医者・蘭学者である伊東玄朴、明治期のカーバイドの開発に尽力した徳永房一、昭和初期の教育者哲学者である大倉邦彦、文学者である吉田絃二郎、社会教育者としての下村湖人や、各分野で活躍しています。このほか、神埼において行政・教育・文学・産業の分野で地域を主導する多くの指導者・人材が神埼の基盤を形成してきました。



伊東玄朴



下村湖人



吉田絃二郎



大倉邦彦

❖ 施設

市内には、日の隈公園・仁比山公園・次郎の森公園・高取山公園や市民の文化活動拠点としての神埼市中央公民館・神埼市千代田文化会館「はんぎーホール」が設置されています。さらに、社会教育研修施設とし脊振山麓習遊館・鳥羽院山荘があり、内外より多くの方が訪れています。



神埼市中央公民館



神埼市千代田文化会館「はんぎーホール」



社会教育研修施設 鳥羽院山荘



高取山公園



仁比山公園



次郎の森公園

4 まちづくりの基盤となる歴史文化遺産群エリア設定

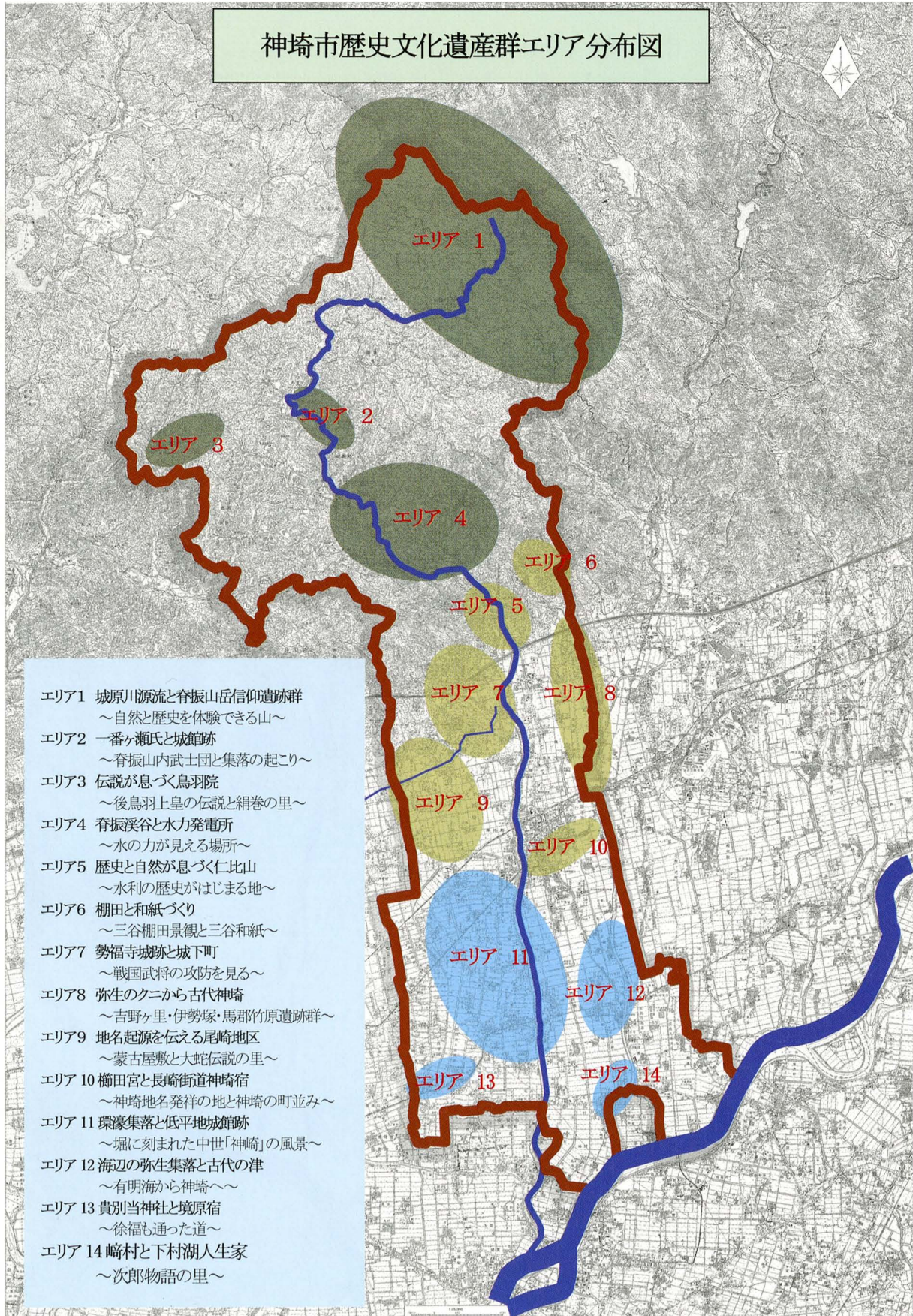
脊振山から有明海沿岸部までを擁する多様な地勢に形成された歴史文化遺産は、その特性や周辺資源・環境により、14の歴史文化遺産群のエリアに分けることができます。また、城原川や古代官道・江戸時代の街道、さらに現在に伝わる歴史地名などについては、市全域で対応していきます。

この遺産群エリアの特徴を活かして、本計画のまちづくりの施策を展開していきます。また、関連する各エリアを連携してまちづくりを進めていきます。

神崎市歴史文化遺産群エリア

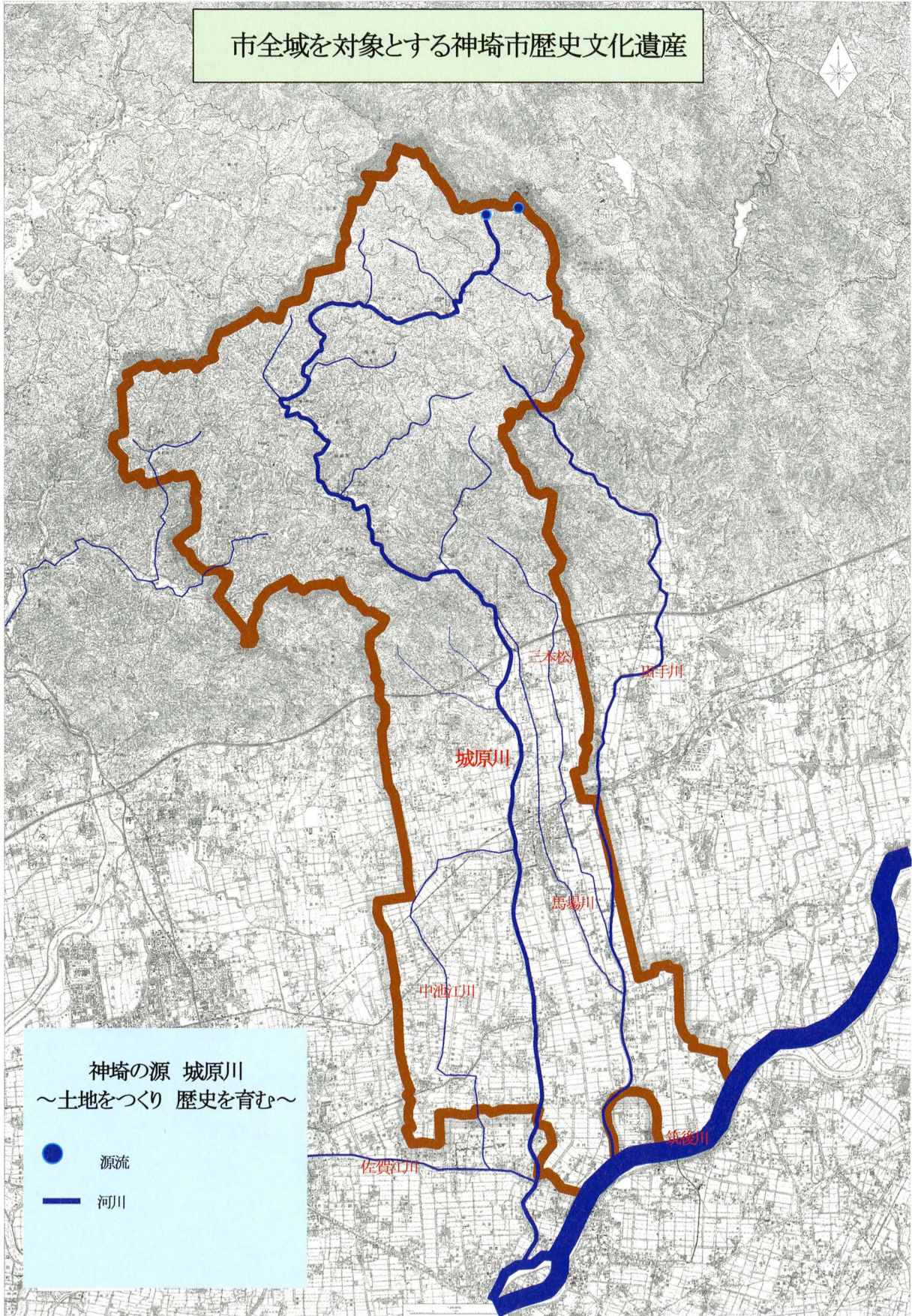
番号	エリア	地区名
1	城原川源流と脊振山岳信仰遺跡群	～自然と歴史を体感できる山～
2	一番ヶ瀬氏と城館跡	～脊振山内武士と集落の起こり～
3	伝説が息づく鳥羽院	～後鳥羽上皇の伝説と絹巻の里～
4	脊振溪谷と水力発電所	～水の力が見える場所～
5	歴史と自然が息づく仁比山	～水利の歴史がはじまる地～
6	棚田と和紙づくり	～三谷棚田景観と三谷和紙～
7	勢福寺城跡と城下町	～戦国武将の攻防を見る～
8	弥生のクニから古代神埼へ	～吉野ヶ里・伊勢塚・馬郡竹原遺跡群～
9	地名起源を伝える尾崎地区	～蒙古屋敷と大蛇伝説の里
10	櫛田宮と長崎街道神埼宿	～神埼地名発祥の地と神埼の町並み～
11	環濠集落と低平地城館跡	～堀に刻まれた中世「神埼」の風景～
12	海辺の弥生集落と古代の津	～有明海から神埼へ～
13	貴別当神社と境原宿	～徐福も通った道～
14	崎村と下村湖人生家	～次郎物語の里～

神崎市歴史文化遺産群エリア分布図

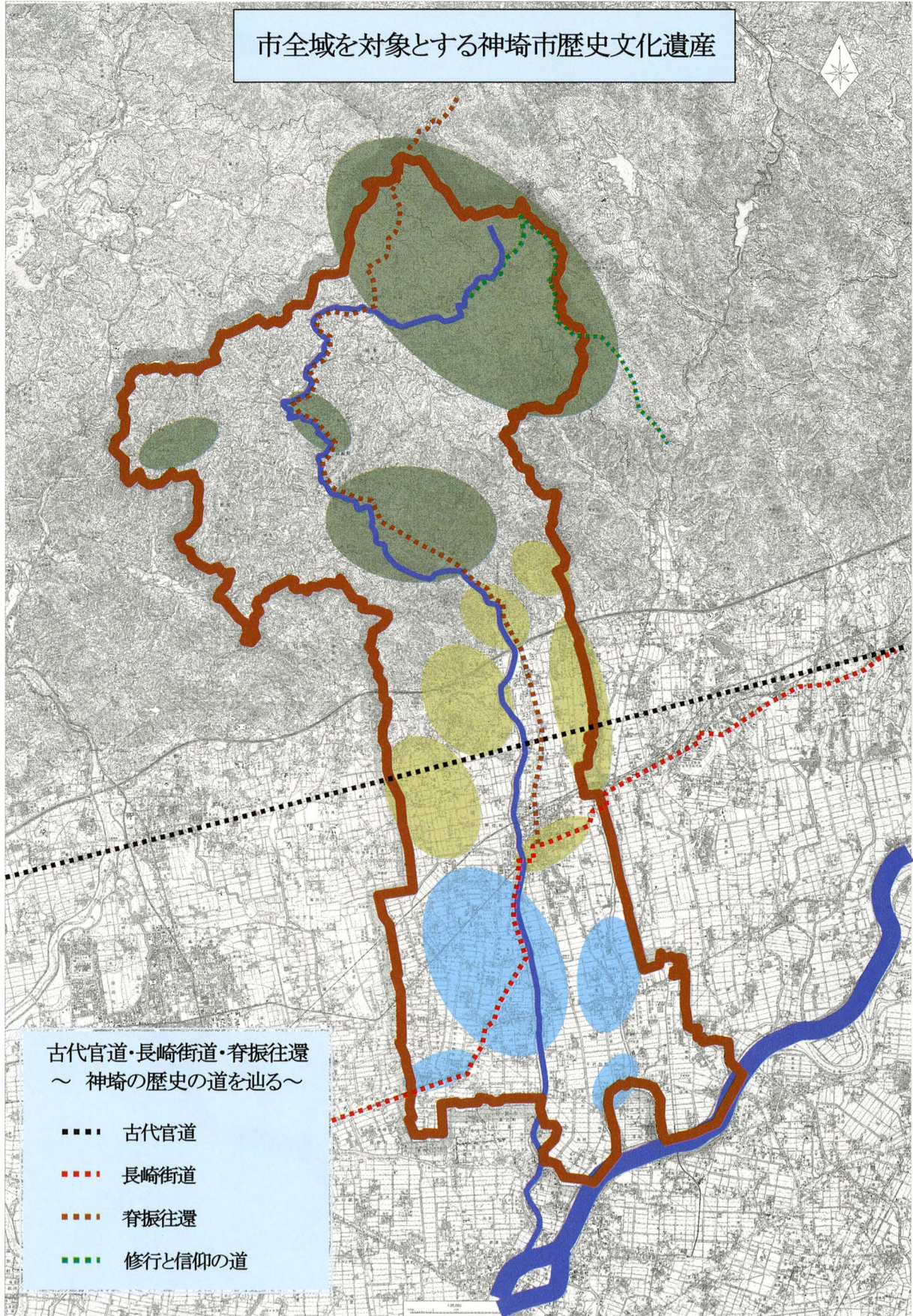


- エリア1 城原川源流と脊振山岳信仰遺跡群
～自然と歴史を体験できる山～
- エリア2 一番ヶ瀬氏と城館跡
～脊振山内武士団と集落の起り～
- エリア3 伝説が息づく鳥羽院
～後鳥羽上皇の伝説と絹巻の里～
- エリア4 脊振溪谷と水力発電所
～水の力が見える場所～
- エリア5 歴史と自然が息づく仁比山
～水利の歴史がはじまる地～
- エリア6 棚田と和紙づくり
～三谷棚田景観と三谷和紙～
- エリア7 勢福寺城跡と城下町
～戦国武将の攻防を見る～
- エリア8 弥生のクニから古代神崎
～吉野ヶ里・伊勢塚・馬郡竹原遺跡群～
- エリア9 地名起源を伝える尾崎地区
～蒙古屋敷と大蛇伝説の里～
- エリア10 櫛田宮と長崎街道神崎宿
～神崎地名発祥の地と神崎の町並み～
- エリア11 環濠集落と低平地城館跡
～堀に刻まれた中世「神崎」の風景～
- エリア12 海辺の弥生集落と古代の津
～有明海から神崎へ～
- エリア13 貴別当神社と境原宿
～徐福も通った道～
- エリア14 崎村と下村湖人家
～次郎物語の里～

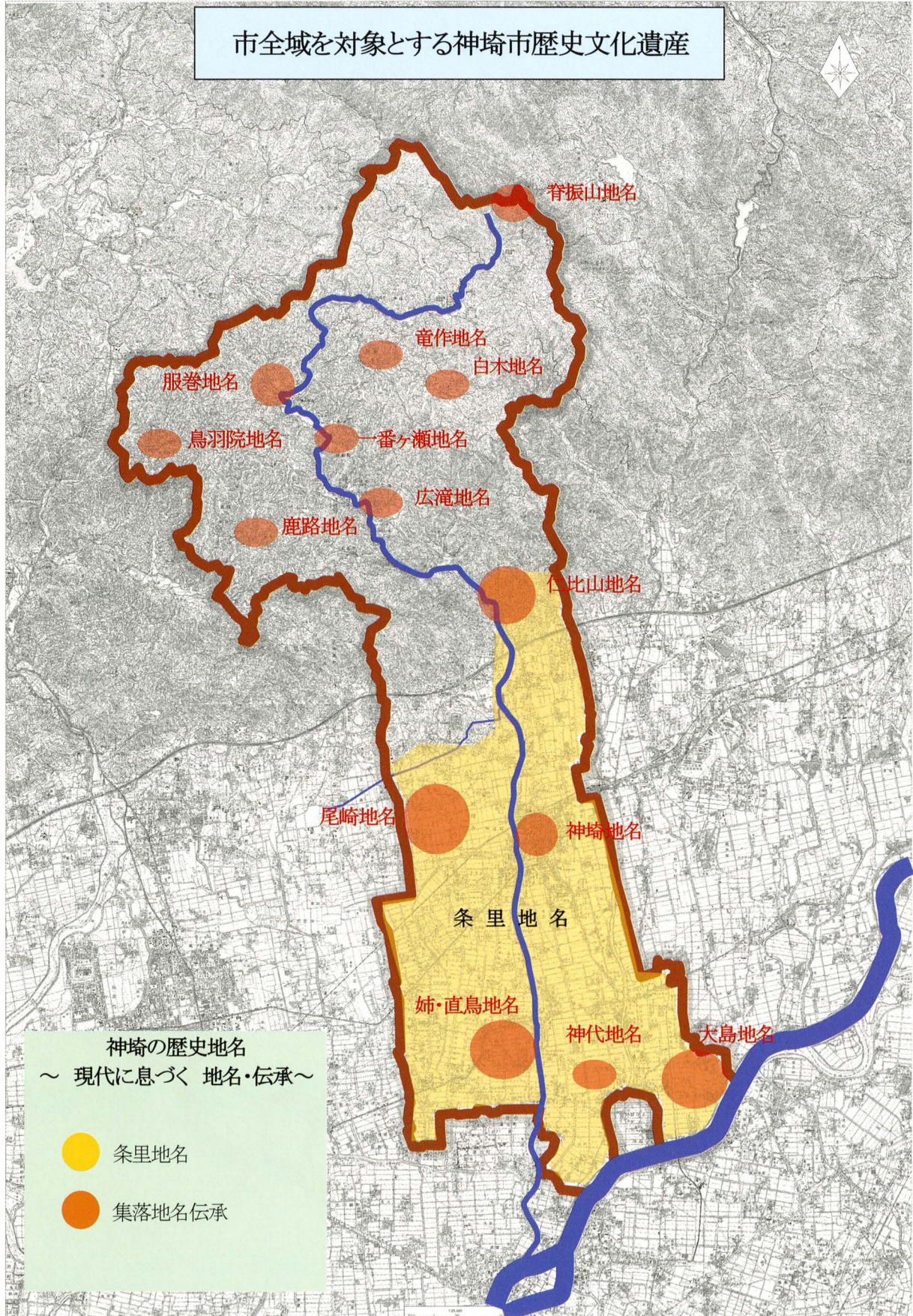
市全域を対象とする神崎市歴史文化遺産



市全域を対象とする神崎市歴史文化遺産



市全域を対象とする神崎市歴史文化遺産



2 部

まちづくりの計画

Ⅲ 歴史文化遺産を活かしたまちづくりの計画

1 計画の考え方

計画にあたっては、まちづくり素材の情報と価値の共有化を図り、市と市民が同じ価値観に基づいて、分かりやすく・親しみやすい歴史文化遺産として活かすことを基本としています。

単に、歴史がそこにあるだけにとどまらず、現在の生活に息づいている歴史であり、私たちが育てながら、神埼の誇りとして活かし、市民が語り手となり未来へ繋げていく、活きた歴史へという考え方にたっています。

2 まちづくり基本計画の全体構成

3つのまちづくり基本方針に基づき、施策を計画的に展開します。

本計画は、長期的な視野にたった基本計画を実現するため、平成22年度から平成32年度までの10年を計画期間とし、評価・検証をしながら必要に応じて見直しを行うこととします。

まちづくり計画の全体構成

まちづくりの 基本理念	水・人・歴史がおりなす 神埼	
	基 本 方 針	施策計画
基本方針1 郷土に誇りと愛着を 持つ人を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりは人づくりです。 ・歴史の「輪」づくりを通じて、市民一人ひとりが語り伝えることのできるようにします。 ・まちづくりを牽引するリーダーを育てていきます。 ・神埼の歴史資源の情報をまとめ、市民に分かりやすく提供していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学習の場の提供と人材育成 ◎ 地域伝統文化の伝承と後継者育成 ◎ 情報の蓄積と発信・提供
基本方針2 水と歴史がおりなす、 豊かな環境と景観を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史遺産と水環境を大切にします ・神埼の水と人と歴史がおりなす遺産を活かし、歴史景観づくりを進めます。 ・このことより、神埼の誇りと魅力を未来へ繋ぎます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 各種調査事業と保護制度の創出・活用 ◎ 人の動きを誘導する場所と施設整備 ◎ 重要遺産・景観の保存・整備
基本方針3 人が行き交い、活力ある 地域を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・水と歴史を活かし、地域おこしを活発にします。 ・多くの人が集い、交流する活力ある地域づくりを目指します。 ・市民協働のまちづくりを目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 人が集い交流する仕組の提供 ◎ 地域活動拠点の配置 ◎ 関係市町・機関連携の取組

3 施策計画

《基本方針1 郷土に誇りと愛着を持つ 人を育てる》

学習の場の提供と人材育成

- 神埼塾講座の継続的開催
 - ・ 市民誰もが受講できる、歴史・文化・自然・景観・まちづくりなどに関する講座を継続的に開催します。
 - ・ 神埼塾は、市民が主体的に運営していく講座を目指します。
- 現地探訪会・見学会の開催
 - ・ 現地の歴史文化遺産を学習・体験できる探訪会・見学会を随時開催します。
- 地域座談会の開催
 - ・ 各地域や団体・学校などに対して、地域を知るための座談会を開催します。
 - ・ この座談会により、地域を知り活動を始めるきっかけを提供します。
- 市民学芸員と市民組織の育成
 - ・ 神埼塾には、共通したテーマなどによる専門講座を設け、まちづくりを牽引するリーダーを育てます。
 - ・ 市民学芸員が中心となり、市民や地域と連携した市民組織の育成を行います。



神埼塾講座



歴史探訪会

地域伝統文化の伝承と後継者育成

● 地域連携の伝統文化の伝承

- 伝統文化の伝承を推進し、地域の誇りと地域コミュニティの充実を図ります。
- 保存会などの組織体制整備を推進し、近隣地域の伝統文化と連携した伝承を図ります。
- 伝承活動のための情報提供と支援体制の充実を図ります。

● 地域伝統文化後継者育成

- 後継者育成のための小中学生を対象とした伝統文化・芸能教室の充実を図ります。
- 関連する地域の伝統文化・芸能の連携を図り、後継者育成の相互協力体制の構築を行います。



みゆき大祭(縮元行列)



子供能教室

情報の蓄積と発信・提供

- **神崎市地域資源データベースの構築**
 - ・ 地域資源情報のデータベース化を進め、情報の蓄積と共有化を図ります。
- **神崎市デジタルミュージアムの構築**
 - ・ 神崎市の歴史や自然など様々な情報を発信するデジタルミュージアムを構築します。
 - ・ 将来的には、市民が運営するミュージアムへと発展させていきます。
- **神崎市歴史文化遺産マップの作成**
 - ・ 「水・人・歴史がおりなす神崎」歴史文化遺産マップの作成を行います。
- **歴史文化遺産解説ハンドブックの作成**
 - ・ 歴史文化遺産の内容を詳細に知ることのできるハンドブックの作成を行います。
- **地域誌の作成**
 - ・ 市内各地域の歴史や自然などをまとめた「地域誌」の作成を目指します。
 - ・ 「地域誌」は、地域住民が主体となり、作成していきます。
- **学校郷土学習支援冊子の作成**
 - ・ 学校教育で活用できる、郷土学習冊子の作成を推進します。
 - ・ 映像記録などによる郷土学習教材の作成も併せて計画します。
- **神崎市史の編纂**
 - ・ 神崎市を総合的にまとめた市史編纂の計画を目指します。

《基本方針2 水と歴史がおりなす、豊かな環境を育てる》

各種調査事業と保護制度の創出と活用

● 市内遺跡発掘調査等事業の充実

- ・埋蔵文化財の調査を推進し、遺跡の保存と活用に努めます。
- ・重要遺跡の計画的な調査を行い、その保存整備を進めます。
- ・発掘調査出土品の収蔵施設の整備を図り、適正保管と公開を行います。

● 地域資源悉皆調査の継続的实施

- ・市内各地に所在する様々な遺産の総合的調査を継続的に進めます。
- ・調査は、各種団体・市民との協働で進めます。

● 民俗文化財などの無形遺産の調査

- ・民俗芸能の映像による記録調査を計画的に行います。
- ・失われた無形の民俗文化財の掘り起こしを行い、その復元に努めます。

● 登録制度と支援制度の創出

- ・神埼独自の地域に根ざした保護・支援制度の創出を図り、地域おこしを目指します。
- ・登録された資源に対しては、その保全と活用が円滑に行われるよう、人的支援や新たな登録資源活用支援制度などを検討します。

● 国・県・市指定文化財の推進

- ・特に重要な歴史文化遺産については、国・県・市の文化財指定を図ります。
- ・地域の歴史的景観の規範となる建造物などは、国登録文化財への登録を進めます。
- ・指定文化財の保存と管理については、所有者等に対する支援制度の充実を図ります。

● まちづくり関係計画との調整・連携と制度の活用

- ・神埼市総合計画・国土利用計画・都市計画マスタープラン・環境基本計画との整合性と連携を図ったまちづくりを進めます。
- ・歴史まちづくり法・景観法などの各種制度によるまちづくりを市民と協働で目指します。
- ・市民が、まちづくりに積極的に関わるシステムの構築を検討します。

人の動きを誘導する施設整備

● サイン整備

- ・ 市内外の方が、容易に各遺産へ訪れることのできるサイン整備を図ります。
- ・ 神崎市としてのサイン整備の方向性を定める計画策定を検討し、統一したサインによる景観形成を目指します。

● ビューポイントの配置

- ・ 「水・人・歴史がおりなす神埼」を感じられる、市内全域と各遺産群エリアを眺めることのできるビューポイントを配置します。

● ビューポイントの選定

- ・ 眺望・景観が素晴らしい地点を、市民がビューポイントとして選定することにより、景観保全に対する意識の高まりを目指します。
- ・ 散策ルート上には、ゆっくりとたたずみ眺めることのできる場を整備します。

● 交通基盤・便益施設の整備

- ・ 来訪者のアクセスの利便性を高める整備を計画的に図ります。
- ・ 既存施設を有効活用した駐車スペースの確保と、トイレなどの便益施設の整備を図ります。
- ・ 徒歩や自転車による散策道の整備を進め、散策道上に休憩施設などの整備を図ります。
- ・ 市内を巡回するコミュニティバスなど、公共交通手段の利用を図ります。



脊振山頂からの佐賀平野の眺望



勢福寺城跡の景観・眺望



倉谷地区棚田の景観

ビューポイントとして、次のような場所が考えられます。

神埼全体を望むビューポイント

- 脊振山頂からの雄大な眺望
- 八天山からの佐賀平野・脊振山を望む眺望
- 日の隈山からの佐賀平野の眺望
- 千代田総合支所展望塔からの佐賀平野・脊振山系を望む眺望

歴史的な景観を残すビューポイント

- 脊振地区山村集落の景観
- 高取山から望む広滝の町並み
- 三谷・倉谷の棚田の眺望
- 仁比山地区の歴史的建造物と自然景観
- 九年庵から望む佐賀平野
- 勢福寺城跡から望む吉野ヶ里遺跡と佐賀平野
- 中世「神埼」の農村景観を残す環濠集落内の堀
- 城原川堤防からの眺望
- 中池江川堤防からの姉川城跡の眺望
- ひのはしら一里塚から望む脊振山
- 神埼宿を流れる馬場川と建物の佇まい
- 神社境内と鎮守の森
- 集落内の堀・水路
- 堀・河川に群落を形成する水草

重要遺産・景観の保存・整備

● 重要遺産・景観の保存整備

- ・ 歴史文化遺産群エリア内の核となる重要遺産については、拠点遺産として整備を推進します。
- ・ 神埼の歴史は、水が育てた歴史です。この歴史と水(自然)を歴史景観として一体的な保全を目指します。
- ・ 歴史景観づくりのため、市民とともに将来の土地利用も含め、そのあり方・活かし方を検討し、未来へ繋げていきます。



国営吉野ヶ里歴史公園



横武クリーク公園

神埼の歴史特性により、次のような重要遺産整備の方向性が考えられます。

- 邪馬台国と魏志倭人伝のクニを体感できる弥生時代の遺跡
- 皇室領荘園「神埼荘」に関する遺産
- 中世「神埼」の山城跡と低平地城館跡・環濠集落
- 脊振山岳信仰遺跡群に関する遺跡
- 佐賀藩の近代化を物語る遺産

神埼の歴史景観として、次のような景観が重点景観として考えられます。

- 環濠集落の景観
- 長崎街道神埼宿に残る明治・大正期の建造物と寺社仏閣及び馬場川と建物の佇まい景観
- 仁比山地区の歴史的景観と周辺自然環境
- 三谷棚田・倉谷棚田の景観と脊振の山村景観
- 王仁天満宮・鰐神社の景観
- 城原川堤防から望む田園景観

《基本方針3 生き活きとした活力ある、地域を育てる》

人が集い交流する仕組の提供

● 学習・体験プランの育成

- ・ 歴史文化遺産を、その背景に存在する自然や産業・産物・人物さらには地域活動などを相互に連携・関連づけたストーリーを提供し、人の交流を促します。
- ・ 神埼の歴史特性により、日本の歴史の位置付けをテーマに、国内の歴史だけでなく、大陸との関係から見た歴史学習を展開します。
- ・ 神埼の歴史を教材とした郷土学習を進め、郷土に誇りと愛着を持つ子供たちを育てる学校教育の支援を推進します。

● 住民によるおもてなしづくり

- ・ 地域住民の方が、歴史遺産の魅力をより分かりやすく、親しみやすく、おもてなしの心をもって、来訪者に伝えていくことを目指します。

● 新たな地域産業の育成

- ・ 地域伝統食文化の掘り起こしによる食の提供を図ります。
- ・ 地域の産業の育成にも繋がるような誘客プランを地元住民と協働で進めます。



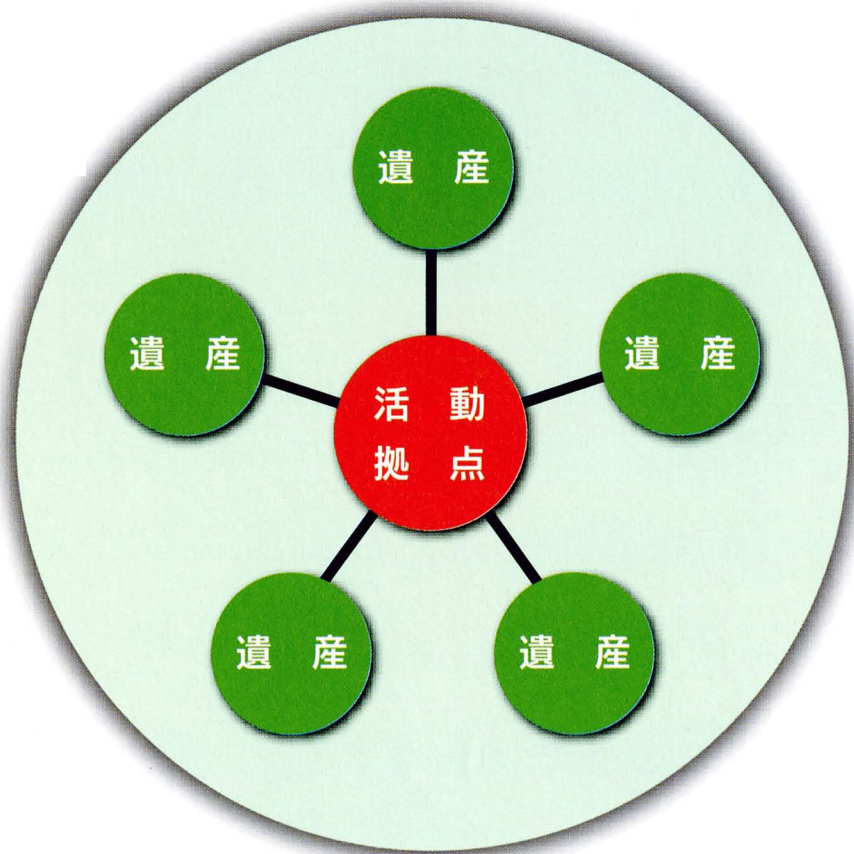
神埼そうめん祭

地域活動拠点の配置

● 地域活動拠点の配置

- ・ 遺産群エリア内の公民館や既存物販施設・社会教育研修施設・公園施設などを活用した拠点を設けます。
- ・ 活動の定着により、情報発信・人材配置・なりわい活動を併せた拠点の充実を図ります。
- ・ 歴史的建造物や空き家建物を有効に活用し、地域の活性化を図ります。

歴史文化遺跡群エリア



関係市町・機関連携の取組

●佐賀平野を舞台とした歴史物語づくり

- ・日本の歴史の中で常に先進文化を受け入れ発信した佐賀平野を舞台に、そこに繰り広げられてきた歴史物語による取り組みを目指します。
- ・神埼を中心に、佐賀市・小城市・吉野ヶ里町・みやき町・国営吉野ヶ里歴史公園などとの連携を目指します。
- ・また、大学機関などとの連携による取り組みを推進します。

●歴史で繋がる国内外の関係づくり

- ・神埼は、古くより国内外の先進文化がいち早く入り、発展した地域です。その文化交流をテーマに、関連する地域や国との連携を図った取り組みを検討します。

Ⅳ まちづくりの展開

1 展開の方向

本計画が目指す「水と人と歴史がおりなす神埼」は、市民が神埼を知り、一人ひとりが語り手となり、誇りと魅力に思い続けるまちです。歴史豊かな環境と景観を市民が主体となり育てることは、郷土に誇りと愛着を持つ人が育つまちとなり、生き活きとした生活の営みが創られることとなると考えます。

この歴史文化遺産を活かしたまちづくりは、市民・地域と市が価値を共有し、同じテーマ・目的を持った協働によるまちづくりを展開していきます。

市は、神埼市の歴史遺産の調査研究を通じて適正に情報を整理・蓄積し、その保存を図ると共に、市民が神埼を知ることのできる場ときっかけを提供し、市民などの活動を促すための支援・調整を図ります。

市民が、自らの地域のよさを再認識し、まちづくりの主役であるという意識を高め、人の輪で広がる地域おこしが活発に展開されるまちを実現します。

さらに、大学機関や事業所ならびに関係行政機関などとも連携を図り、それぞれの立場で役割を担ったまちづくりへと拡大を図ります。

2 まちづくりの推進体制

本計画の歴史文化遺産を活かしたまちづくりを進める施策は、文化財保存・地域コミュニティ・環境・景観・交通など様々な施策に連動しており、関係部局との緊密な連携・調整を図り進めなければなりません。このため、組織体制の充実を図るとともに、総合的なまちづくりを担う組織体制の整備も進める必要があります。

また、市民が主体となるまちづくりの推進のため、市民や地域が組織する地域づくり活動組織の形成を推進し、市民と市が協働したまちづくりの展開を行います。

V まちづくりの施策展開

1 まちづくり活動のストーリーと施策展開

神崎市歴史文化遺産の特性により、ストーリーを活動の基盤として提供し、エリア内での様々な活動を誘導する取組を展開していきます。

全体ストーリー	取り組み展開の個別ストーリー
ストーリー1 「邪馬台国を彷彿とさせる弥生の遺跡群」	「邪馬台国のクニ 吉野ヶ里遺跡と城原川流域の遺跡群」 「有明海に活動した遺跡群と渡来系文化」
ストーリー2 「肥前風土記に見る神崎と皇室領荘園「神崎荘」	「肥前風土記と古代神崎郡の遺跡群」 「神崎荘と櫛田宮」 「神崎荘と鳥羽院・倉谷・政所」 「蒙古合戦恩賞地と神崎荘」 「有明海から神崎荘へ」
ストーリー3 「脊振山の山岳信仰」	「信仰が息づく脊振山」 「修験道の霊場 八天山」
ストーリー4 「神崎の城館跡」	「江上氏・少弐氏の居城勢福寺城跡」 「低平地城館群と環濠集落」 「脊振山内武士団と城館跡」
ストーリー5 「堀に刻まれた中世の風景」	「櫛田宮と土地開発 環濠集落の成り立ち」 「武士・領主と低平地城館跡」
ストーリー6 「長崎街道神崎宿と境原宿」	「シーボルトも通った長崎街道」 「1,000戸の町並み神崎宿」 「水上交通の要所 境原宿」
ストーリー7 「佐賀の近代化を物語る遺産」	「幕末佐賀の砲術訓練場 岩田台場跡」 「九州最古の現役水力発電所」 「神崎の製蠟業と金融業」
ストーリー8 「神崎の歴史地名」	「歴史を伝え、現代に息づく地名」
ストーリー9 「神崎の民俗」	「神崎の民俗芸能」 「神崎の昔話・伝説」 「神崎の年中行事」 「神崎の民間信仰」 「神崎の農山村の生活」 「神崎の伝統産業」
ストーリー10 「神崎の歴史の道」	「古代官道・西海道を行く」 「修行と信仰の道」 「西洋文化が行き交った長崎街道」 「肥前神崎から筑前へ」
ストーリー11 「神崎の源 城原川と水利」	「神崎を育てた城原川」 「城原川の利水と治水」
ストーリー12 「郷土の偉人たち」	「日本の近代化をリードした神崎の偉人たち」 「神崎を支えた偉人たち」 「教育と文学の先駆者たち」
ストーリー13 「神崎の自然と生き物たち」	「水を育てる脊振山の自然と動植物」 「城原川の生き物」 「堀の動植物」
ストーリー14 「神崎を体感する眺望」	「神崎を望む雄大な眺望」 「歴史と人の佇まいを感じる」

ストーリー1 「邪馬台国を彷彿とさせる弥生の遺跡群」

吉野ヶ里遺跡は、『魏志倭人伝』に記された「クニ」と邪馬台国を彷彿とさせ、多くの方が訪れています。この吉野ヶ里遺跡を中心とした山麓部から海浜部にかけて存在する遺跡群は、当時の「クニ」の領域と姿を今に伝えていています。また、渡来系の人たちや青銅器生産などの先進文化をいち早く受入れた地です。

この神埼の弥生時代の遺跡を題材に、日本の原風景と邪馬台国時代の「クニ」を体験できる取り組みを行います。

ルート設定 例

「邪馬台国のクニ 吉野ヶ里遺跡と城原川流域の遺跡群」

「有明海に活動した遺跡群と渡来文化」

活動の場となる遺産群エリア

エリア 8 「弥生のクニから古代神埼へ」

エリア 9 「地名起源を伝える尾崎地区」

エリア12 「海辺の弥生集落と古代の津」

エリア13 「貴別当神社と境原宿」

取り組みの方向

1 弥生時代の神埼の歴史を伝えます。

講座や見学会・探訪会などを随時開催し、『魏志倭人伝』の「クニ」の学習体験に取り組めます。

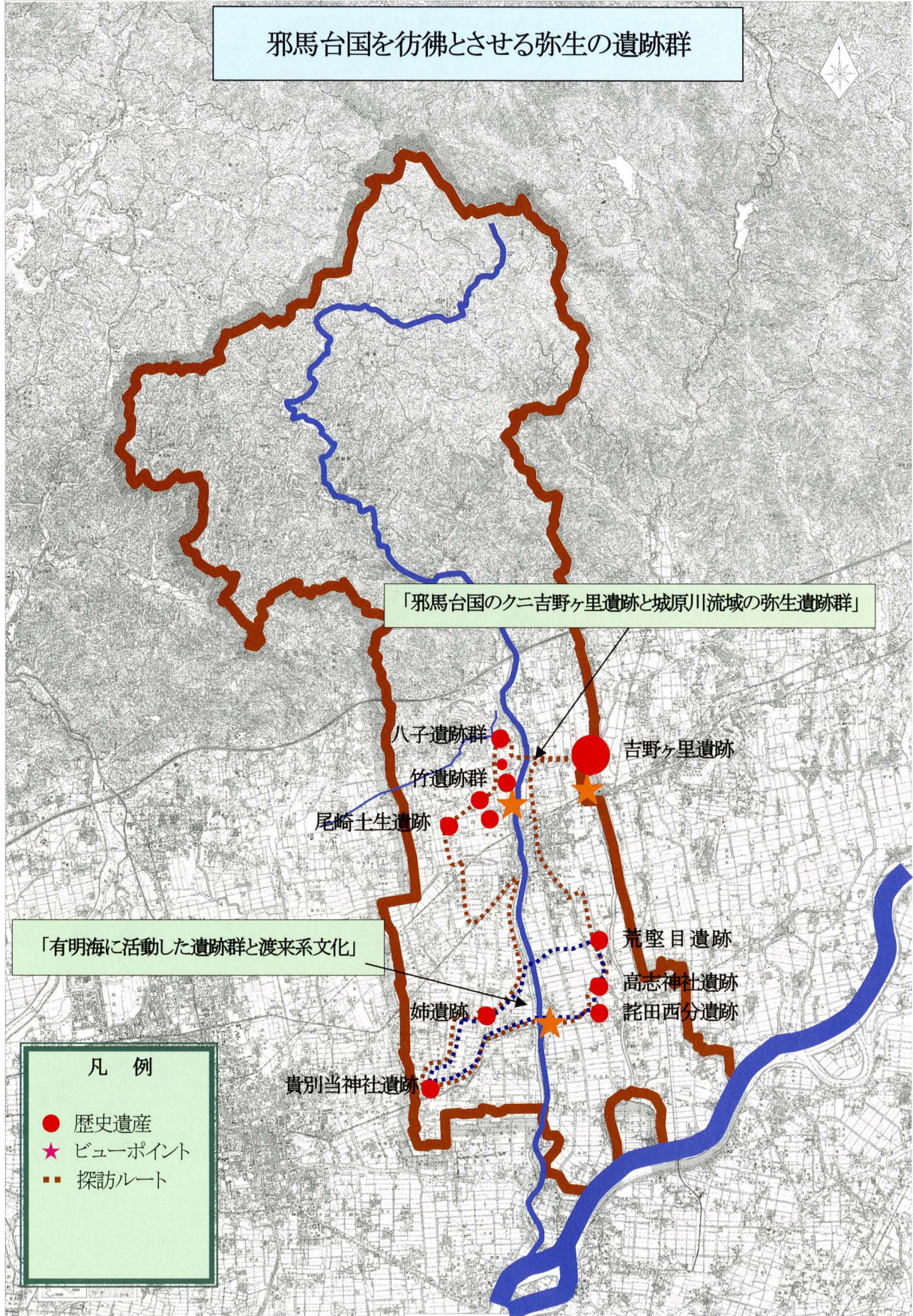
2 弥生のクニを表現する重要遺跡の保存を図ります。

重要遺跡の計画的な調査・検証を行い、その保存・整備を行います。

3 『魏志倭人伝』に登場する北部九州の遺跡と連携を進めるとともに、吉野ヶ里の「クニ」を構成していた市内に点在する遺跡と連携したまちづくりを行います。

市民活動のテーマとして、『魏志倭人伝』の「クニ」の相互交流による地域活動などを推進します。

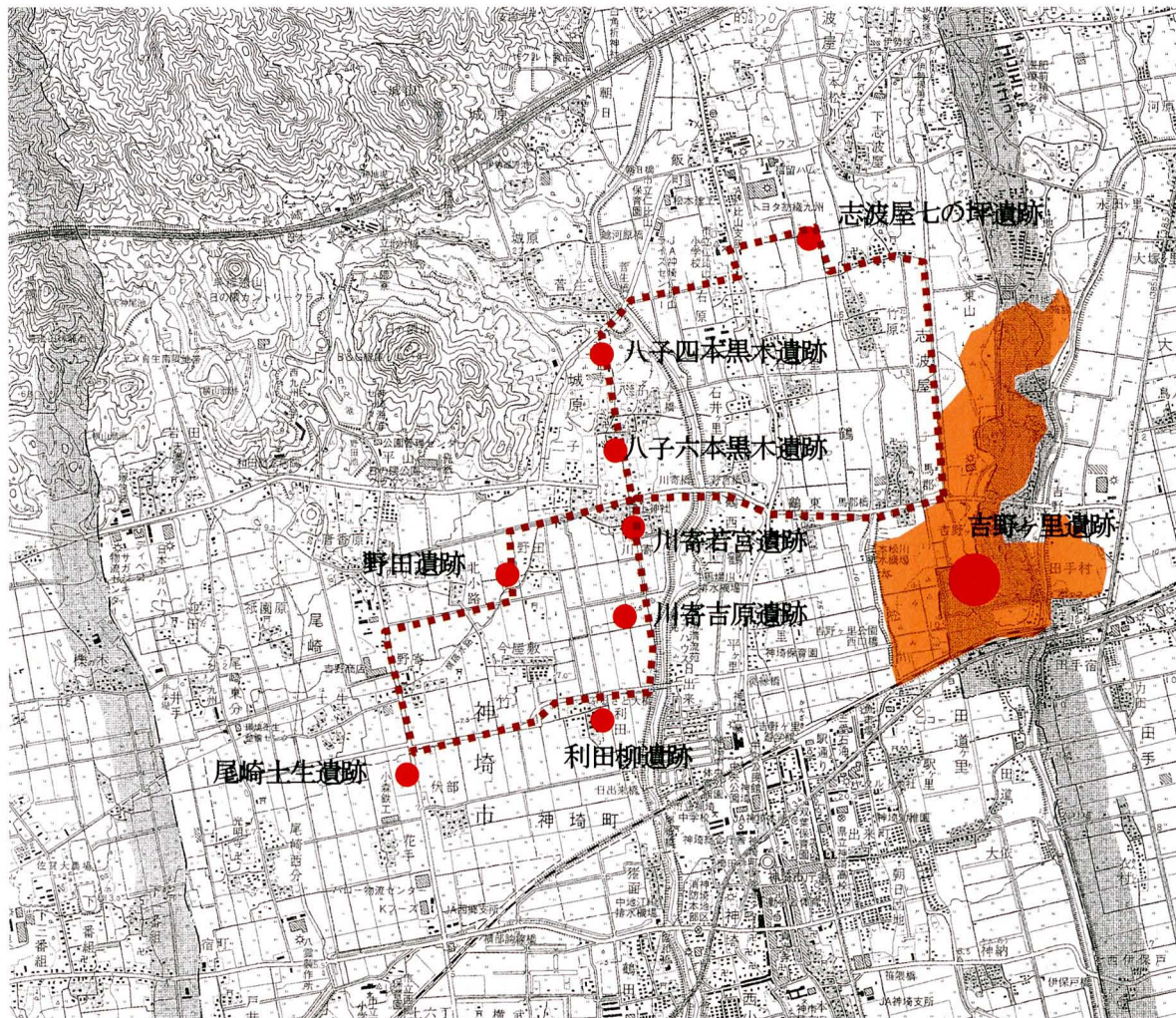
邪馬台国を彷彿とさせる弥生の遺跡群



活動の場となる遺産群エリア

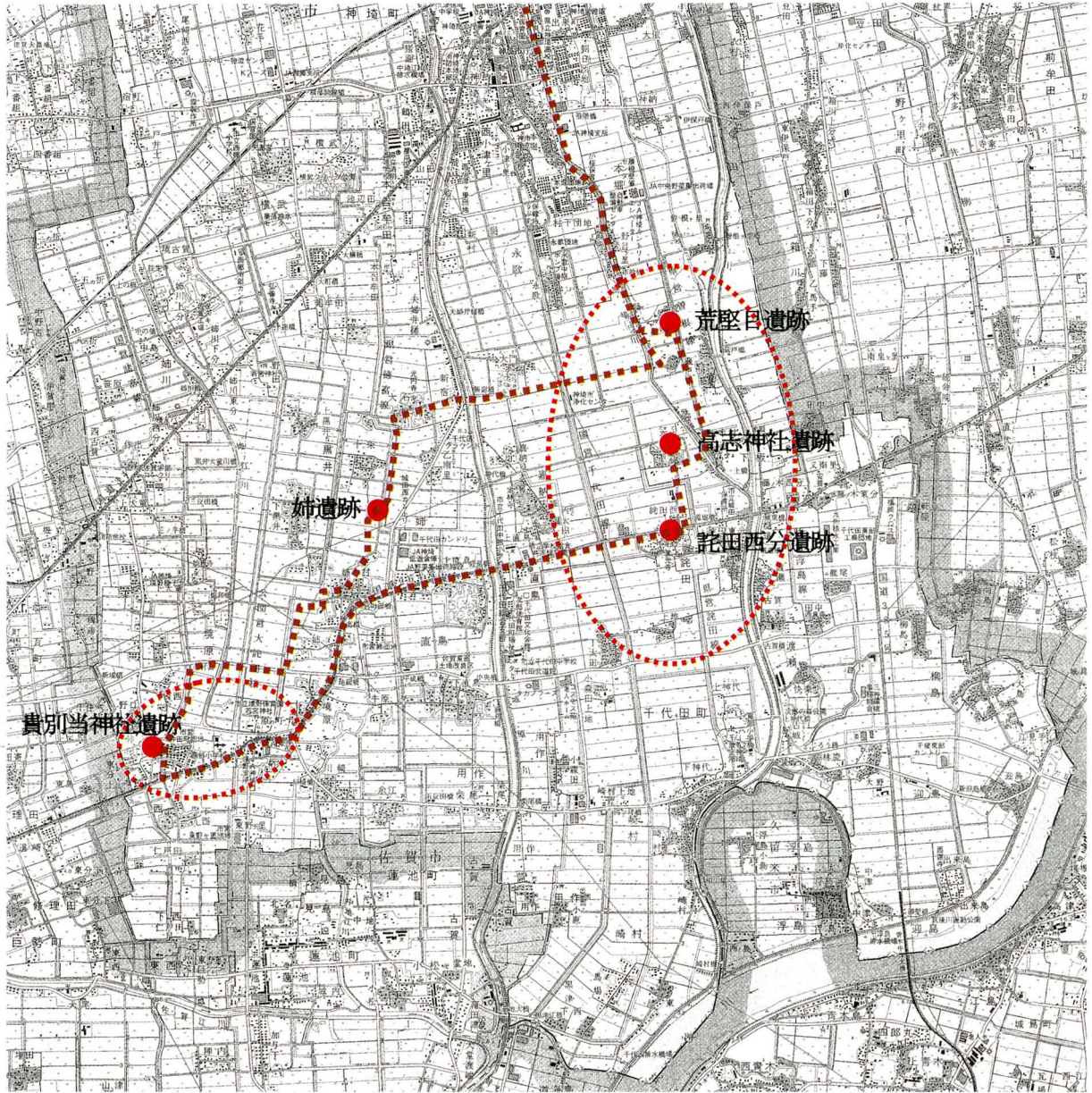
「邪馬台国を彷彿とさせる弥生の遺跡群」

エリア8 弥生のクニから古代神埼へ ・ エリア9 地名起源を伝える尾崎地区



「有明海に活動した遺跡群と渡来文化」

エリア12 海辺の弥生集落と古代の津 ・ エリア13 貴別当神社と境原宿



神埼の地は、『肥前風土記』に駅1所・烽火1所・寺1所の記録があり、馬郡竹原遺跡群に当時の神埼郡の役所がありました。また、有明海からの水上交通施設である「津」も置かれ、政治・経済の拠点として機能していました。

中世に成立した「神埼荘」は、中央の皇室で伝領された皇室領の荘園として経営がされています。平氏による荘園経営と日宋貿易が行われ、歴史的に非常に重要な荘園です。

この神埼の古代から中世の時代は、中央政権の影響による土地開発の歴史であり、神埼の最も重要な遺産群となっています。

ルート設定 例

「肥前風土記と古代神埼郡の遺跡群」

「神埼荘と櫛田宮」

「神埼荘と鳥羽院・倉谷・政所」

「蒙古合戦恩賞地と神埼荘」

「有明海から神埼へ」

活動の場となる遺産群エリア

エリア 3 「伝説が息づく鳥羽院」

エリア 4 「脊振溪谷と水力発電所」

エリア 5 「歴史と自然が息づく仁比山」

エリア 8 「弥生のクニから古代神埼へ」

エリア 9 「地名起源を伝える尾崎地区」

エリア10 「櫛田宮と長崎街道神埼宿」

エリア11 「環濠集落と低平地城館跡」

エリア12 「海辺の弥生集落と古代の津」

市全体 「神埼の源 城原川」

「古代官道・長崎街道・脊振往還」

「神埼の歴史の道を辿る」

「神埼の歴史地名」

取り組みの方向

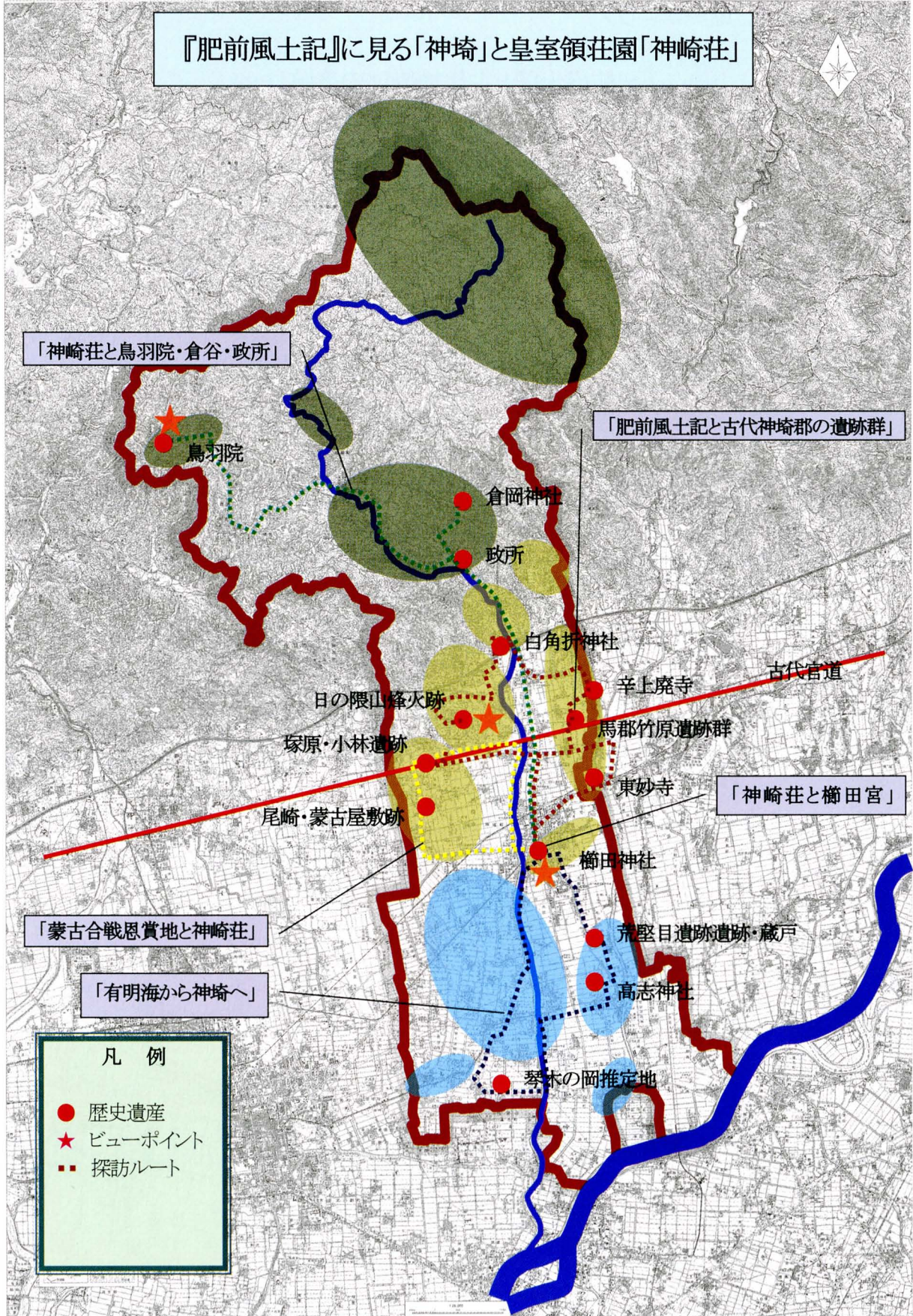
- 1 古代・中世の神埼の歴史を伝え、まちづくりに活かしていきます。

講座や見学会・探訪会を開催し、神埼の古代・中世の歴史を伝えていきます。

- 2 古代・中世の歴史的景観とともに、重要遺跡の保存・整備を図ります。

歴史地名とともに古代・中世神埼の重要遺跡の調査・検証を図り、神埼を代表する歴史遺産・景観の保存・整備によるまちづくりを目指します。

『肥前風土記』に見る「神埼」と皇室領荘園「神崎荘」



「神崎荘と鳥羽院・倉谷・政所」

「肥前風土記と古代神埼郡の遺跡群」

「神崎荘と櫛田宮」

「蒙古合戦恩賞地と神崎荘」

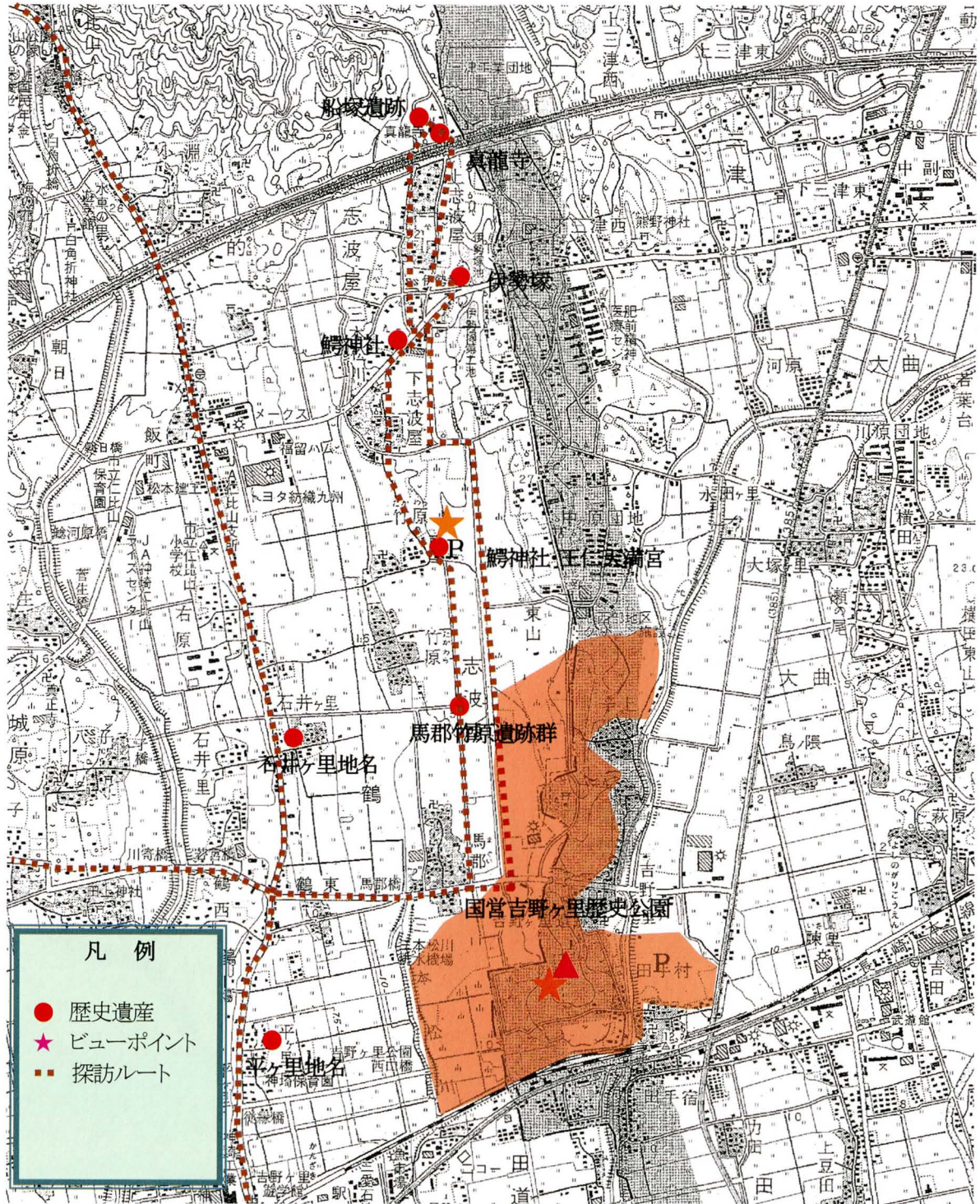
「有明海から神埼へ」

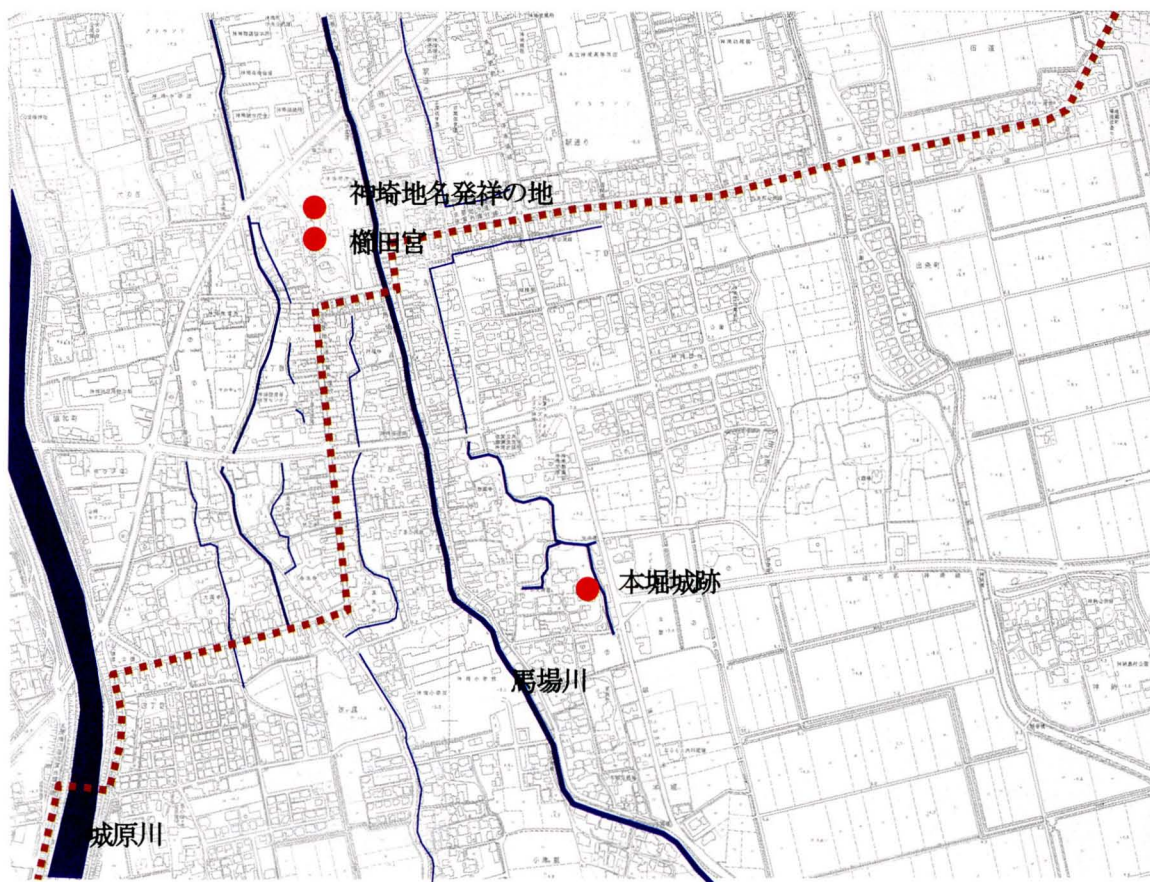
- 凡 例
- 歴史遺産
 - ★ ビューポイント
 - 探訪ルート

活動の場となる遺産群エリア

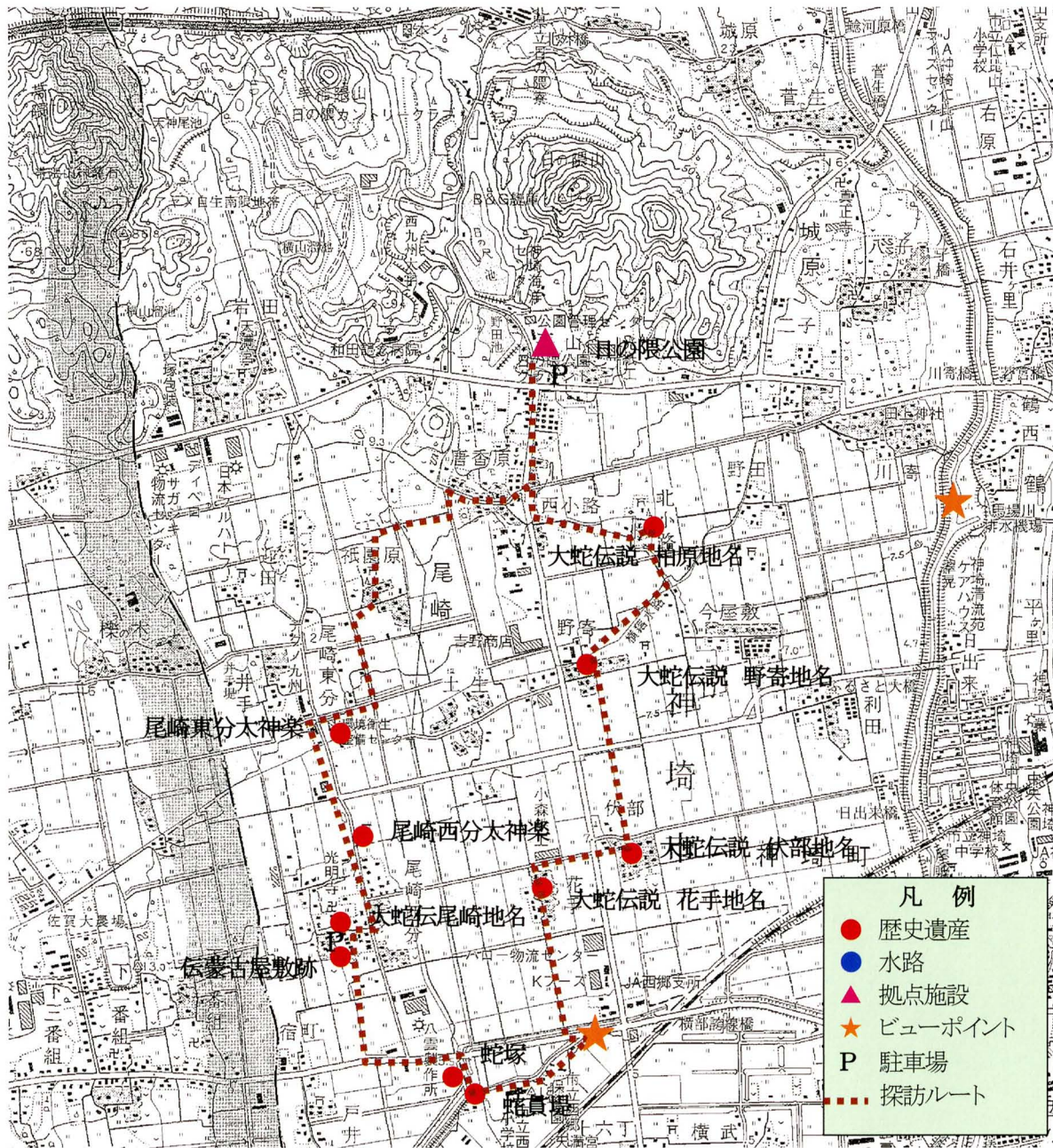
「肥前風土記と古代神埼郡の遺跡群」

エリア8 弥生のクニから古代神埼へ



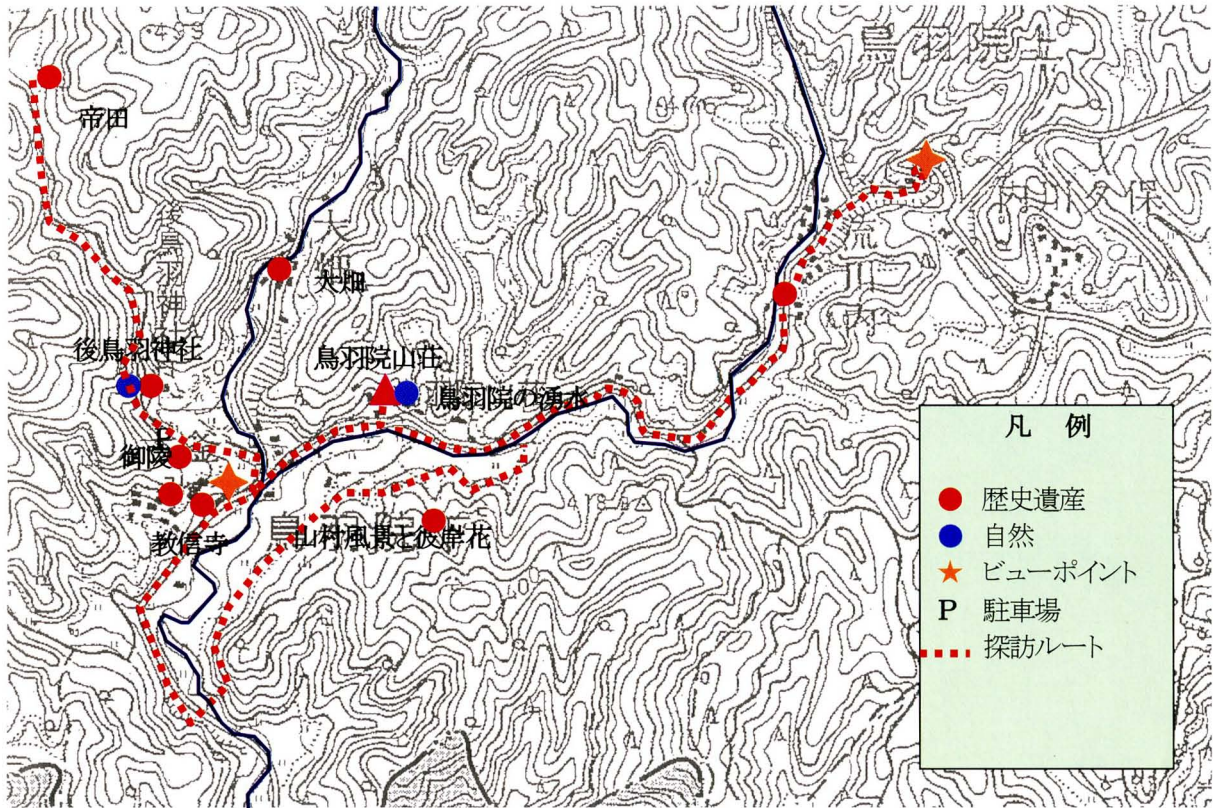


「蒙古合戦恩賞地と神崎荘」 エリア9 地名起源を伝える尾崎地区

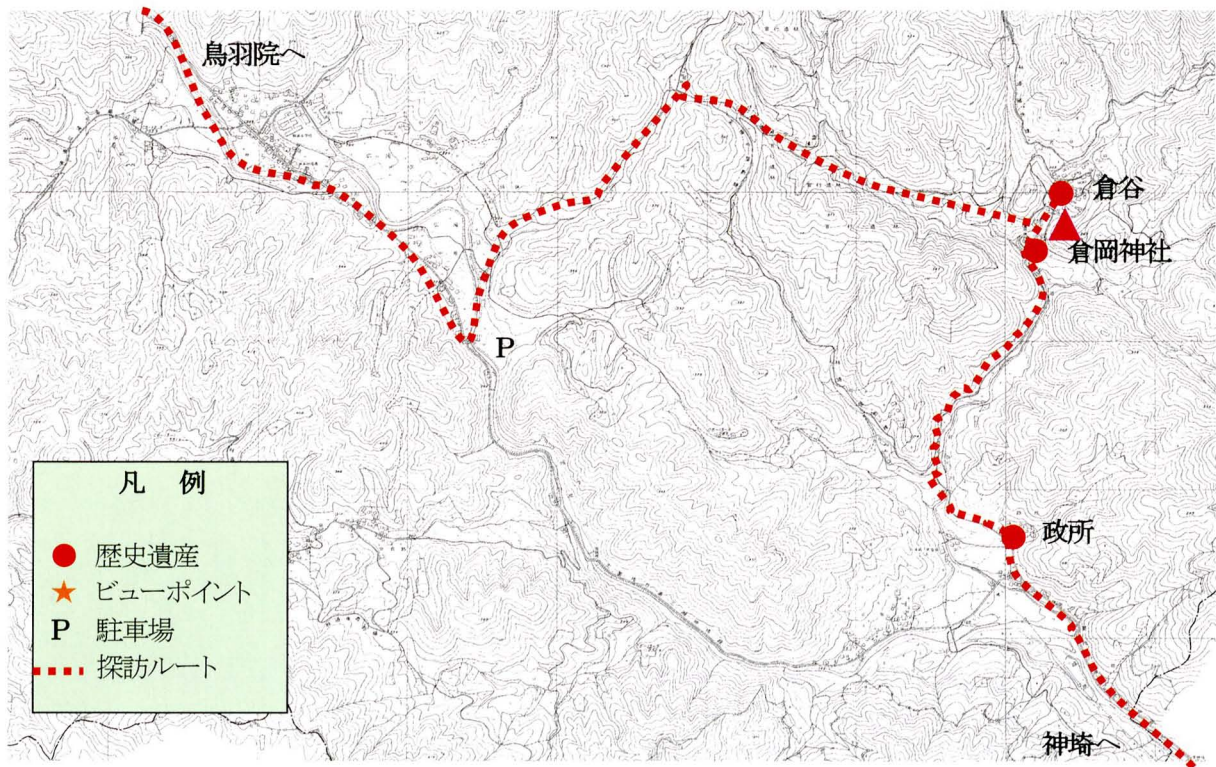


「神崎荘と鳥羽院・倉谷・政所」

エリア3 伝説が息づく鳥羽院

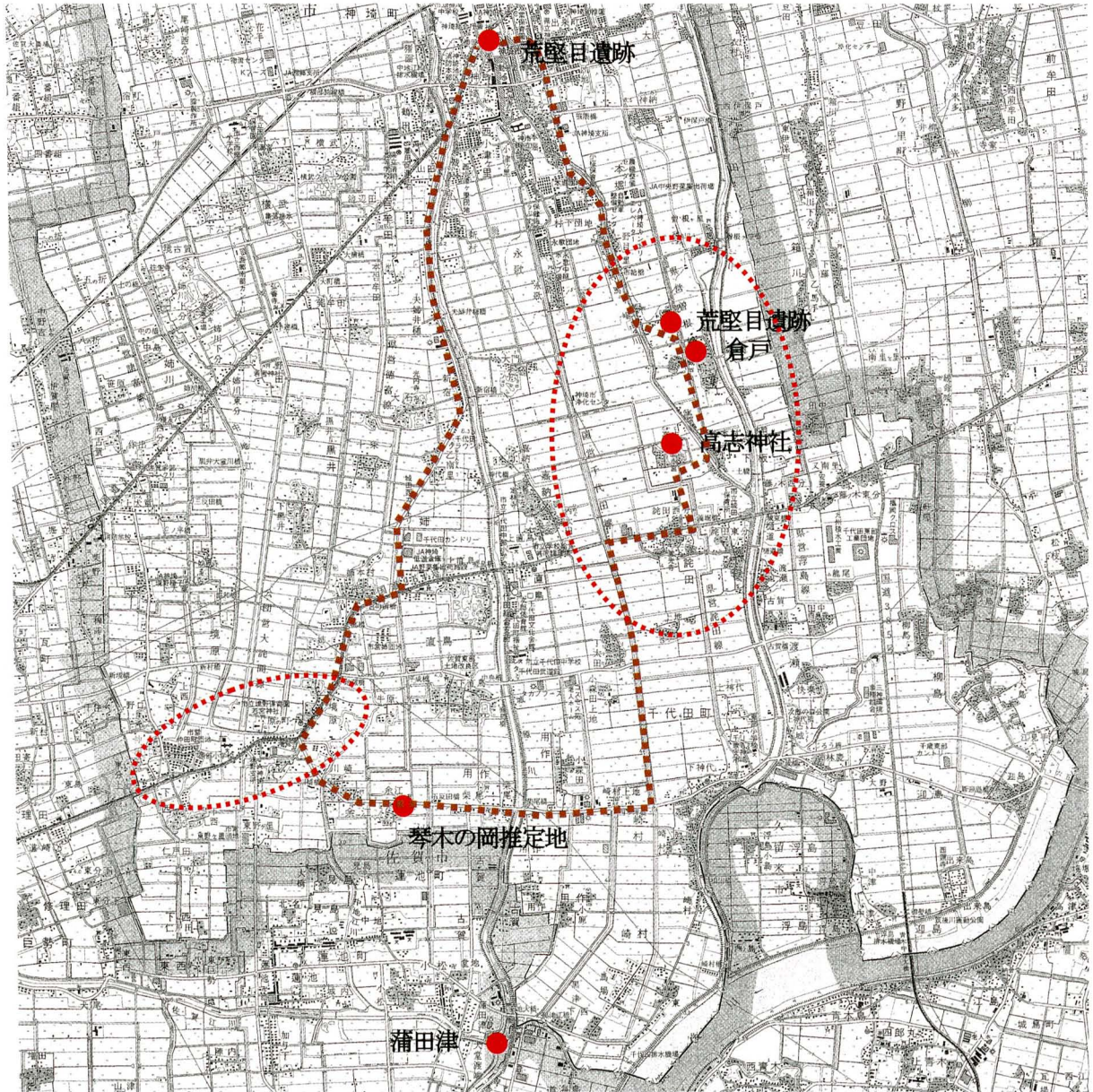


エリア4 脊振溪谷と水力発電所



「有明海から神埼へ」

エリア12 海辺の弥生集落と古代の津 ・ エリア13 貴別当神社と境原宿



脊振山は、平安時代末期頃より山中で修行が重ねられた山岳信仰の霊場であり、また、玄界灘を航行する船の目標でもあり航海安全を祈願する信仰の対象ともされてきました。脊振山頂には、弁財天が祀られ、中腹には背振神社が鎮座し、現在も信仰の場として多くの方が訪れています。また、背振・北山県立自然公園に指定され、自然豊かで城原川の源流となり、雄大な山頂からの眺望が広がっています。

この神埼の古代から中世の時代は、中央政権の影響による土地開発の歴史であり、神埼の最も

ルート設定 例

「信仰が息づく脊振山」

「修験道の霊場 八天山」

活動の場となる遺産群エリア

エリア 1 「城原川源流と脊振山岳信仰遺跡群」

エリア 5 「歴史と自然が息づく仁比山」

取り組みの方向

1 神埼の山岳信仰の歴史を伝えていきます。

講座や見学会・探訪会などを開催し、脊振山の歴史を伝えていきます。

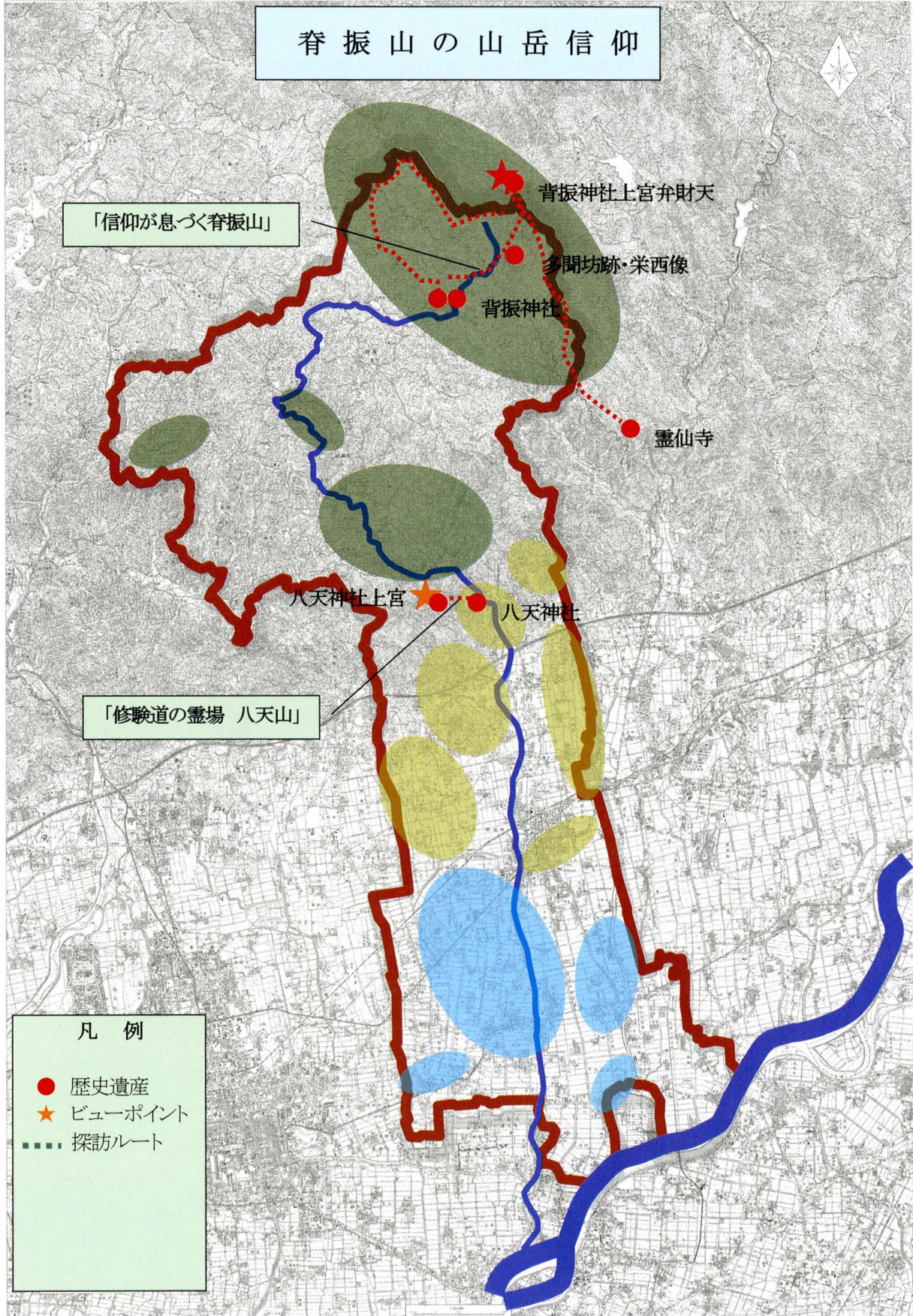
2 山岳信仰遺跡群の詳細な調査を行い、保存整備に努めます。

遺跡群の学術調査を計画的に行い、脊振山山岳信仰遺跡群として活用を図ります。

3 豊かな自然景観と歴史を体感できるよう、景観を守り伝えます。

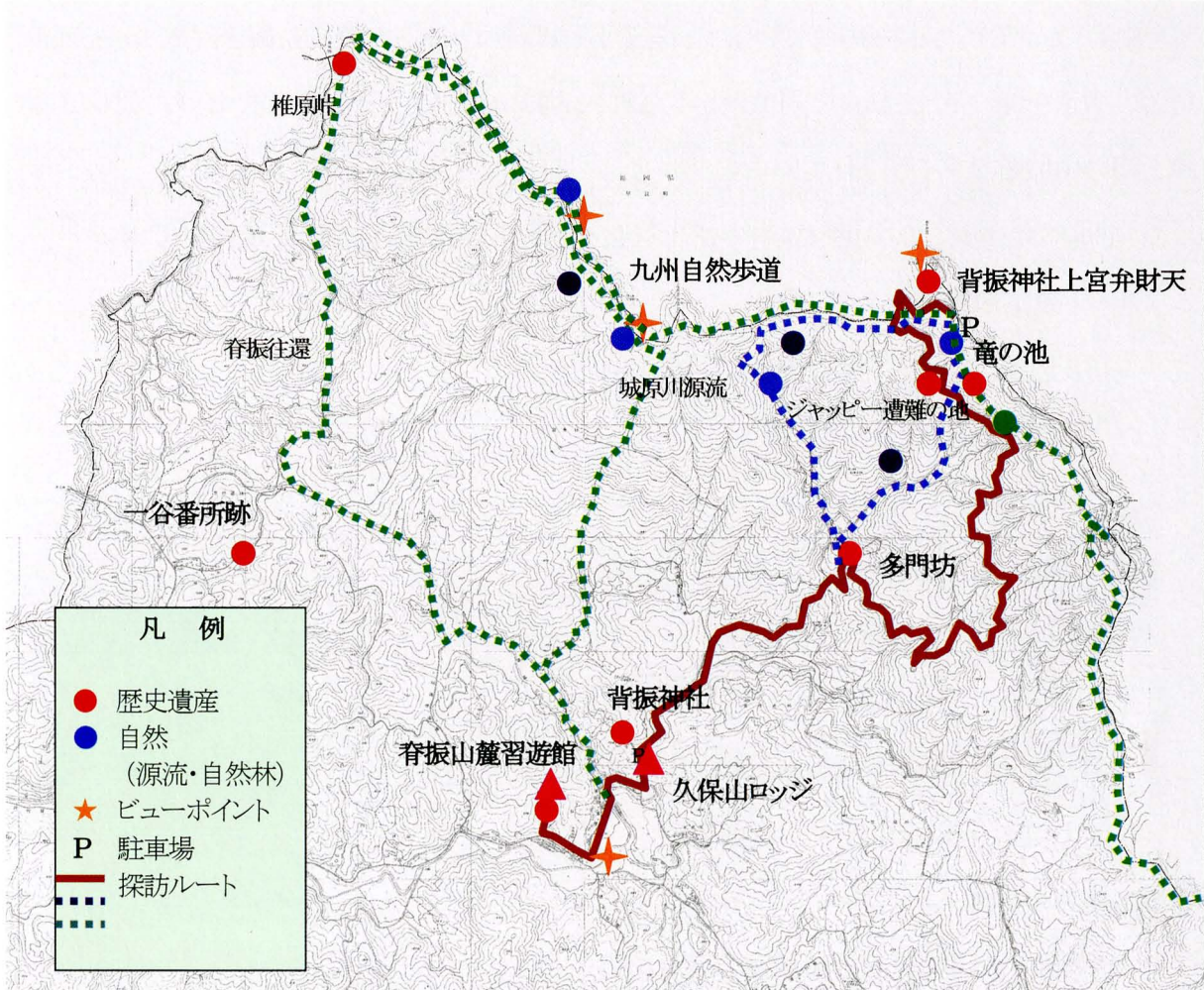
水が生まれる森を育てる活動を推進し、修行僧が活動した歴史と自然を守り育てていきます。

脊振山の山岳信仰



活動の場となる遺産群エリア

エリア1 城原川源流と脊振山岳信仰遺跡群



「修験道の霊場 八天山」

エリア5 歴史と自然が息づく仁比山



神崎の城館跡は、肥前守護所が置かれた時期もある江上氏・少弐氏の居城跡である勢福寺城跡を中心に、市内全域に残されています。南部平野部には、神崎の農村景観を特徴づける環濠集落の構造を持つ武士・領主の居城跡が見られ、脊振の山中には脊振山内武士と呼ばれる在地武士団の山城跡が多く築かれています。

この神崎の城館跡は、中世「神崎」の武士社会と土地開発の歴史を物語る遺産群です。

ルート設定 例

「江上氏・少弐氏の居城と勢福寺城跡」

「低平地城館跡と環濠集落」

「脊振山内武士団と城館跡」

活動の場となる遺産群エリア

エリア 2 「一番ヶ瀬氏と城館跡」

エリア 5 「歴史と自然が息づく仁比山」

エリア 7 「勢福寺城跡と城下町」

エリア11 「環濠集落と低平地城館跡」

取り組みの方向

- 1 神崎の中世武士団と城館跡の歴史を伝えていきます。

講座や見学会・探訪会などを開催し、中世「神崎」の歴史を伝えていきます。

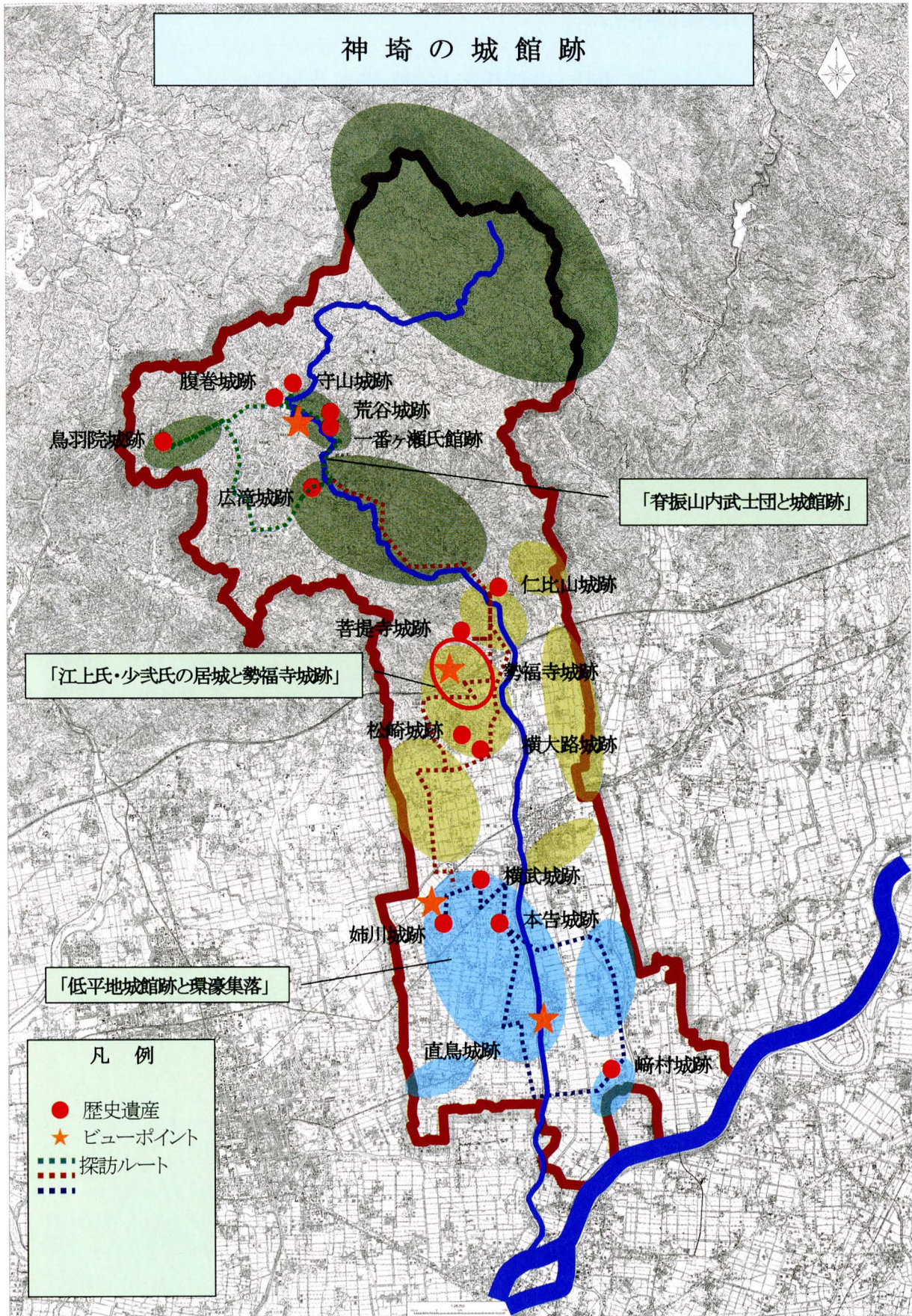
- 2 山城跡と低平地城館跡が一体になった保存・活用を行います。

城館跡の学術調査を計画的に行い、その内容を検証し、山城と低平地城館跡が並存する中世「神崎」の保存・活用を図ります。

- 3 環濠集落群の景観を守り活かします。

特徴的な堀を廻らす環濠集落を歴史的景観と位置づけ、神崎の誇れる歴史景観を活かしたまちづくりを目指します。

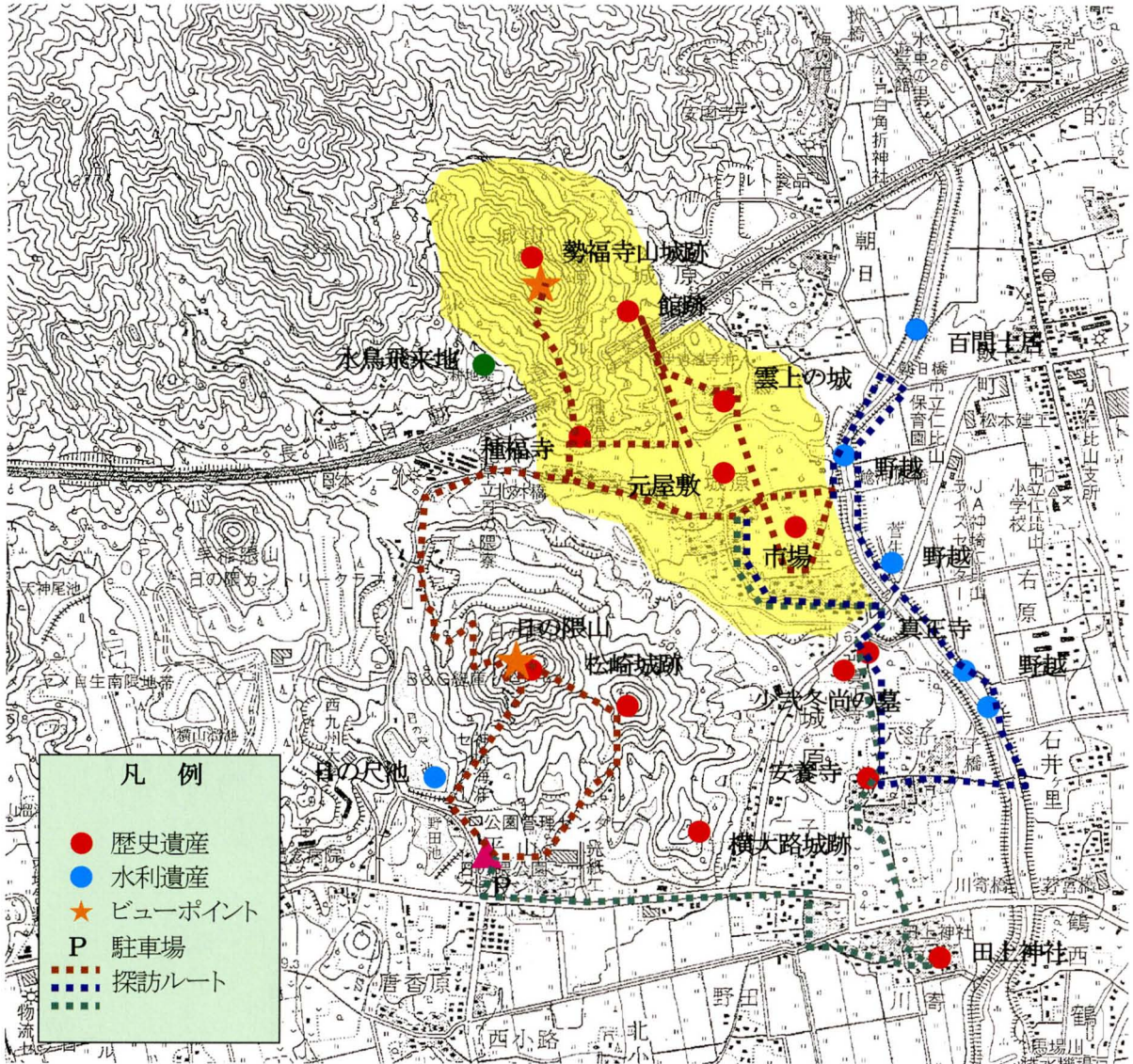
神 埼 の 城 館 跡

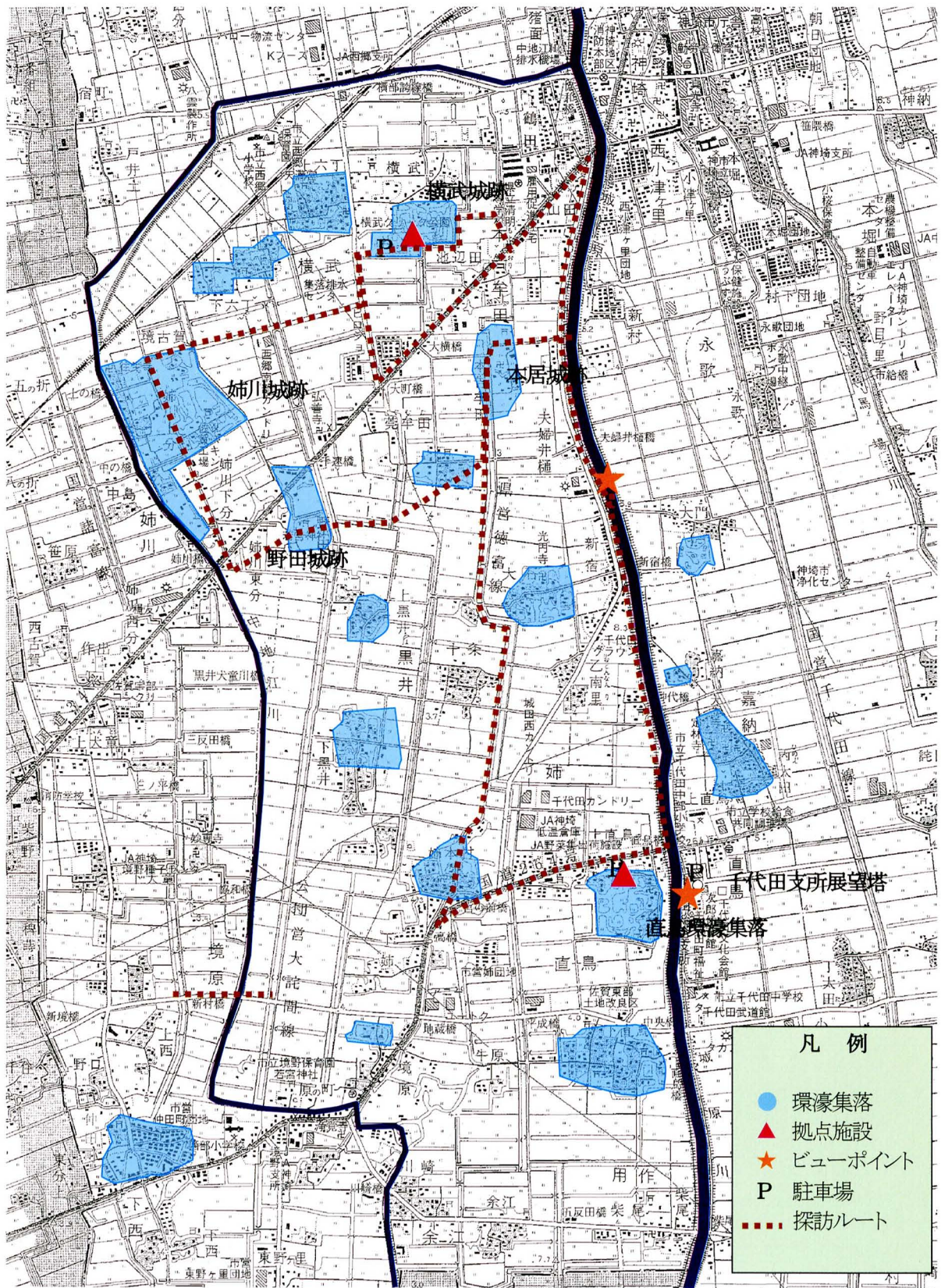


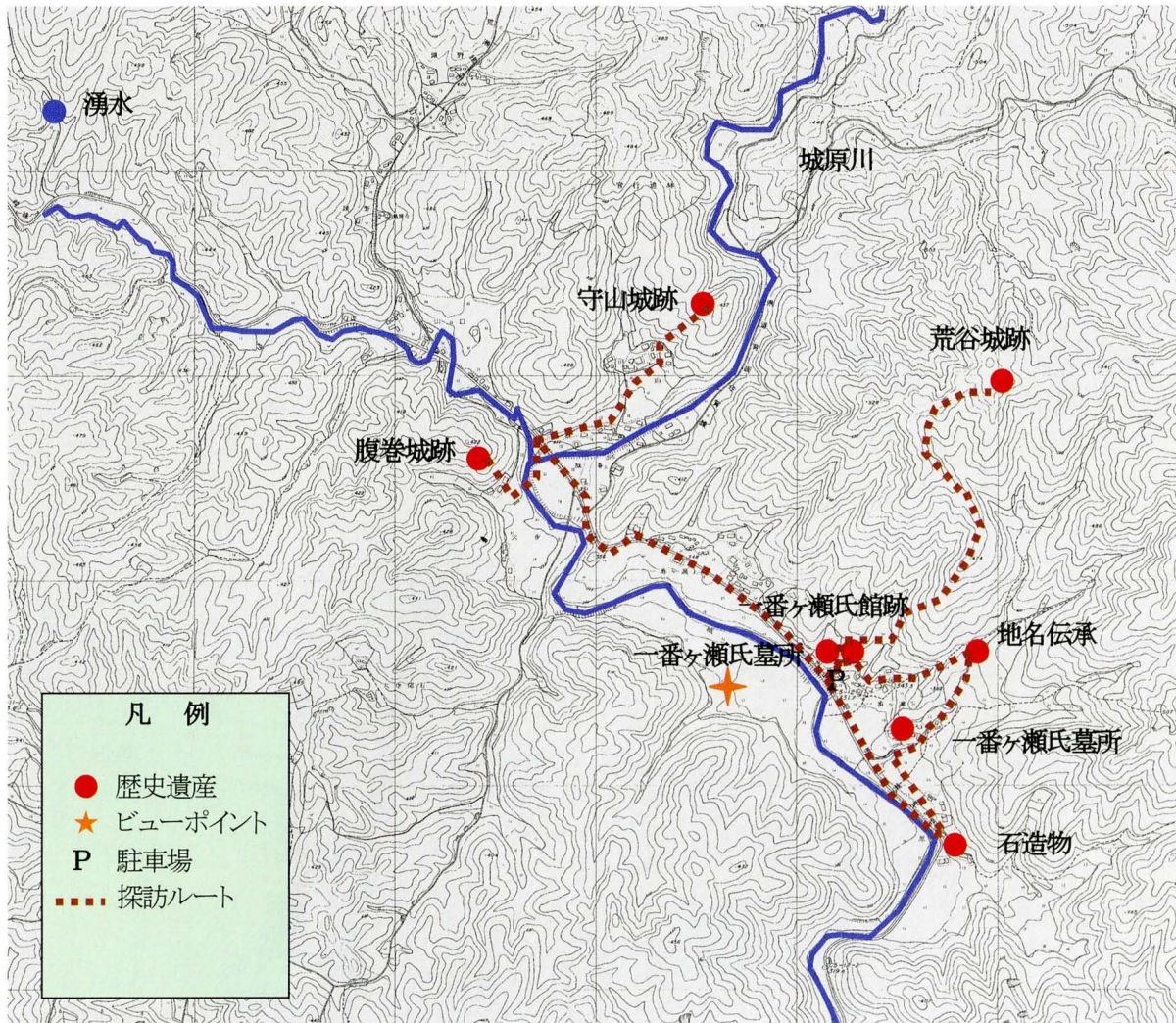
活動の場となる遺産群エリア

「江上氏・少弐氏の居城 勢福寺城跡」

エリア7 勢福寺城跡と城下町







市の南部地区には、堀を廻らした佐賀平野独特の農村集落である「環濠集落」が多く残されています。この環濠集落は、中世の武士・領主による土地開発により形成された、中世「神崎」を語る上で非常に重要な遺産であり景観です。

人々と堀の営みの歴史が見え、中世「神崎」の風景を今に残しています。

ルート設定 例

開発の歴史を物語る遺産群です。

「櫛田宮と土地開発 環濠集落の成り立ち」

「武士・領主と低平地城館跡」

活動の場となる遺産群エリア

エリア10 「櫛田宮と神崎宿」

エリア11 「環濠集落と低平地城館跡」

取り組みの方向

- 1 中世武士社会と土地開発の歴史を伝えていきます。

講座や見学会・探訪会などを開催し、環濠集落の重要性を伝えていきます。

- 2 山城跡と一体になった保存・活用を行います。

山城と低平地城館跡が並存する中世「神崎」の保存・活用を図ります。

- 3 環濠集落群の景観を守り活かします。

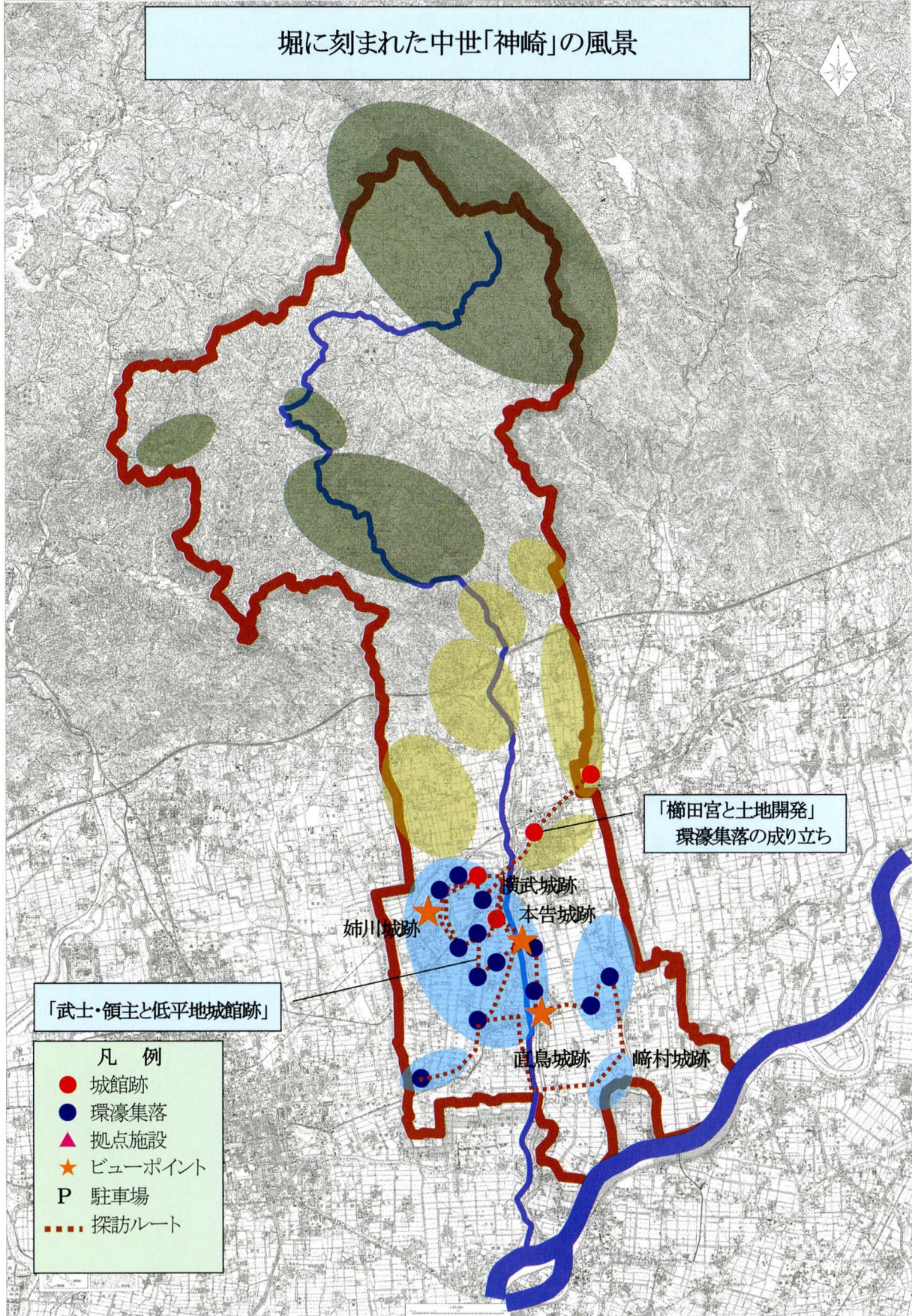
特徴的な堀を廻らす環濠集落を歴史的景観と位置づけ、神崎の誇れる歴史景観を活かしたまちづくりを目指します。

城館跡の学術調査を計画的に行い、その内容を検証し、山城と低平地城館跡が並存する中世「神崎」の保存・活用を図ります。

- 3 環濠集落群の景観を守り活かします。

特徴的な堀を廻らす環濠集落を歴史的景観と位置づけ、神崎の誇れる歴史景観を活かしたまちづくりを目指します。

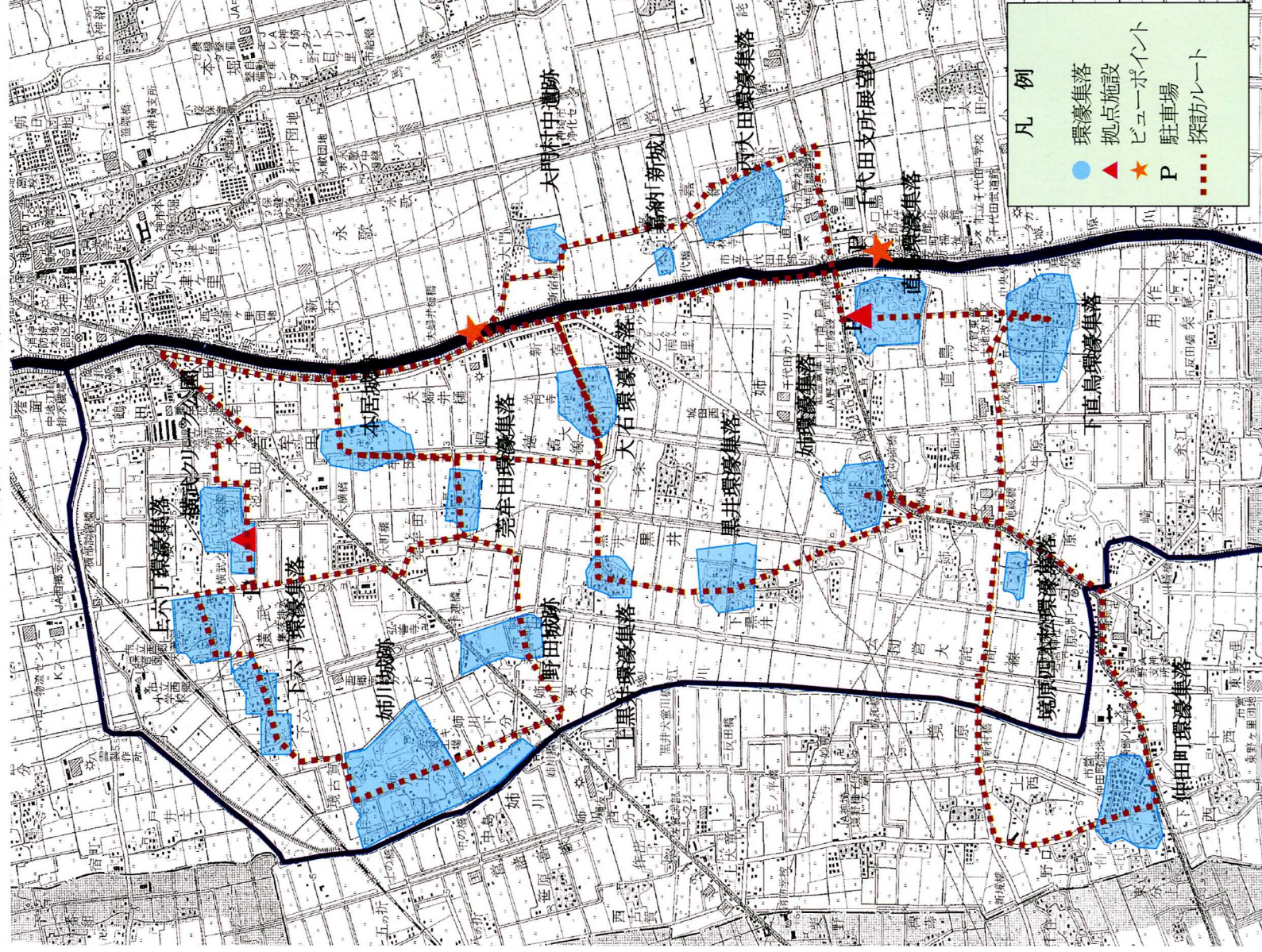
堀に刻まれた中世「神崎」の風景



活動の場となる遺産群エリア

「武士領主と低平地城館跡」

エリア11 環濠集落と低平地城館跡



江戸時代に設けられた長崎街道は、現在の神埼市の中心市街地を東西に走っています。沿線には、神埼宿・新宿・境原宿の3つの宿場が形成されていました。長崎街道沿いに唯一残る築山状のひのはしら一里塚や佐賀市境には国境石が残されています。約1,000戸の町並みであった神埼宿には、本陣・脇本陣・問屋場・木戸が設けられ、神社・仏閣が非常に多い町並みと記録されています。境原宿は、河川を利用した水上交通の要所として栄えていました。

江戸期の町並みは大きく変わっていますが、明治～昭和初期の建造物が多く存在しており、路地や河川・水路などとともに当時の雰囲気を残しています。

ルート設定 例

「シーボルトも通った長崎街道」

「1,000戸の町並み神埼宿」

「水上交通の要所 境原宿」

活動の場となる遺産群エリア

エリア10 「櫛田宮と神埼宿」

エリア13 「貴別当神社と境原宿」

市全体 「古代官道・長崎街道・脊振往還」

取り組みの方向

- 1 長崎街道と宿場町の遺産を伝えていきます。

講座や見学会・探訪会などを開催し、長崎街道と宿場町の歴史を伝えていきます。

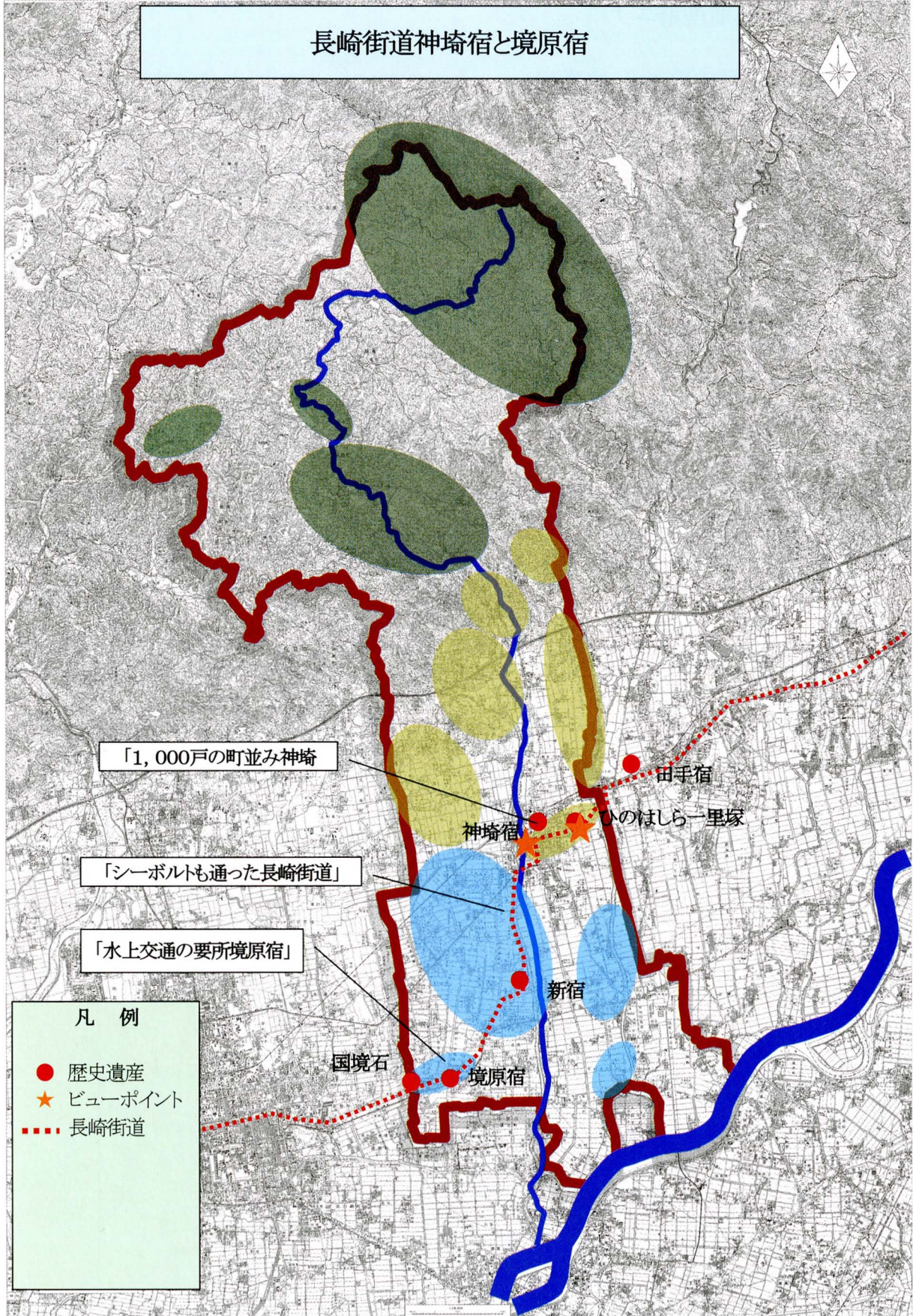
- 2 歴史的建造物・景観を守り活かします。

現在残る歴史的建造物と町並みや河川沿いの佇まいを活かし、新たな視点に立ったまちづくりを進めていきます。

- 3 中心市街地の活性化を図ります。

歴史的遺産を活かした新たな視点のまちづくりを進め、歴史的建造物や空き家建物を活かした、人の行き交う仕掛けづくりにより活性化を図ります。

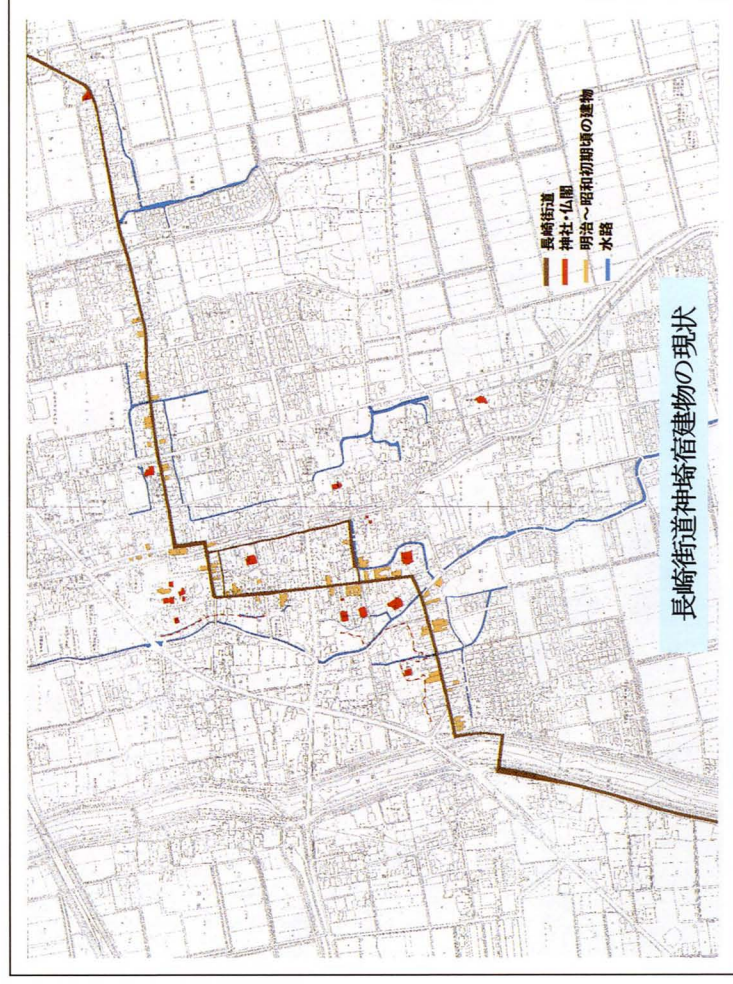
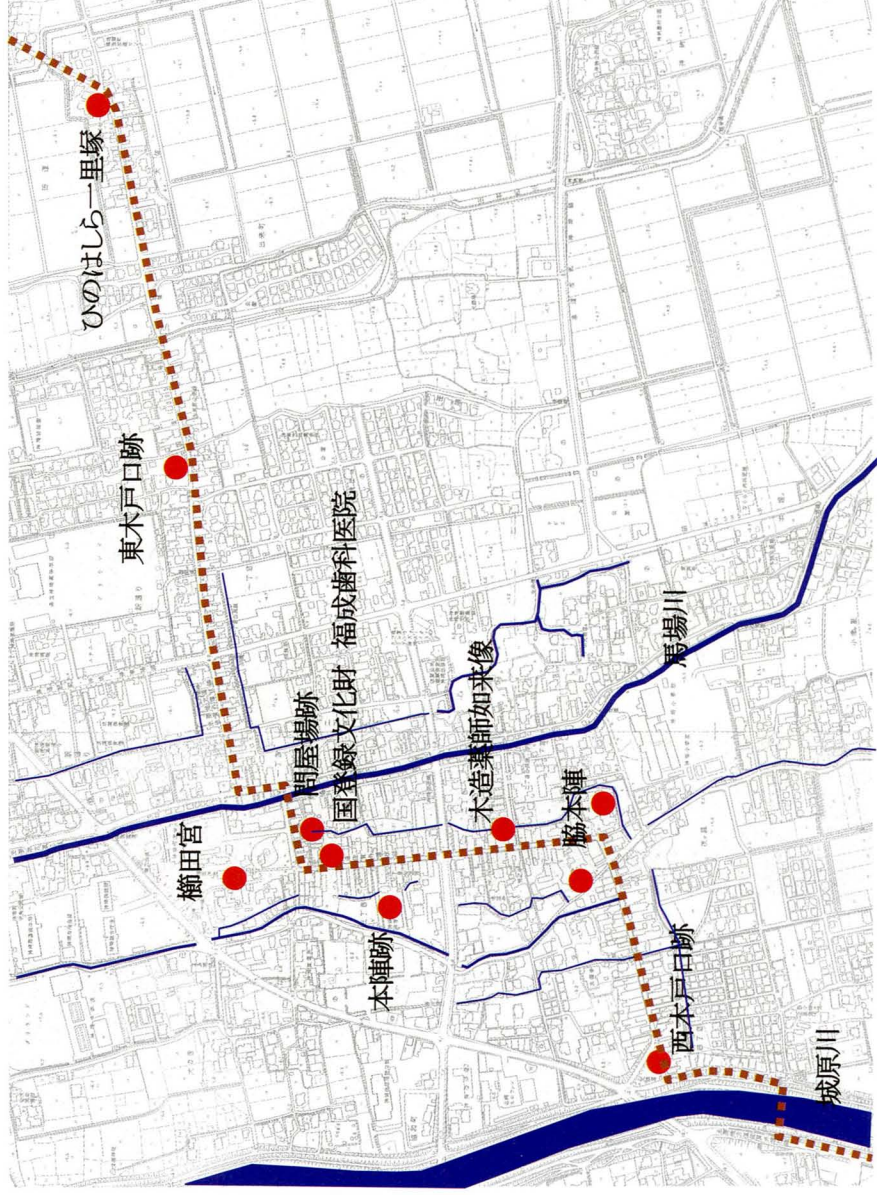
長崎街道神崎宿と境原宿



活動の場となる遺産群エリア

「1,000戸の町並み神崎宿」

エリア10 櫛田宮と長崎街道神崎宿



「水上交通の要所 境原宿」

エリア13 貴別当神社と境原宿



幕末から明治初期の佐賀藩は、日本の近代化に大きな役割を担っています。神埼には、この佐賀藩の近代化遺産や明治・大正期の神埼の近代化を物語る多くの遺産が残されています。

日の隈山を的場とした砲術訓練場、城原川の水と地形を活かした水力発電所と電力供給、佐賀平野の農村景観を形成していた櫨の木と製蠟業、大正期には旧古賀銀行などの支店もおかれました。

ルート設定 例

「幕末佐賀の砲術訓練場 岩田台場跡」

「九州最古の現役水力発電所」

「神埼の製蠟業と金融業」

活動の場となる遺産群エリア

エリア 4 「脊振溪谷と水力発電所」

エリア 5 「歴史と自然が息づく仁比山」

エリア 9 「地名起源を伝える尾崎地区」

エリア10 「櫨田宮と長崎街道神埼宿」

取り組みの方向

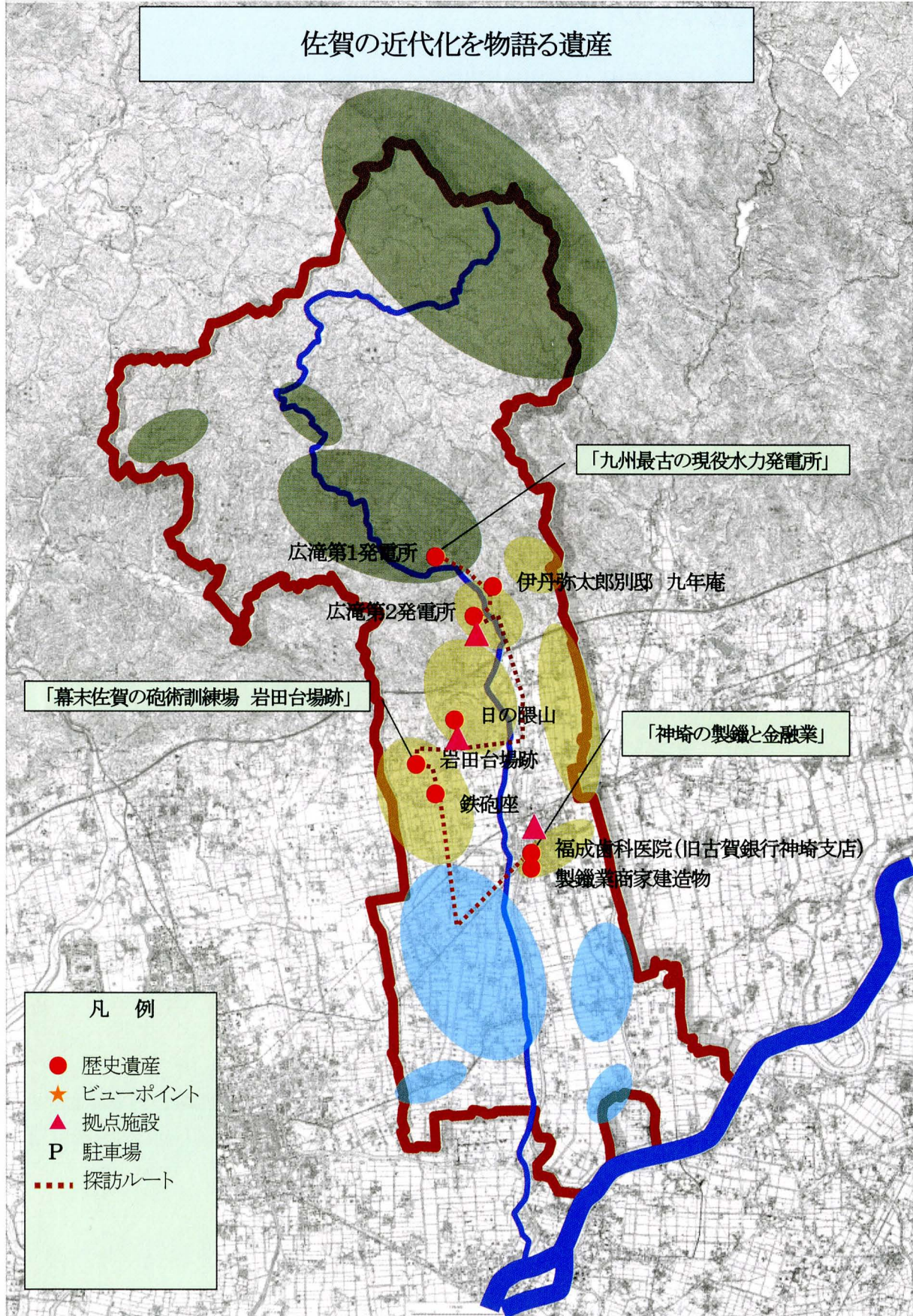
- 1 佐賀の近代化の歴史を伝えていきます。

講座や見学会・探訪会などを開催し、日本をリードした佐賀の近代化とその遺産を伝えていきます。

- 2 現存する近代化遺産を守って活きます。

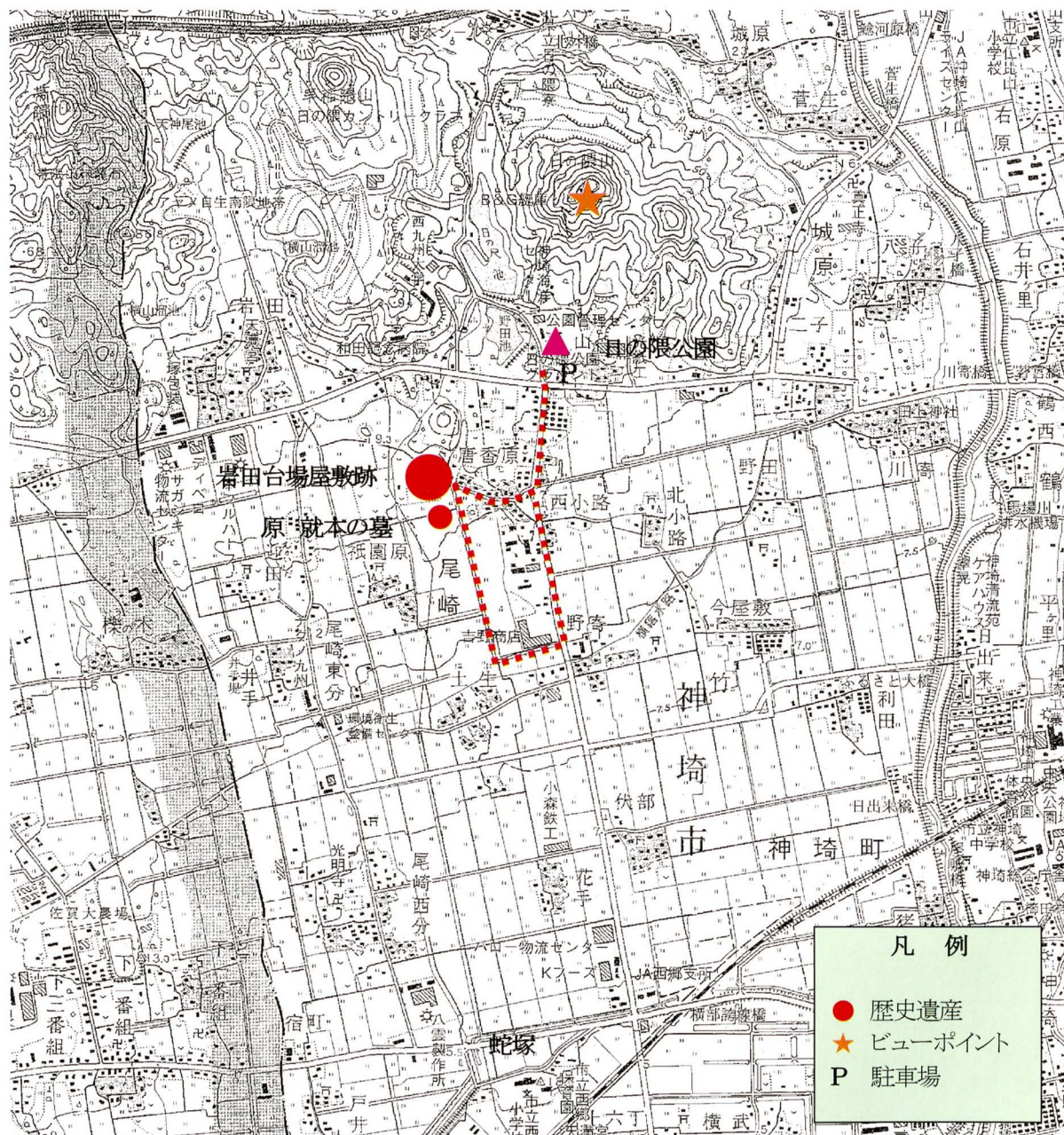
現存する近代化遺産について、検証・調整を充分行い、その保存を図ります。

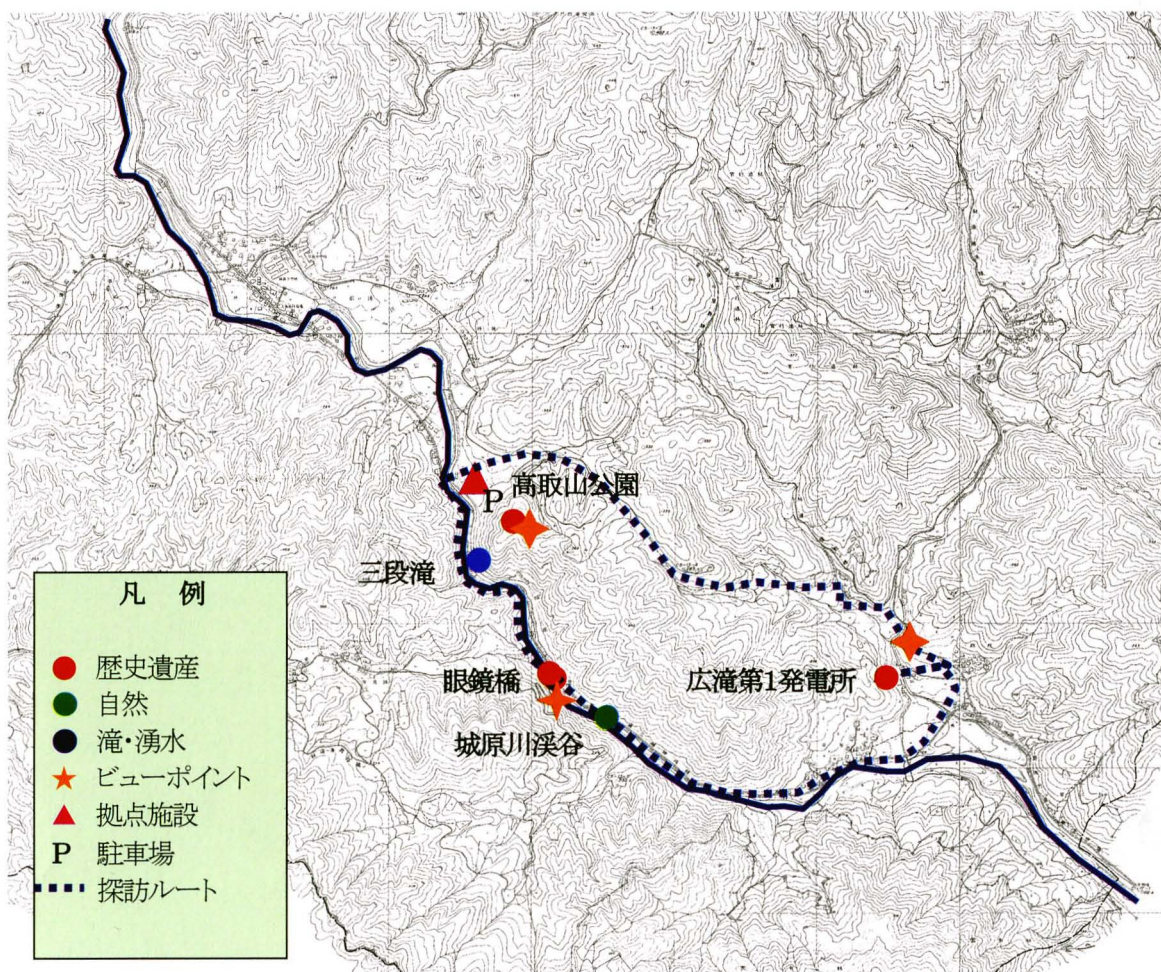
佐賀の近代化を物語る遺産

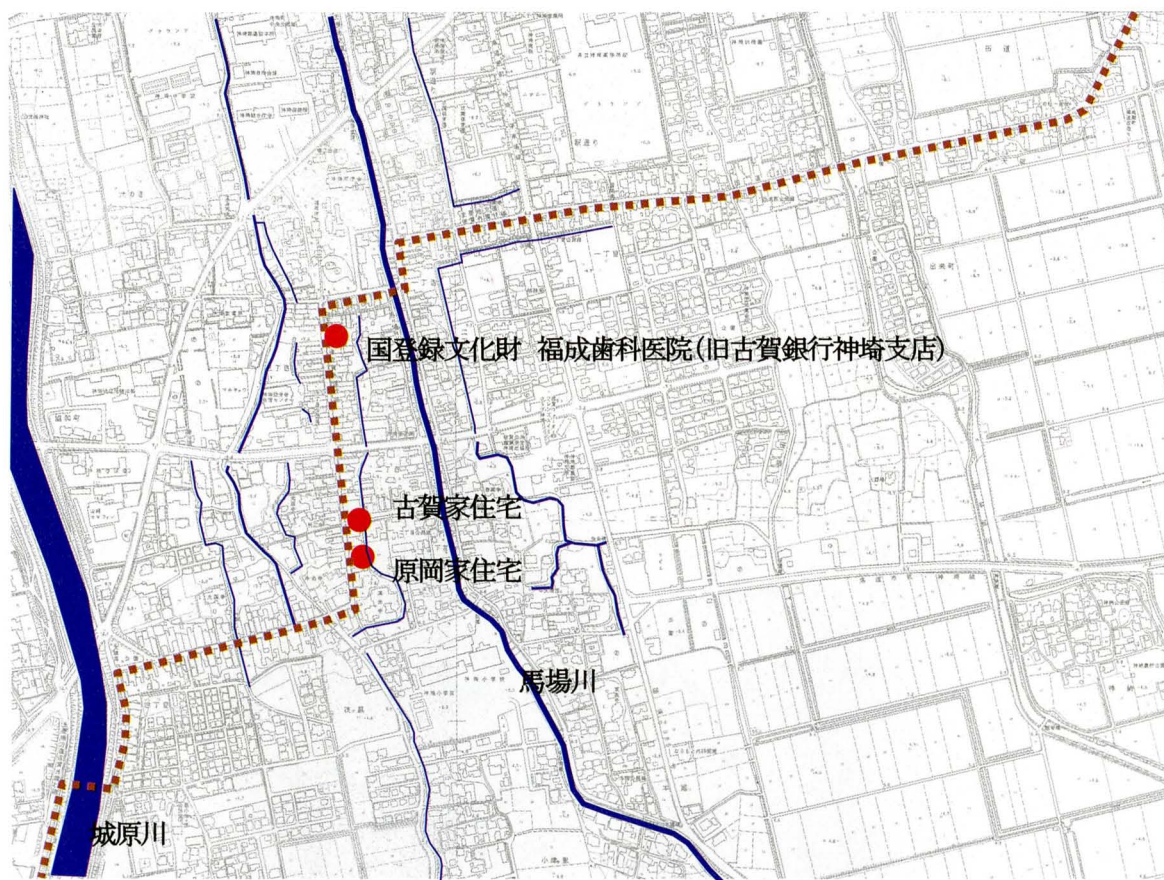


活動の場となる遺産群エリア

「幕末佐賀の砲術訓練場 岩田台場跡」 エリア9 地名起源を伝える尾崎地区







神埼市内には、「的」「曾根」や「里」が付く地名などが残され、現在に息づいています。この地名は、集落や地域の成り立ちと人の活動の情報を今に伝える貴重な遺産となります。また、地域には、その地区や土地の所有者の中で使われる「シヨ名」も存在しています。現存する有形の遺産と無形の地名遺産を結びつけ、より魅力的な神埼の歴史物語が生まれます。

ルート設定 例

「歴史を伝え、現代に息づく地名」

活動の場となる遺産群エリア

全エリアを対象とします。

取り組みの方向

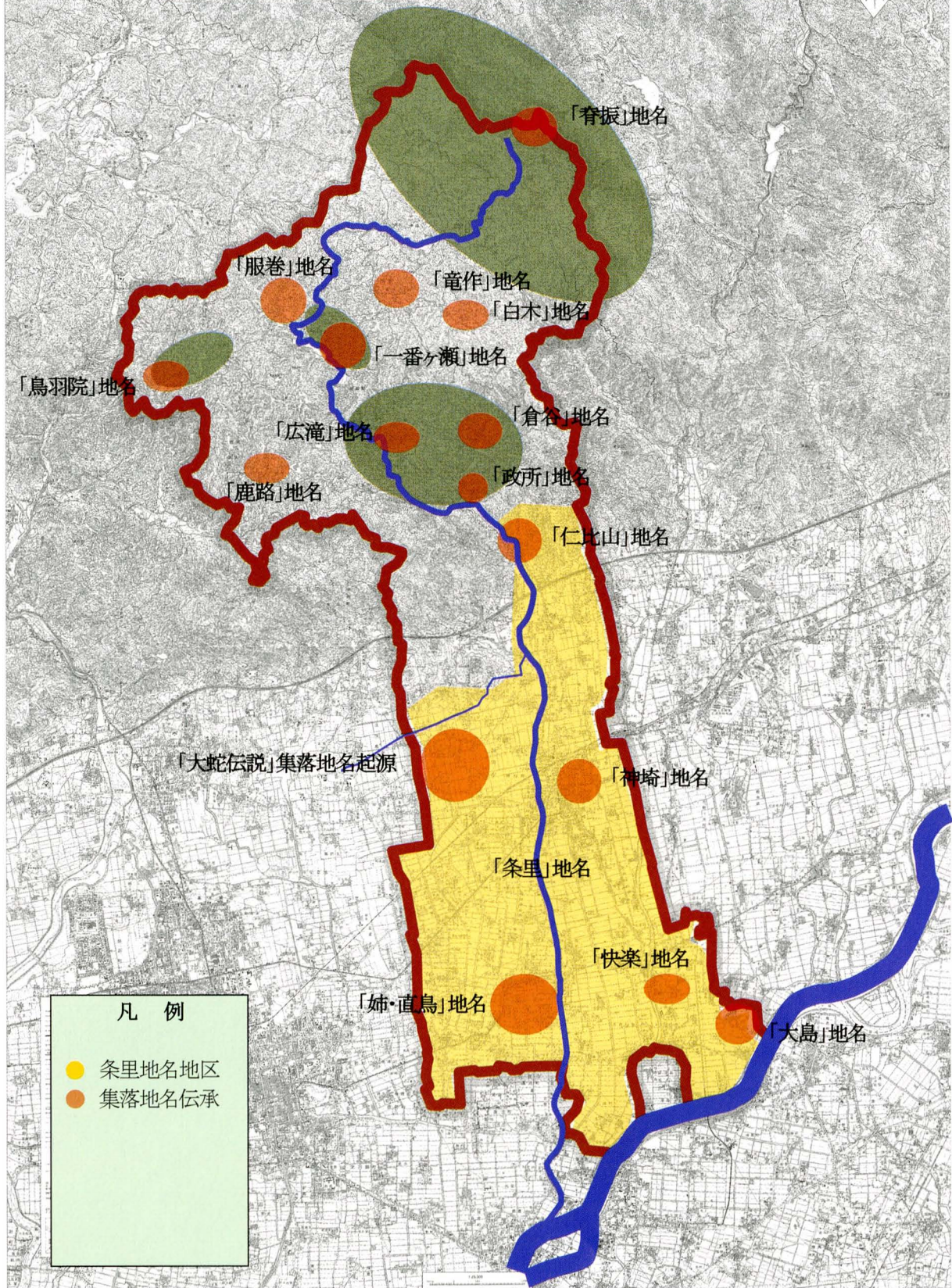
- 1 地名の掘り起こしを行い、伝えていきます。

詳細な地名調査を行い、旧土地地割と地名により神埼の歴史を掘り起こします。

- 2 地域の歴史を表現する地名を活かしていきます。

神埼市は、歴史地名が行政地名として息づいています。これからも、神埼の歴史を表現する歴史地名を守り・活かしていきます。

神埼の歴史地名



市内各地域には、人々の生活に密接に関係した伝統芸能・年中行事・昔話などの民俗文化財や石仏などの信仰遺産が数多く存在しています。これらの遺産は、生産活動の準備と恵みに感謝して行われる祭りや行事、災いや祟りなどを鎮め祀られる道端に佇む石仏や祠など、自然との共生と地域住民の連帯と高めるため、長い間大人から子供へ受継がれてきた地域の財産です。

ルート設定 例

「神埼の民俗芸能」

「神埼の昔話・伝承」

「神埼の年中行事」

「神埼の民間信仰」

「神埼の農山村の生活」

「神埼の伝統産業」

活動の場となる遺産群エリア

全エリアを対象とします。

取り組みの方向

- 1 民俗文化財の掘り起こしを進めていきます。

詳細な調査を行い、伝承と復興に積極的に取り組みを展開します。

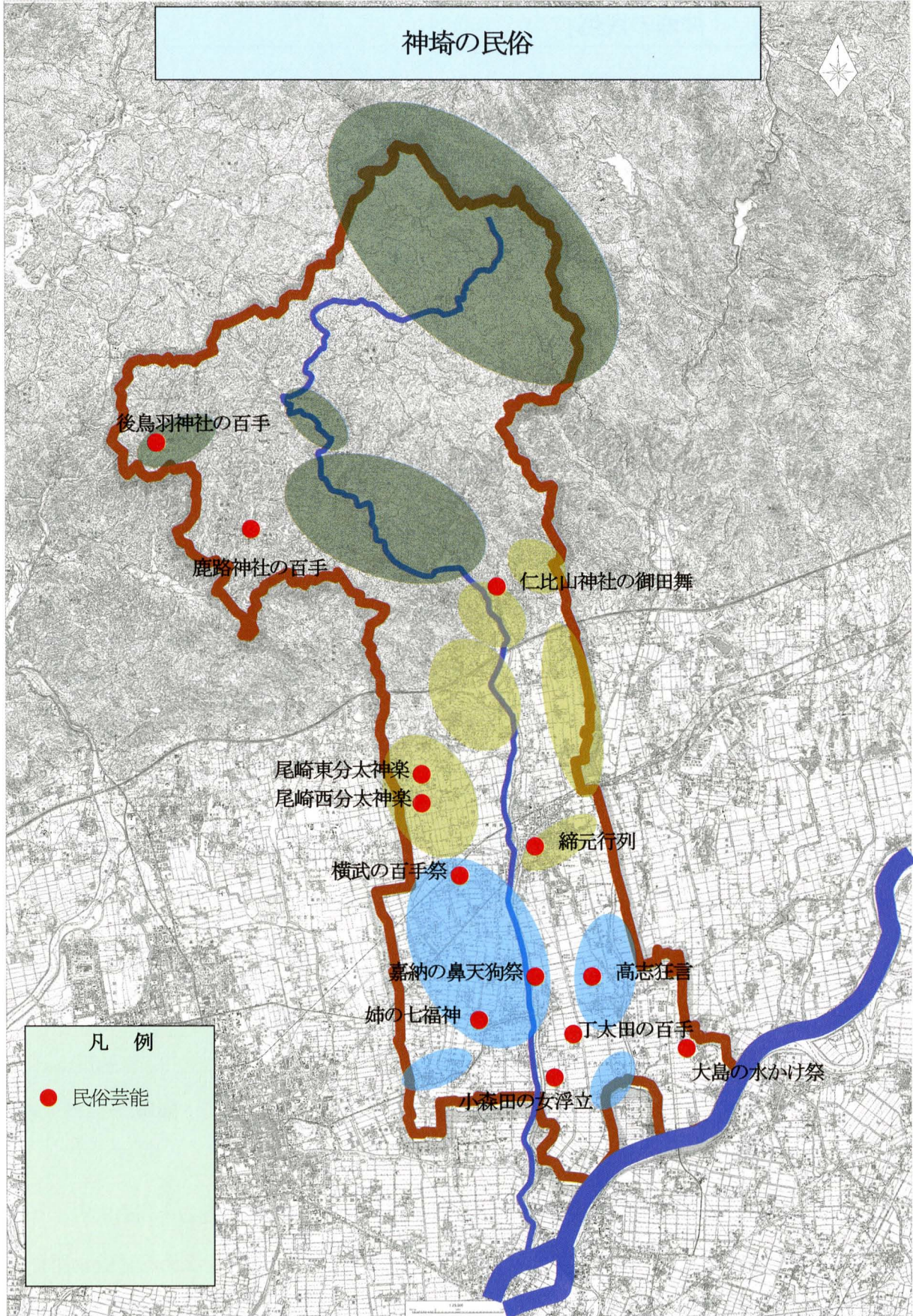
- 2 伝承を進めるための、支援や仕組づくりを行います。

伝承のための組織や後継者育成の仕組づくりを市民とともに考え、地域コミュニティを高め、地域おこしの資源として活かします。

- 3 昔話や伝承などと有形の遺産・地域の景観など連携した、地域の魅力を高めます。

無形の遺産と有形の遺産・景観を連携した、地域の誇りと魅力を高める歴史物語を展開していきます。

神埼の民俗



神埼には、3本の歴史的な道が走っています。奈良時代の大宰府から肥前国に至る古代官道（西海道）、江戸時代の小倉から長崎に至る長崎街道、神埼宿から筑前に至る脊振往還があります。当時の主要道路として、文化が伝わり物資が運ばれてきました。

ルート設定 例

- 「古代官道・西海道を行く」
- 「修行と信仰の道」
- 「西洋文化が行き交った長崎街道」
- 「肥前国神埼から筑前へ」

活動の場となる遺産群エリア

エリア12 「神埼の歴史の道」と周辺のエリア

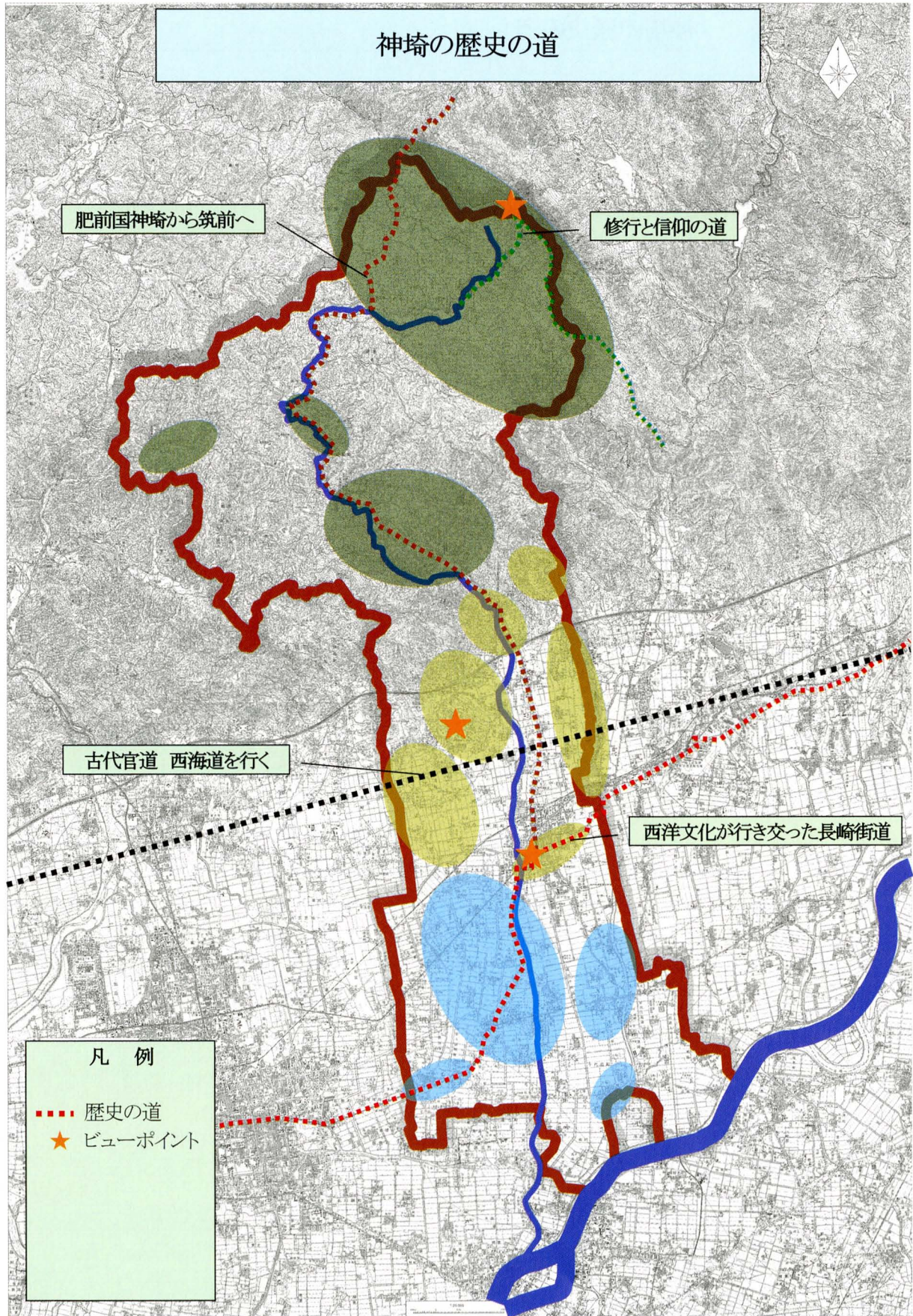
取り組みの方向

- 1 歴史の道による人の活動の歴史を伝えます。

歴史の道を通った人物や文化が伝わった、歴史物語の掘り起こしを行います。

- 2 歴史の道の保存を推進します。

当時の道路が残る地域について、その保全を図り周辺のエリアと連携した取り組み図ります。



脊振山に発し神崎市を南北に流れる城原川は、神埼の歴史を知るうえで非常に重要な河川です。時には、人々に被害を及ぼし、治水と利水の仕組を長い年月の中で作り上げてきました。市内を流れる小河川や水路は、城原川より導かれ広大な農地を潤し、有明海からの船による物流機能も持っていました。

ルート設定 例

「神埼を育てた城原川」

「城原川の用水と治水」

活動の場となる遺産群エリア

エリア15 「神埼の源 城原川」

取り組みの方向

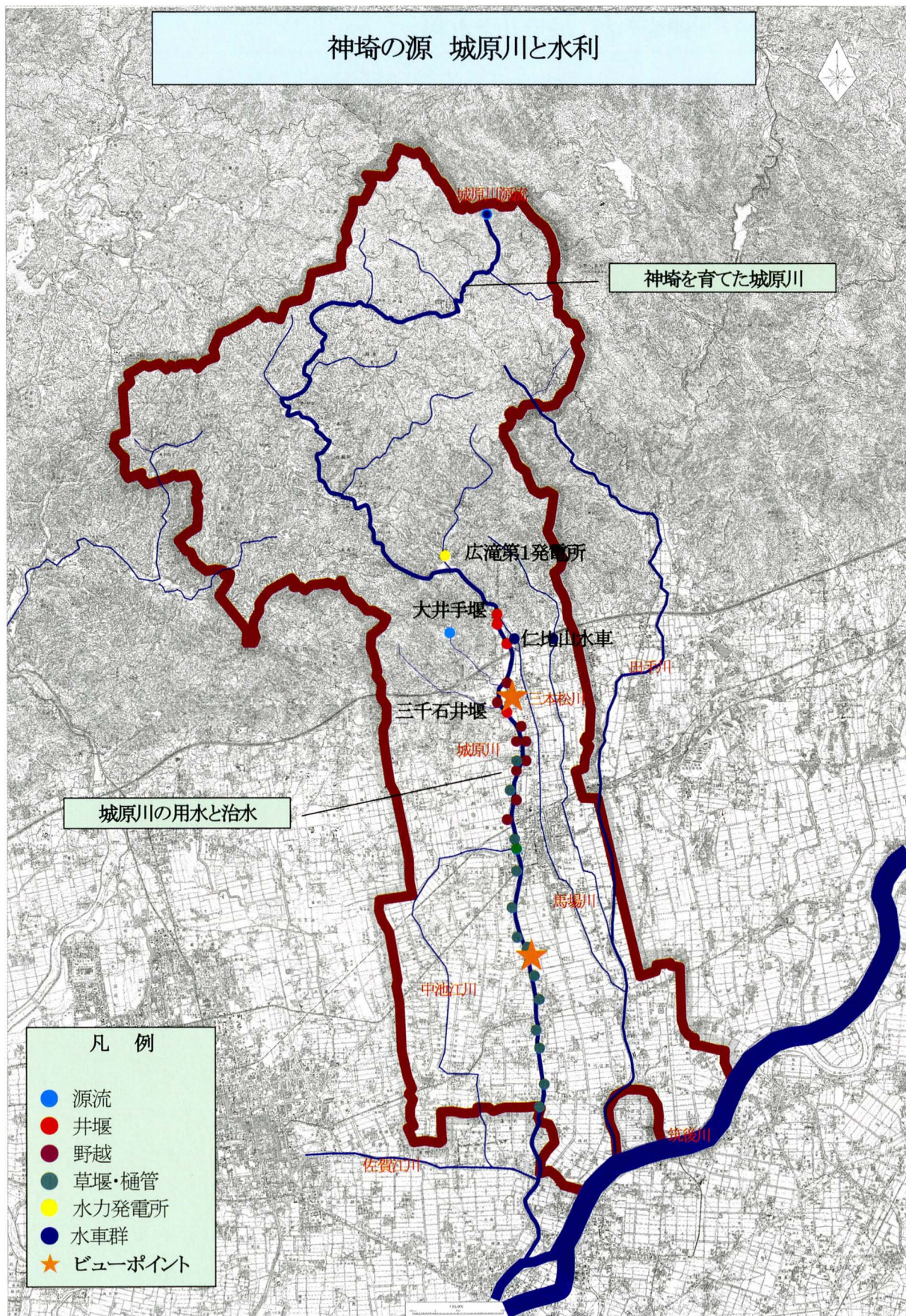
- 1 歴史を育てた城原川の歴史を伝えます。

水が生まれる脊振山と水利用の歴史を調査・検証し、流域の歴史文化遺産群エリアと結び付けた歴史を伝えて行きます。

- 2 城原川と堤防から見る景観を守り育てていきます。

上流部の自然・段丘・溪谷などの景観と下流域の堤防上から望む景観を、市民とともに育てるまちづくりを目指していきます。

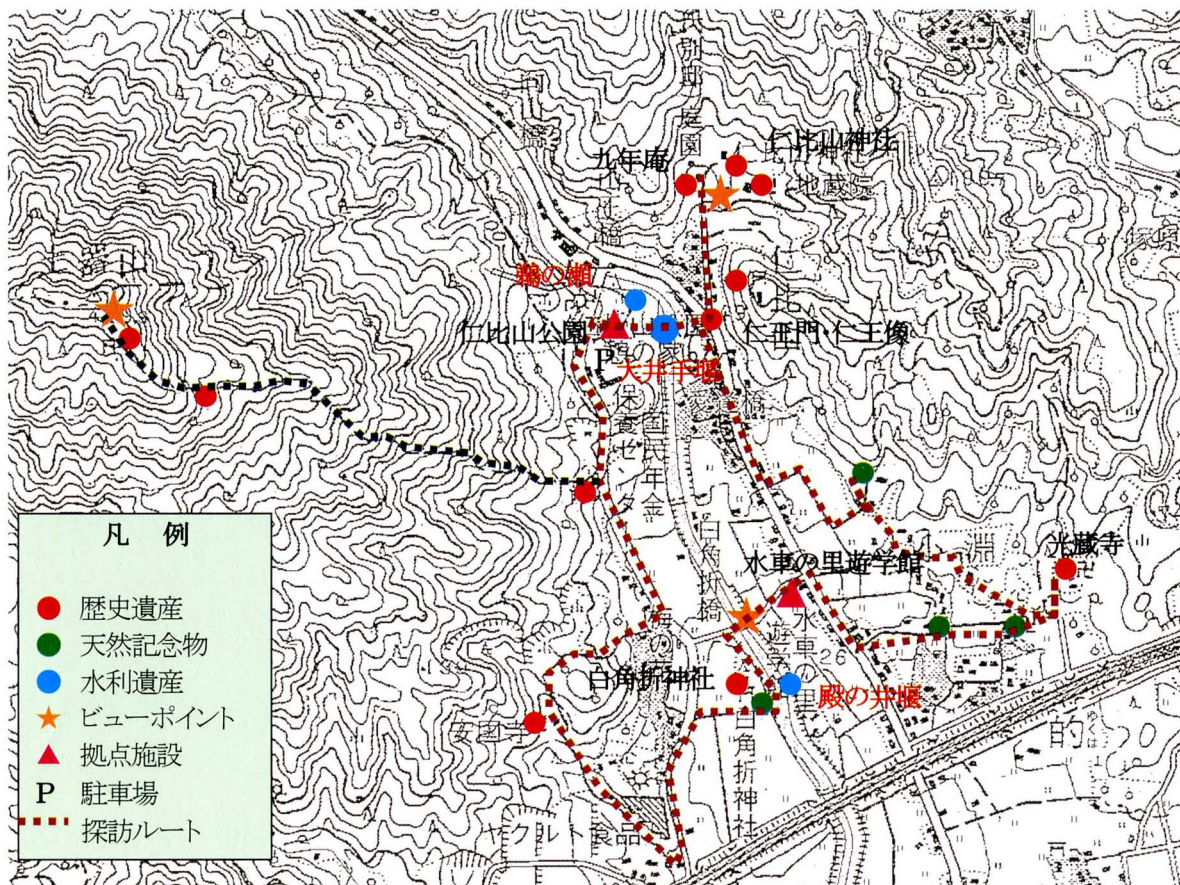
神埼の源 城原川と水利



活動の場となる遺産群エリア

「城原川の用水と治水」

エリア5 歴史と自然が息づく仁比山



幕末の蘭学者・医者で、我が国の西洋医学の先駆者である「伊東玄朴」、大正から昭和に活躍した文学者「吉田絃次郎」、次郎物語の作者で教育者である「下村湖人」、教育者、哲学者である「大倉邦彦」をはじめ、神埼からは近代日本をリードした人材が生まれています。この偉人たちは、地元神埼並びに多くの人たちに支えながら育てられ、その才能を開花させていきます。また、工業や行政関係の業績を持つ人材も多く、人材が地元神埼で活躍しています。

ルート設定 例

「日本の近代化をリードした神埼の偉人たち」

「神埼を支えた偉人たち」

「教育と文学の先駆者たち」

活動の場となる遺産群エリア

全エリアを対象とします。

取り組みの方向

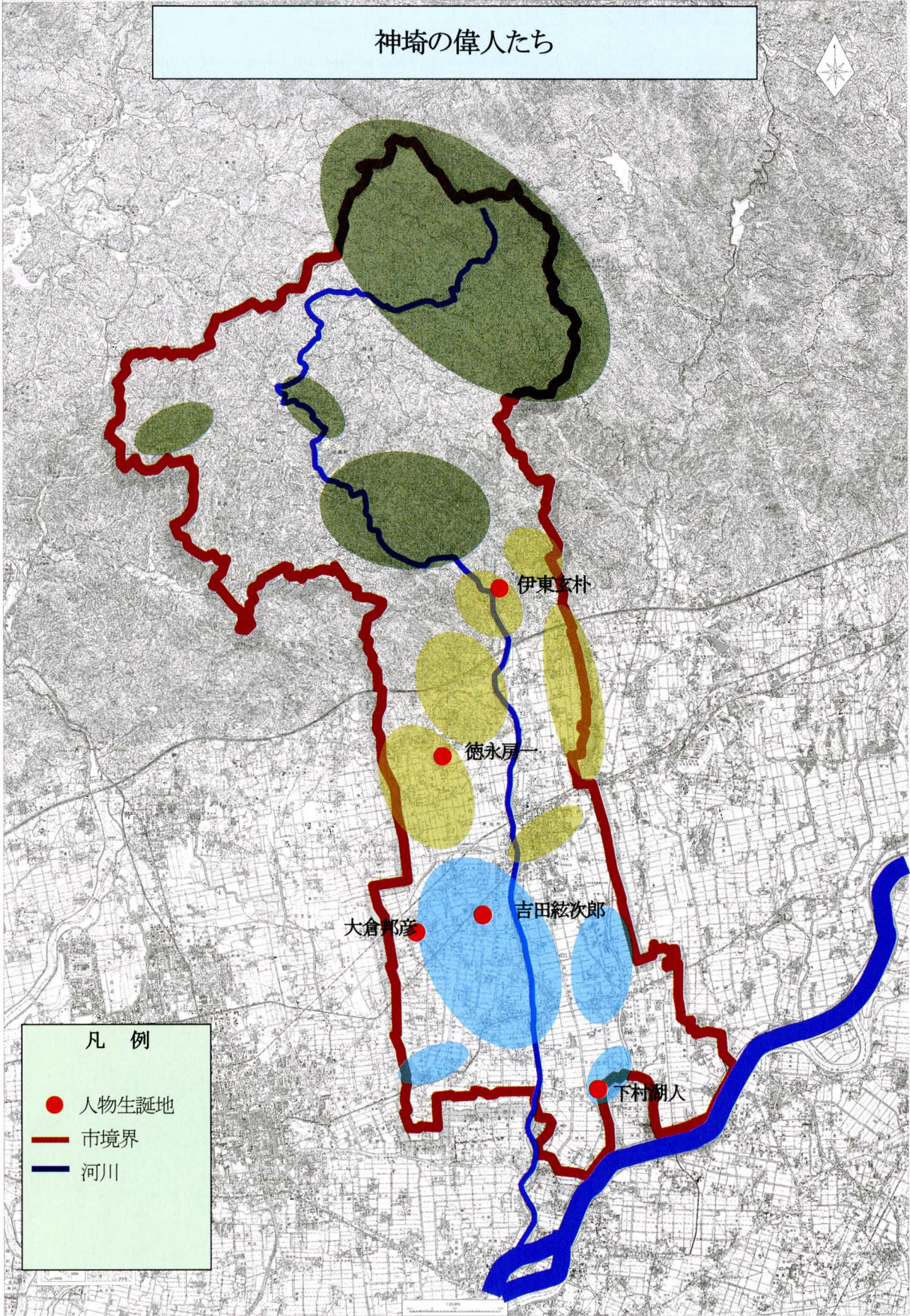
- 1 郷土に生まれた偉人たちの業績を伝えて行きます。

各方面で活躍した、郷土出身の人物に焦点を当て、まちづくりを担う人を育てていきます。

- 2 神埼の発展に尽力した地域の人物を掘り起こし、地域の活力とします。

教育や行政・産業など、神埼の発展に尽力した人物の業績を掘り起こし、神埼の歴史遺産として顕彰していきます。

神埼の偉人たち

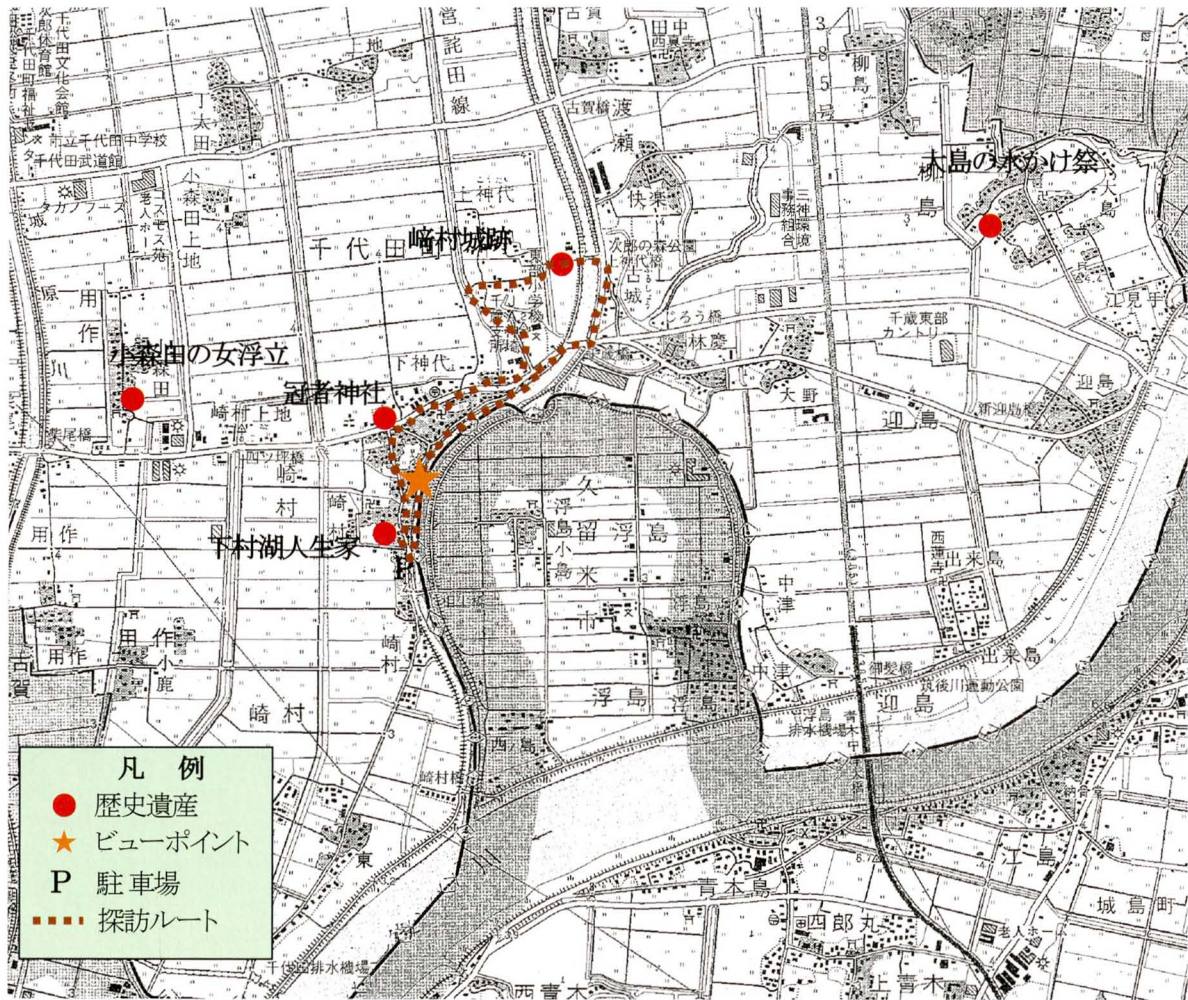


活動の場となる遺産群エリア

「教育と文学の先駆者たち」

エリア14

崎村と下村湖人生家



市内には、背振・北山県立自然公園、川上・金立県立自然公園があります。脊振山は、ブナ・シイ・杉の自然林が残され、神埼市の中で最も自然豊かな地域で、四季折々の姿を見ることができま
す。脊振山を源流とする城原川は、上流部に溪谷・段丘が形成され、溪流に住むサンショウウオや
山女などが生息しています。下流部では、希少種であるニッポンバラタナゴやオヤニラミ・ヤマノカ
ミなどが生息しています。また、南部地区の河川や堀には、オグラコウホネやアサザ・タヌキモなど
の希少水草の群落が見られます。

ルート設定 例

「水を育てる脊振山の自然と動植物」

「城原川の生き物」

「堀の動植物」

活動の場となる遺産群エリア

エリア 1 「城原川源流と脊振山岳信仰遺跡群」

エリア 4 「脊振溪谷と水力発電」

エリア11 「環濠集落と低平地城館跡」

エリア15 「神埼の源 城原川」

取り組みの方向

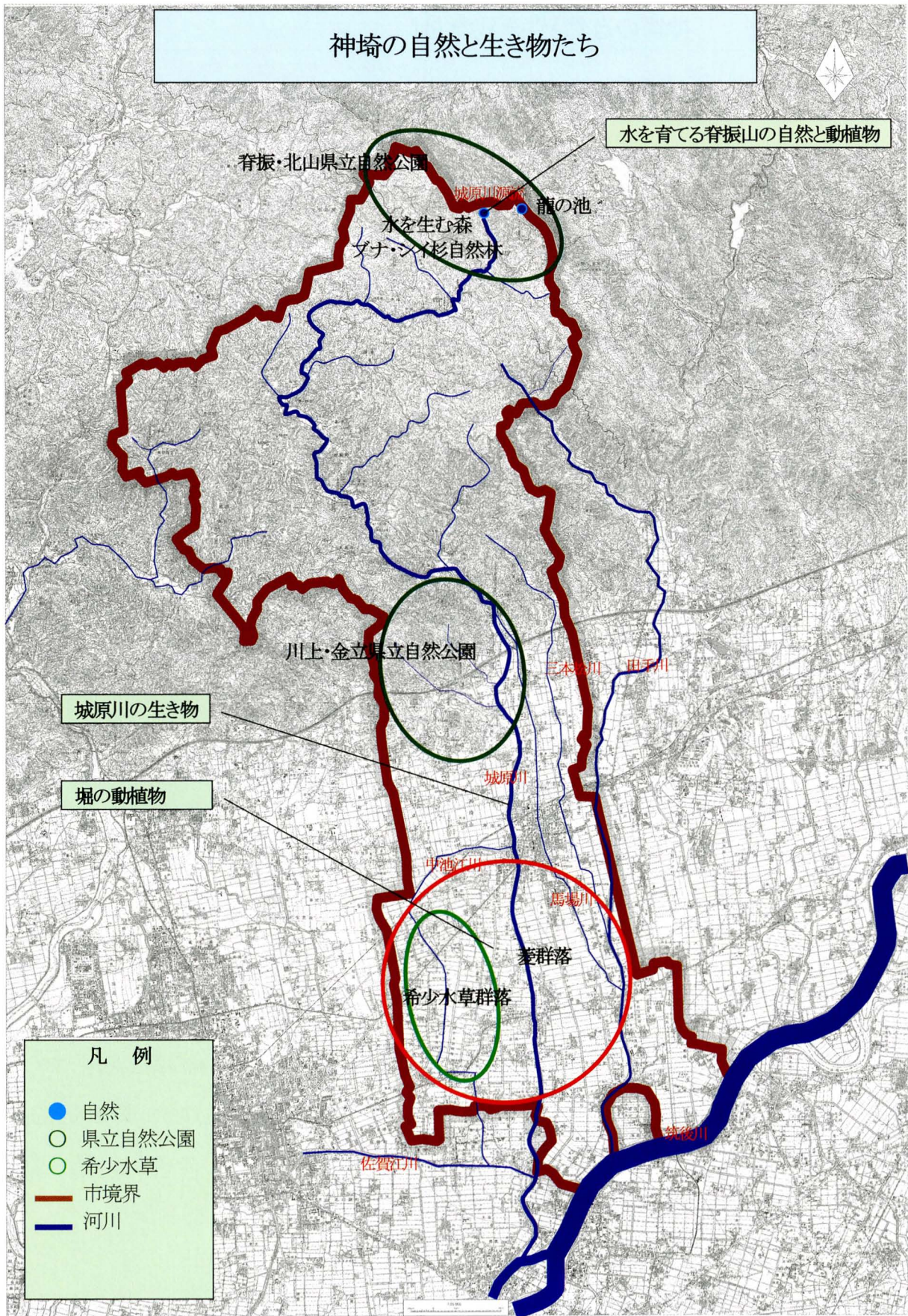
1 神埼の自然と動植物を守り伝えます。

水が生まれる脊振山の自然や城原川など水辺の生き物を保全し伝えて行きます。

2 「水と人と歴史がおりなす神埼」のまちづくりのため、豊かな自然環境の保全を図ります。

神埼の魅力である水環境を守り育てるため、歴史と自然が一体となった環境保全を推
進します。

神埼の自然と生き物たち



城原川の生き物

堀の動植物

- 凡 例
- 自然
 - 県立自然公園
 - 希少水草
 - 市境界
 - 河川

歴史は、地域の自然や風土などとともに形成され、人々の生活空間で受継がれています。歴史を体感するためには、周辺の景観や、なぜそこにあるのかを知ることも重要な視点となります。

このため、神埼の歴史や自然また人々の生活の佇まいが望める眺望・景観を配置し、神埼の歴史を表現していきます。

ルート設定 例

「神埼を望む雄大な眺望」

「歴史と人の佇まいを感じる」

活動の場となる遺産群エリア

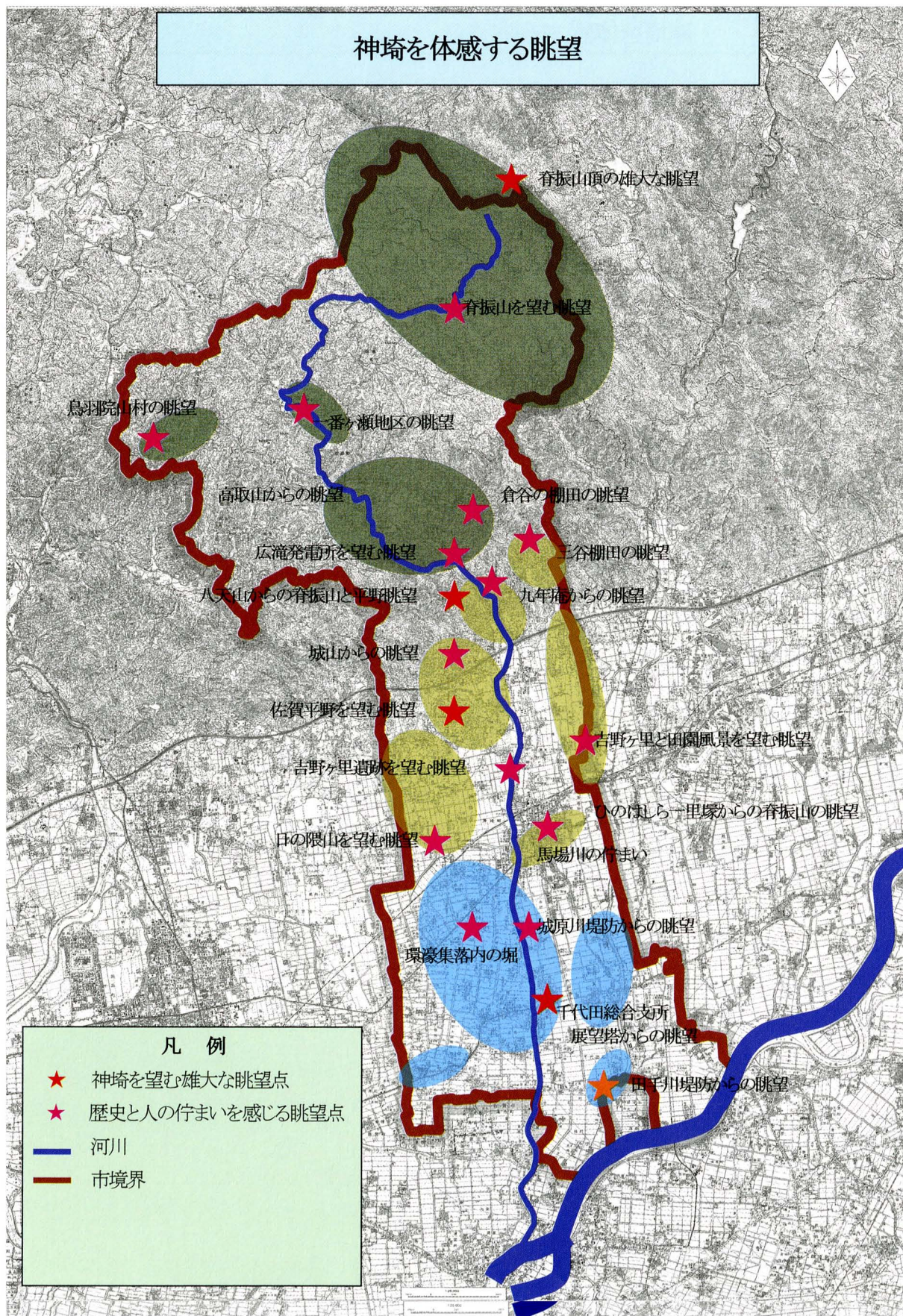
全エリアを対象とします。

取り組みの方向

- 1 神埼を体感できる眺望を育てます。

神埼の歴史と自然を体感することのできる、眺望地点を設定した神埼の歴史のまちづくりを進めます。

神埼を体感する眺望



參考資料

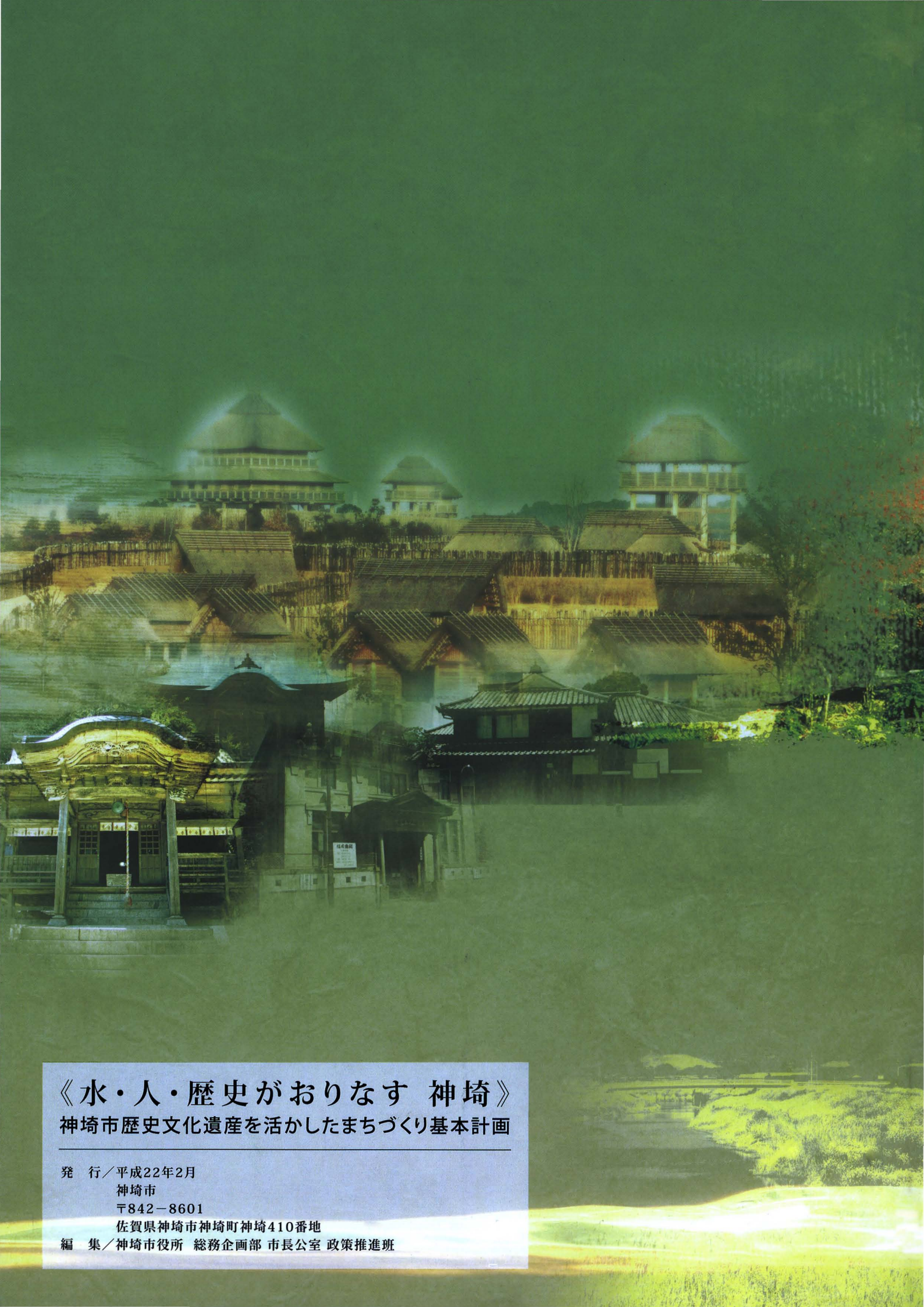
神崎市歴史文化遺産を活かしたまちづくり基本計画策定委員会の経緯

	開催日	検討内容
第1回	平成21年 5月11日	委嘱状交付 基本計画策定の方針と素案について審議
第2回	平成21年 6月12日	基本計画の考え方・方向性について審議
第3回	平成21年 7月24日	現地視察
第4回	平成21年 8月19日	歴史文化遺産群エリア 基本計画の全体構成について審議
第5回	平成21年10月 1日	歴史文化遺産群エリア位置づけ まちづくりの方向性について審議
第6回	平成21年11月 9日	第1部・第2部の構成等について審議
第7回	平成21年12月 1日	第1部 まちづくりの将来像 第2部 まちづくり計画の審議
第8回	平成21年12月24日	第2部 まちづくり計画の審議
第9回	平成22年 1月25日	計画書全体確認
第10回	平成22年 2月25日	答申

神崎市歴史文化遺産を活かしたまちづくり基本計画策定委員会委員構成

◎高 島 忠 平	佐賀女子短期大学学長
平 山 宏	神崎郷土研究会会長
藤 永 正 弘	千代田アサザの会会長
宮 島 敬 一	佐賀大学経済学部教授
宮 地 武 彦	佐賀民話の会会長
五十嵐 勉	佐賀大学農学部准教授
森 周 蔵	西九州大学講師
山 口 美由起	みゆき設計事務所
島 富士男	神崎町観光協会会長
田 中 道 昭	元脊振村史編纂委員
倉 谷 勝 英	神崎市区長会代表
富 永 数 馬	神崎町の地区区長
北 川 信 幸	下村湖人生家館長
七 田 忠 昭	佐賀県教育庁社会教育・文化財課 参事
井 村 久 行	国営吉野ヶ里歴史公園事務所 所長

◎委員長



《水・人・歴史がおりなす 神埼》
神埼市歴史文化遺産を活かしたまちづくり基本計画

発行／平成22年2月

神埼市

〒842-8601

佐賀県神埼市神埼町神埼410番地

編集／神埼市役所 総務企画部 市長公室 政策推進班